



社団法人 日本介護福祉士会

介護現場の労働環境改善のための シンポジウムが開催されました

3月15日(日)、東京都墨田区両国のKFC Hall Annexにおいて、社団法人日本介護福祉士会の主催による公開シンポジウム『魅力ある介護の職場を創造するために』が開催された。

第一部は、厚生労働省老健局振興課長・土生栄二氏が「介護報酬改定と制度をめぐる諸課題」介護従事者の処遇改善」と題する講演を行い(第2面に詳述)、第二部はシンポジウムが行われ、シル



バ新報編集長・川名佐貴子氏がコーディネーターをつとめ、4名のシンポジストが登場、それぞれの立場から意見を述べた。



護従事者のSympathy(共感)の大切さについて話した。

株式会社パソナスパークケアワーカー派遣事業部長・田中千世子氏は、「皆様の立場と私の立場は若干違いますが、介護の資格をお持ちの方に当社に登録いただいて、私たちは主に施設に営業に行くのです。社員の方が突然おやめになったような場合に、人材は無理のない提供を通して、少

しずつ認知されてきました。当社には、『自分分は正社員を辞めました。しかし、この業界を離れるのはいやなので』と登録される方も多くいらっしゃいます。介護士の方々がそれぞれの事情で職場を離れたとき、派遣という立場で自らの生き方を問いただす方法もあるのではないかと思います」と述べた。

シンポジウムは、このあと一般参加者もまじえた活発な討論が繰り広げられた。

2月21日(土)、TKP梅田ビジネスセンター(大阪府)において、ファーストステップ研修意見交換会が行われた。これは全国社会福祉協議会の主催により、ファーストステップ研修を実施した日本介護福祉士会都府県支部の担当者や講師が集まり、実施してみた感想や今後の課題等に関する意見、運営に関する情報交換を行い、より良い運営に資することを目的とした会議で、全国より約30名が集まり議論を交わした。

各支部からは、「研修初日と最終日では受講生が見違える程成長しているのが感じ取れた」、「事務作業量は多いが、事務局の力がついたらと思う」、「一回を重

ねる度に受講生同士のネットワークが広がっていった」、「講師の選定や会場の確保に苦労した」、「受講料を安くし、受講の窓口を広げたいが、経費を考えるとやむを得ない」、「テキストがあれは全国統一の水準で研修を行えるのではないかと」、「修了した方への追跡調査を継続的に行っていくべきである」、「今以上にこの研修が認知されるよう活動していきたい」といった意見が聞かれた。

また、認知症介護実践リーダー研修との読み替えについて、社会保障審議会介護給付費分科会委員でもある田中雅子名誉会長より、「都道府県もしくは市町村の判断により、ファーストステップ研修が

認知症介護実践リーダー研修のカリキュラム又はその一部であると認められれば、読み替えることが可能である」といった内容の回答を、分科会の中で厚生労働省の認知症対策室長より得ていることの説明があり、石橋真二会長からも、ファーストステップ研修普及のためにも、今後各支部において積極的に働きかけを行っていただくことも、日本介護福祉士会としても、ファーストステップ研修修了者が加算要件の対象となるよう国に対して働きかけを行っていきたいとの発言があった。

平成21年4月の介護保険改定 Q&Aが出される

平成21年3月23日に厚生労働省老健局より、平成21年4月の介護保険改定に関するQ&Aが通知された。

今回のQ&Aは、平成21年4月の介護保険改定について、全127問で構成されており、これまで厚生労働省に質問があった事項を中心にまとめられ

る。なお、指導監督業務等の標準化のため、既出のQ&Aを整理する必要性が指摘されており、今回のQ&Aでは訪問介護と通所介護について、過去のQ&Aとの間で整理を行って

についても、順次整理を行う予定であるとしている。関係するQ&Aについては一部抜粋して2面に掲載している。

詳細については厚生労働省のホームページ(Url: www.mhlw.go.jp)を参照。

日本介護福祉士会役員の動き (H21.2/1~3/31・抜粋)

- 2/5 常任理事会開催
- 2/13 生涯研修制度検討委員会・組織強化委員会開催
- 2/21 ファーストステップ意見交換会に石橋真二会長、田中雅子名誉会長が出席
- 3/6 常任理事会・制度政策検討委員会開催
- 3/9 全国社会福祉協議会「介護職員のキャリア開発支援システム普及促進モデル事業 事業推進・評価委員会」に石橋真二会長が出席
- 3/10 全国社会福祉協議会「中央福祉人材センター運営委員会」に内田千恵子副会長が出席
- 3/12 福利厚生センター評議員会に石橋真二会長が出席
- 3/15 公開シンポジウム「魅力ある介護の職場を創造するために」開催
長野県介護福祉士会通常総会において石橋真二会長が記念講演
- 3/18 社会福祉振興・試験センター評議員会に石橋真二会長が出席
- 3/26 理事会開催
日本介護福祉士養成施設協会理事会に内田千恵子副会長が出席
- 3/29 日本介護支援専門員協会定時総会に石橋真二会長が出席

平成21年度通常総会

- 1. 日時 5月30日(土) 10:30~16:00
 - 2. 場所 株式会社損害保険ジャパン2階大会議室
- ※詳細は後日代議員の皆様へ通知いたします。

平成21年度年会費振替のお知らせ

5月26日に実施します

指定口座からの年会費の自動振替を、左記の日程で実施いたします。つきましては前日までに口座へご入金をお願いいたします。

○平成21年5月26日(火)
○口座登録をされている継続会員のみなさま

年会費納入について不明な点がありましたら、日本介護福祉士会事務局へお問い合わせください。

ファーストステップ研修で 意見交換

公開シンポジウム 講演

介護報酬改定と制度をめぐる諸課題

介護従事者の処遇改善

厚生労働省老健局振興課長 土生 栄二氏

介護報酬+3%について
平成21年度介護報酬は、+3.0%の改定であります。

処遇の改善

処遇改善には、「負担の大きな業務への評価」「専門性への評価」「介護従事者の定着促進」「人件費の地域差への対応」という3つの柱が示されました。同時に長く働いている方、常勤で働いている方への評価という方向性も示されました。



を担う人材を雇用した場合、未経験者を雇用した場合には補助しようというものです。また、「介護労働者設備等整備モデル奨励金」として一八・八億円を助成しています。

の介護ビジョン」がまとめられました。高齢者の方々はもちろん、介護従事者にとっても安心と希望の実現が柱ひとつになっております。また、社会保障国民会議では、医療や介護・福祉といったサービスは広い意味での生活支援サービスであり、そのニーズの個性は高く、個人の価値観やライフスタイルによって必要とされるサービスの内容や水準は異なります。したがって、個人の選択・自由意思を尊重しながら個人の抱えるさまざまなリスクを公的サービスだけでなく、社会的な相互扶助の仕組みでカバーしていく必要があります。同時に、国民一人ひとりがその仕組みに参加し、制度化されたサービスの受け手としてそのみに依存して生きるのではなく、ともに支え合っていくことを実感できるような地域社会づくりが重要であるとされています。

3つ目の「地域差の見直し」については、まず地域区分ごとの報酬単価については、特別区や特甲地などの人件費割合を考慮し、合わせて、施設については常勤職員が一定割合雇用されている事業所について評価を行います。

一方、すでに働いていらっしゃる在職者のためのキャリア形成支援が重要で、事業主がその労働者に対して職業訓練を実施したり、自発的な職業能力開発の支援または職業能力評価を実施した場合には独立行政法人「雇用・能力開発機構」から助成金がありま

また、サービス提供体制の構造改革として、「病院機能の効率化と高度化」「地域における医療機能のネットワーク化」「医療・福祉の一体的提供(地域包括ケア)の実現」「医療・介護を通じた専門職種間の役割分担の見直しと協働体制の構築」等が重要課題であり、皆様方と連携して取り組んでまいります。

介護保険改定に係るQ&A(一部抜粋)

(問2) 特定事業所加算及びサービス提供体制強化加算における介護福祉士又は介護職員基礎研修課程修了者若しくは一級課程修了者とは、各月の前月の末日時点で資格を取得している者とされているが、その具体的取扱いはどう示されたか。
(答) 要件における介護福祉士等の取扱いは、平成21年3月31日に介護福祉士国家試験の合格又は養成校の卒業を確認し、翌月以降に登録をした者について、平成21年4月において介護福祉士として含めることができ。また、研修については、全カリキュラムを修了していれば、修了証明書の交付を待たずに研修修了者として含めることが可能である。

(問3) 入所者に対する介護福祉士の配置割合を算出する際の入所者数には、併設のショートステイの利用者を含め計算すべきか。空床利用型のショートステイはどうか。
(答) 当該加算は介護老人福祉施設独自の加算であるため、併設・空床利用型の別を問わず、ショートステイの利用者は含まず、本体施設である介護老人福祉施設の入所者のみに着目して算出すべきである。

(問4) 介護福祉士の配置割合を算定する際に、併設型のショートステイと兼務している職員については、勤務実態を利用者数、ベッド数等に基づき按分するなどの方法により、当該職員の常勤換算数を本体施設とショートステイそれぞれに割り振った上で(例)前年度の入所者数平均が40人の本体施設と10人のショートステイの間で均等に兼務している場合は常勤換算でそれぞれ0.8人と0.2人とするなどの、本体施設での勤務に係る部分のみを加算算定のための計算の対象とする。その際、実態として本体施設と併設のショートステイにおける勤務時間が1:1程度の割合で兼務している介護福祉士を本体施設のみにおいてカウントするなど、勤務実態と著しく乖離した処理を行うことは認められない。

(問5) 例え、平成18年度より全国社会福祉協議会が認定し、日本介護福祉士会等が実施する「介護福祉士ファーストステップ研修」については、認知症介護実践リーダー研修相当として認められるか。
(答) 本加算制度の対象となる認知症介護実践リーダー研修については、自治体が実施又は指定する研修としており、研修カリキュラム、講師等を審査し、適当と判断された場合には認められる。

今回の介護報酬の改定は、単純に言えば一〇〇〇円のものが一〇三〇円になるということ、方法としてはすべての単価を3%上げるといってもいいわけですが、一方でメリハリも必要です。介護福祉士という国家資格を持っていては、より処遇が高いと

いうことも必要だろうと思います。処遇改善には、「負担の大きな業務への評価」「専門性への評価」「介護従事者の定着促進」「人件費の地域差への対応」という3つの柱が示されました。同時に長く働いている方、常勤で働いている方への評価という方向性も示されました。

今回の改定の大きな柱は、省全体で推進します。介護労働者雇用管理改善のための施策としては、「介護人材確保」の一環として一六・八億円を新たに計上してきます。これは雇用管理改善に関する業務

以上が総論的な処遇改善対策についての報告です。これからの介護ビジョン、外添厚生労働大臣が主宰した「安心と希望

3つ目の「地域差の見直し」については、まず地域区分ごとの報酬単価については、特別区や特甲地などの人件費割合を考慮し、合わせて、施設については常勤職員が一定割合雇用されている事業所について評価を行います。

(問6) 一つの病棟内に介護療養病床とその他の病床(医療療養病床)が混在する場合、介護福祉士の割合等の算出方法は何。
(答) 一つの病棟内に介護療養病床と医療療養病床が混在する場合は、介護福祉士の割合等を算出する際には、併設型のショートステイと兼務している職員については、勤務実態を利用者数、ベッド数等に基づき按分するなどの方法により、当該職員の常勤換算数を本体施設とショートステイそれぞれに

(問7) 介護福祉士の配置割合を算定する際に、併設型のショートステイと兼務している職員については、勤務実態を利用者数、ベッド数等に基づき按分するなどの方法により、当該職員の常勤換算数を本体施設とショートステイそれぞれに

(問8) 例え、平成18年度より全国社会福祉協議会が認定し、日本介護福祉士会等が実施する「介護福祉士ファーストステップ研修」については、認知症介護実践リーダー研修相当として認められるか。
(答) 本加算制度の対象となる認知症介護実践リーダー研修については、自治体

ソウエルクラブ(福利厚生センター)ご加入のおすすめ

- 職員の健康管理のために
 - 生活習慣病予防健診費用助成
 - 健康生活用品給付
 - スポーツクラブ
 - 電話健康医療相談
- 職員の慶事のお祝いに
 - 結婚お祝品贈呈
 - 出産お祝品贈呈
 - 入学お祝品贈呈
 - 資格取得記念品贈呈
 - 永年勤続記念品贈呈
- 地域に密着した事業
 - 会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等)

- 職員の万が一の際に
 - 会員の死亡弔慰金
 - 会員の配偶者の死亡弔慰金
 - 会員の入院・手術見舞金
 - 災害見舞金
- 職員の余暇活用のために
 - 指定保養所・休暇村他 7種類の宿泊施設、全国289か所
 - 海外リフレッシュツアー
 - クラブ・サークル活動支援
 - テーマパーク
 - 国内・海外旅行
 - レンタカー
 - カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等

- 職員の資質向上のために
 - 海外研修
 - 広報講習会
 - レク・リーダー養成講習会
 - 接遇講習会
 - パソコン講習会
 - メンタルヘルス講習会
- 職員の生活サポートのために
 - 住宅ローン・特別資金ローン
 - クレジットカード
 - ソウエル団体生命保険
- 各種情報提供
 - 会員情報誌、ソウエルクラブニュース
 - ホームページ

加入できる職員
社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。

掛金
掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。

加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル
TEL ☎0120-292-711
FAX ☎0120-292-722
http://www.sowel.or.jp/
社会福祉法人 福利厚生センター
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-21-17虎ノ門NNビル

魅力ある職場づくりに福利厚生センターをご活用ください

オーストラリアを視察して

福岡県介護福祉士会は、一昨年のフィリピン視察に続いて参加者16人と今年の2月22日から5日間の行程でシドニーの介護福祉を視察した。

オーストラリアの平均寿命は日本とあまり変わらないが、高齢化率は13%である。一九八五年から施設型ケア中心から在宅型ケアに方針を転換している。

施設ケアによる財政難のために在宅ケアに向かっているが、「住み慣れた地域で最後まで暮らす」という理念で、在宅ケアを充実させてきている。当初、HACC (在宅地域プログラム) が導入され、一九九二年にはCACCP (地域支援パッケージ) その後EACH&EA CH+D (退院後の介護・認知症介護) が追加された。二〇〇八年にはACFI (連邦政府からの補助) が用いられ、介護度がハイ、ミディアム、ロウの3レベルに分けられるようになった。オーストラリアも日本同様在宅ケアへ向けての模索が行われていると思った。

高齢者介護施設の種類は、ローケア、ハイケア、認知症対応型スペシャルケア、エキストラサービスの4つがある。認知症ケアの研究・研究も盛んで、介護者にとって介護の花形となっている。介護者は、レベル1からレベル4まであり、業務は教育レベルによって異なっている。日本のように無資格者から介護福祉士まで同じ内容のケアはできない。

介護現場では福祉用具・機器を徹底して活用している。ハイケアの人が倒れているときは、介護者は触れないで、看護師を呼び、福祉機器で対応する。これは介護者の腰痛防止の為に、介護者が腰痛になると治療が雇用者の負担になるため、徹底している。トランスファーも介護者二人で対応し、これに反するオーストラリアでは障害者入所施設は解体され、どんなに重度の脳性麻痺の人でもデイサービスと在宅(自宅またはグループホーム)である。私達は、デイサービスを訪問した。ここでは、一人ひとりの最大限の能力を活かせるように車いすやコミュニケーション機器等の世界中のテクノロジーを調べたり、楽しみながら身体の訓練やアクティビティをしたり、仕事を探したり等のサービスをしている。また、「利用者主体」と「自己決定」が徹底しており、半年に



1回ソーシャルワーカーと話し合い、利用者主体で人生の目標ファイルを作成する。例えば、こういう福祉機器を使いたい、首相に会いたい、「ゴッチャー」選手として出場したい等である。そして実施に向けて計画を立てる。お会いした脳性麻痺の一人は、今年家を建て、来年障害者の彼女と結婚するという目標を持っている。変更もあるが、あくまでも本人が決めること。「みんな一緒」ではなく、本当に一人ひとりの希望に応じた自己実現に繋がる対応をしている。日本も「利用者主体」「自己決定」と言われて久しいが、ここまでには至っていないように思う。

オーストラリアには定年制はないが、大多数の女性は55歳、男性は65歳で退職し、その後パートに切り替えて、積極的にボランティアやロビー活動等、役立つことは何でもする。このような価値観、考え方が福祉を支える力にもなっていると思

2月7日・8日の両日、ハートンホテル南船場(大阪府)において、(仮称)認定専門介護福祉士(認知症)養成研修フォローアップ研修会が行われ、これまで修了者26名が受講した。

森繁樹氏(介護付有料老人ホーム「結びの杜ホーム」所長)、宮島渡氏(高齢者総合福祉施設アザレンさんだ施設長)による「認知症介護及びその研修のあり方について」と題した講義と、受講者による事例発表を中心に行われた。



認知症ケアの視点を学ぶ

リーダー研修会 (初任者研修講師養成研修会) を開催します

介護福祉士資格取得後実務経験2年以内の初任者を対象に実施する初任者研修会の講師を養成する研修会です。これまで培った経験や知識を後継育成に役立てたい!と考えている方は是非本研修会にご参加いただき、教授法を身につけてください。詳細は本会ホームページをご参照ください。

日程: 6月13日(土)・14日(日)
会場: 調整中(東京都内)
対象者: 以下の①及び②を満たす者、又は②及び③を満たす者とする。
①介護福祉士資格取得後、現場経験5年以上現場経験の捉え方
・介護職、ケアマネジャー、相談業務、管理職、教育職
②支部推薦
③その他、当該科目の担当に適任であると認められるもの。

定員: 100名

介護福祉士実習指導者講習会講師養成研修会を実施します

本会では昨年度に引き続き、厚生労働省より補助金を受け、介護福祉士実習指導者講習会を各都道府県支部で実施する予定です。

実習指導者の要件が改正され、その役割がますます重要になる中、実習指導の教育水準を高めることは必須です。そのために介護福祉士実習指導者講習会で講師を担う方は、本研修会でしっかりと教授法を身につける必要があります。今年度は実習指導者講習会のテキストが完成する予定で、そのテキストを軸として研修会を実施します。

日程: 7月10日(金)・11日(土)
会場: 調整中(東京都内)
対象者: 平成20年度介護福祉士実習指導者講習会講師養成研修会受講者

主催研修予定

- リーダー研修会 (初任者研修講師養成研修) 6月13日(土)・14日(日)
 - 中国・四国ブロック研修会 6月25日(木)
 - 介護福祉士実習指導者講習会講師養成研修会 7月10日(金)・11日(土)
 - (仮称)認定専門介護福祉士(認知症)養成研修会(東会場) 前期: 7月25日(土)~26日(日) 後期: 8月21日(金)~23日(日)
 - 介護技術講習主任指導者養成講習会 8月8日(土)・9日(日)
 - 東海・北陸ブロック研修会 8月28日(金)~29日(土)
 - 北海道・東北ブロック研修会 9月4日(金)~5日(土)
 - リーダー研修会(ファーストステップ研修講師養成研修会) 前期9月19日(土)~21日(月) 後期10月17日(土)~18日(日)
 - 関東・甲信越ブロック研修会 9月25日(金)~26日(土)
 - 九州・沖縄ブロック研修会 10月10日(土)~11日(日)
 - 日本介護学会(長野県) 10月31日(土)
 - 全国大会(大阪府) 12月4日(金)~5日(土)
 - (仮称)認定専門介護福祉士(認知症)養成研修会(西会場) 前期 12月12日(土)~13日(日) 後期 平成22年1月15日(金)~17日(日)
- ※詳細は決定次第ホームページ等でご案内いたします。

ふれあいケア

介護に携わるプロフェッショナルのための応援誌。毎日の介護実践に役立つ専門知識や技術についての情報を満載。高齢者ケアに関わる施設福祉や在宅福祉の最新情報や、先駆的な実践事例も紹介。

●定価1,020円(本体971円) ●毎月20日発行 ●B5判/80頁 ●送料300円(10冊以上・定期購読の場合は送料サービス)

定期購読申込み受付中!

[FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい] お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい(品切れの際はご容赦下さい)。

●お申し込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

2009年 5月号 4月20日発行

特集 介護職員の職業倫理

介護職員は、一人ひとりの利用者の心豊かな生活を支えるために、自らの専門的知識や技術、倫理的自覚をもって、利用者本位の介護サービスを提供したり、プライバシーなど人権に配慮し、最善の介護福祉サービスを提供することが求められています。そこで、本特集では、職業倫理について考えるとともに、質の向上を図るための取り組みを紹介します。

「介護福祉士キャリアアップ誌上セミナー」
今全国の介護福祉士が自らのキャリアアップに向け、新たな研修にチャレンジしています。各地の介護福祉士会などが開催している「介護福祉士ファーストステップ研修」の内容をシリーズでお伝えします。

バックナンバー (特集)

2008年11月号	皮膚のトラブルとスキンケア	2009年2月号	記録をケアの向上に活かそう
2008年12月号	食べるよろこび・食べる楽しみ	2009年3月号	看取りから学ぶ
2009年1月号	私の施設は働きやすいの?	2009年4月号	実習生とともに学ぼう

〈注文用〉FAX: 03-3581-4666 E-mail: zenshako-s@shakyo.or.jp

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ 福祉の本出版目録 検索 ▶▶ http://www.fukushinohon.gr.jp

第7回 日本介護学会

- 1. 日時 平成21年10月31日(土) 10:00~16:40
 - 2. 会場 佐久勤労福祉センター 長野県佐久市佐久平駅南4-1
 - 3. プログラム
 - 10:00 開会式
 - 10:00 記念講演 鈴木 隆雄 氏
 - 13:00 研究発表
 - 16:00 研究発表に対する講評
 - 16:30 閉会式
 - 4. 参加対象 日本介護学会会員 一般 学生
 - 5. 参加費用 参加費 会員 3,000円
(日本介護福祉士会会員、一般会員)
一般 13,000円
学生 1,000円
- ※入会希望の方は別途申込みが必要となりますので日本介護学会まで
お問い合わせください。
- 6. 申込方法 申込書に必要事項をご記入の上、下記にお申し込み
ください。
JTB長野支店 TEL 026-224-0303
 - 7. 申込締切日 9月30日(水)

第7回日本介護学会で発表いただく研究事例を広く皆様より募集いたします。
日頃の実践成果をぜひ発表してください。
論文は、学会の投稿規定によりますので詳細につきましては、日本介護福祉士会ホームページをご参照ください。
締切 平成21年6月30日(火) 当日消印有効

- 8. 問い合わせ先 日本介護学会事務局(社団法人日本介護福祉
士会事務局内)
TEL 03-3507-0784 FAX 03-3507-8810

第16回 全国大会

- 1. 日程 12月4日(金)~5日(土)
 - 2. 会場 大阪国際交流センター
- 水の都と大阪城がみなさまのお越しをお待ちしております!
※詳細はホームページ及び次号に掲載いたします。

中国・四国ブロック研修会

- 1. テーマ 「介護の力を明日につなげよう！」
~話そう、楽しさを! 引き継ごう、喜びを!~
- 2. 日程 6月25日(木)
- 3. 会場 岡山コンベンションセンター(ママカリフォーラム)
岡山県岡山市駅元町14番1号 TEL 086-214-1000
- 4. 定員 300名
- 5. 参加費 (1) 会員 3,000円 (2) 会員外 10,000円
(3) 学生 1,000円
※日本介護福祉士会会員の方は生涯研修手帳をご持参ください。
- 6. プログラム
 - 9:00 受付
 - 9:30 開会
 - 10:00 行政説明
「介護報酬について」(仮題)
 - 11:00 実践研究発表
 - 12:00 休憩
 - 13:00 記念講演
「介護福祉士の役割」(仮題)
さわやか福祉財団 理事長 堀田 力 氏
 - 14:30 実践研究発表
 - 16:00 閉会
- 7. 問い合わせ先 社団法人岡山県介護福祉士会
TEL 086-222-3125

平成21年度社会福祉士・
精神保健福祉士及び介護福祉士
海外研修・調査

- ▼実施主体 財団法人社会福祉振興・試験センター
- ▼研修・調査のテーマ
 - ①特定施設又は在宅における介護の実態につ
いて
 - ②その他センター理事長が必要と認めたもの
- ▼派遣対象者 次の各号に該当し、介護福祉士の推薦
を受けた者とする。ただし、介護福祉士
会の会員であるか否かは問わないものと
する。
ア 現に社会福祉施設等において、介護
業務に従事している者
※病院勤務の場合は、療養病棟で介護業務に
従事している者。また、居宅介護支援事業
所のケアマネジャーは含まない。
イ 当該年度の12月末日現在において、
次のいずれにも該当する者
(ア) 25歳以上55歳未満の者
(イ) 介護福祉士の資格取得後3年
以上である者
ウ 研修・調査終了後も引き続き介護業
務に従事する意志を有する者

支部の研修

- 工 心身ともに健康で、協調性があり、
研修期間中団体行動ができる者
- オ 過去において、当センターの海外研
修に参加したことのない者
- ▼研修・調査実施期間 15日間
- ▼研修・調査費の交付等
研修・調査等に要する費用はセンターが
負担するものとする。ただし、旅行傷害
保険の保険料、その他の個人的経費は研
修者の負担とする。
- ▼申込方法
日本介護福祉士会へお問い合わせ下さい。
(TEL03-3507-0784)
※内容は介護福祉士に関するもののみを
掲載しました。

秋田支部研修情報

- 〔現任研修会〕
- ▼日程 5月23日(土)
- ▼場所 中央シルバエリア
- ▼内容 「認知症ケアについて(仮題)」
- ▼問い合わせ先 秋田県介護福祉士会
TEL090-2027-0294

京都支部研修情報

- 〔平成21年度 第13回定期総会・法人化記
念講演会〕
- ▼日程 6月13日(土) 15:30~
- ▼場所 京都社会福祉会館 4階・ホール
- ▼内容 講演テーマ「認知症の方の今後望ま
れるケアの在り方と介護福祉士に期
待されること」
- 〔平成21年度 ファーストステップ研修〕
- ▼日程 6月27日(土)
- ▼場所 京都社会福祉会館 2階・第2会議室
- ▼問い合わせ先 一般社団法人京都府介護福祉士会
TEL075-801-8060

岡山支部研修情報

- 〔平成21年度 社団法人岡山県介護福祉士会
総会及び一般公開講座の開催〕
- ▼日程 5月23日(土) 13:00~15:00
- ▼会場 きらめきプラザ2階 大会議室
(ゆうあいセンター)
- ▼内容 (通常総会) 13:00~13:25
(一般公開講座) 13:30~15:00
- ▼問い合わせ先 社団法人岡山県介護福祉士会
TEL086-222-3125

【事務局人事】

四月一日付新規採用 事務局員 栗原 愛

介護福祉士向け専門情報誌

介護福祉

- ☆発行回数 年4回/春・夏・秋・冬号
- ☆購読料(年) 3,440円(4号分・送料含む)
- ☆申込み先 財団法人 社会福祉振興・試験センター
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル
TEL 03-3486-7511 FAX 03-3486-7514
インターネットによる申込 <http://www.sssc.or.jp>
郵便振替口座 00120-5-138401

専門性が支える介護福祉の充実のために

この『介護福祉』は、介護福祉士の皆様の自己研鑽のため、また、施設等における介護職員の資質向上のための必携の書として大変好評を得ています。本誌は、日常の介護業務において、そこで求められる介護行為・動作等について、論理的根拠を医学・心理学・解剖学・看護学その他の面から、分かりやすく解説するほか、介護福祉士として是非知っておいていただきたい専門知識や技術・福祉機器の活用など、介護に関する最新情報を提供しています。

- 春号(21年3月発行) 特集「自立を目指した生活支援技術」
- 夏号(21年6月発行予定) 特集「生活のしにくさ、生きにくさ」

社団法人 日本介護福祉士会

第16回 全国大会が大阪で開催されます!!

1. 日程：12月4日(金)～5日(土)
2. 会場：大阪国際交流センター
3. テーマ：「好きやねん介護福祉士」
水の都と大阪城がみなさまのお越しをお待ちしております!

※詳細は8面またはホームページをご覧ください。

日本介護福祉士会役員の動き (H21. 4/1～5/31・抜粋)

- 4/24 制度政策検討委員会開催
日本介護福祉士養成施設協会理事会に内田千恵子副会長が出席
- 4/30 常任理事会開催
- 5/8 日本介護福祉士養成施設協会総会に内田千恵子副会長が出席
日本精神科病院協会看護・コメディカル委員会に石橋真二会長が出席
- 5/12 理事会・生涯研修制度検討委員会開催
- 5/29 福利厚生センター評議員会に石橋真二会長が出席
- 5/30 通常総会開催

■ 日本介護福祉士会 活動報告 ■

平成20年度、厚生労働省からの補助金により実施した事業について、「介護福祉士の専門性を活かした被災者対応マニュアル作成等事業委員会」岡田史委員長(日本介護福祉士会理事)は、「本事業では、各災害において介護福祉ボランティアとして活動した者、被災し職務として介護福祉業務に従事した者により委員会を組織し、①災害時の介護福祉の意識についてのアンケート調査、②災害時介護福祉支援ボランティアマニュアル作成、③啓発のためのシンポジウムの開催を行いました。今後は、これまでの活動をもとに、全国的な介護福祉ボランティアを組織すること、そして、常に災害時の専門性について学ぶ環境を整えることが重要であると考えております。」と今後の課題について述べた。

また、「介護現場におけるサービスの質に関する調査研究委員会」田中安平委員(日本介護福祉士会理事)は、「本研究をファーストステップ研修のサブテーママネジメント等において積極的に活用することで、研究結果から浮かび上がった介護事故等に関する曖昧さに対し、絶対に守るべきことを明確にするなど、分かりやすいものにしていきたい。」と、今後の普及、活用について述べた。

積極的な事業運営を

平成21年度通常総会



午前中は、泉潤一氏(厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室長)による記念講演「福祉・介護人材確保対策と介護福祉士の未来(2面掲載)」が行われた。

午後からの開会式典には、来賓として泉潤一氏(厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室長)、松尾武昌氏(前社団法人全国社会福祉協議会常務理事)、山口保氏(社団法人日本介護福祉士養成施設協会常務理事)、岡田守功氏(社団法人全国老人



保健施設協会副会長)が臨席し、祝辞をいただいた。

通常総会挨拶で石橋会長は、介護福祉士の資質の向上が求められるようになった一方で、介護福祉士の社会的評価がそれに見合っていないなどから、介護現場での人材不足が大きな課題である。そのため、本会としては、①介護労働に対するヒアリングでの要望、②厚生労働大臣への要望書・署名の提出、③人材確保のための全国集会の開催、④介護保険給付費分科会における

介護福祉士を魅力ある職業として確立するために 全議案を原案通り承認

平成21年度通常総会は、5月30日(土)、株式会社損害保険ジャパン大会議室で開催された。代議員定数203名に対し出席代議員169名、委任状21名、書面評決4名、欠席9名。総会議事は原案通り承認され可決した。

介護報酬改定への要望書など制度・政策委員会を中心として様々な対応を行った結果、21年度介護報酬改定では、介護保険制度が始まって以来、介護職の賃金改善など人材確保の観点で3%の報酬アップが行われた等の一定の成果が得られたと述べた。

21年度以降も、「介護報酬改定の評価」「介護サービスの質の評価」「医療と介護の連携のあり方」「専門介護福祉士など生涯研修体系の確立」「介護の日に対する広報」「公益法人への移行」「各支部の法人化」など、本会が取り組むべき課題を着実に解決

- 1 平成20年度事業報告(案)に関する件(4面・5面掲載)
 - 2 平成20年度決算報告(案)並びに監査報告に関する件(7面掲載)
 - 3 平成21年度事業計画(案)に関する件(6面掲載)
 - 4 平成21年度収支予算(案)に関する件(7面掲載)
- 以上の各議案はいずれも採決の結果、原案通り承認、成立した。

公益社団法人への移行について

1 本部の公益社団法人への移行計画(案) 平成20年12月1日-特例民法法人(新制度に移行済み) (名称は、社団法人を使用可)

- (1年目～2年目)
- 本部と支部の関係など諸問題があり、現在その解決に向けて検討を行っているところ。
 - ・問題点① 本部のみでは、公益目的事業比率の50%以上確保が困難であること。
 - ・問題点② 一般社団である支部において、「公益社団〇〇〇」の支部とは名乗れないこと。
 - ・問題点③ 任意団体である支部の経理事務処理は、本部で一括処理を行わなければならないこと。
 - ・問題点④ その他、定款上の問題等

平成22年12月1日(3年目)

○遅くとも平成22年度末の理事会で移行関係議案を審議していただき「特例民法法人」解散総会、新法人結成総会等の手続きを経て、移行申請を行う。

平成23年12月1日

○移行認定完了(4年目～5年目) 移行後の事務処理等

2 各支部に対する協力依頼

- ①一般社団化の推進
一般社団化の具体的手順等を本部が示しながらその推進を図る。
- ②移行期間(平成25年11月末)の終了までに全支部の一般社団化を目指す。なお、公益社団化が可能な支部にあっては移行認定を行うこととする。

会総演 通常 記念講

福祉・介護人材確保対策と介護福祉士の未来

厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課
福祉人材確保対策室長

泉 潤一氏



福祉サービスを取り巻く環境

わが国の人口は2004年にピークを迎え、現在既に減少の局面に入っています。2055年には9000万人を割り込み、高齢化率は40%を超えたと推計されます。また、社会保障給付費については、給付費の総額が47・2兆円であった1990年には年金が24・0兆円、福祉その他が4・8兆円であったのに対し、2008年(予算ベース)では、総額95・7兆円のうち、約半分の50・5兆円(52・8%)が年金に、福祉その他については1990年の約3倍となる15・4兆円(16・0%)が費やされ、国民一人当たりの社会保障給付費は75万円に及びます。

国家試験を受験する」として資格取得方法の「一元化」を図る見直しを行いました。具体的には、養成施設(2年以上、1650時間)卒業後に介護福祉士の資格が取得できたところ、養成施設(2年以上、1800時間)卒業後に国家試験を受験していただくこととなります。また、福祉系高校(1190時間)又は実務経験3年以上の方について国家資格の受験資格が付与されていたところ、福祉系高校では1800時間、実務経験3年以上の場合は養成施設で6月以上(600時間)の課題を経ていただくことが必要となります。

介護福祉士の現状と介護福祉士制度の見直し
介護福祉士の登録者数は年々増えており、これに従って介護職員に占める介護福祉士の割合もおおむね順調に増加しています。これからは、介護職員と併せて介護福祉士の質の向上が必要となってきており、そのために「すべての者は一定の教育プロセスを経た後に

国家試験を受験する」として資格取得方法の「一元化」を図る見直しを行いました。具体的には、養成施設(2年以上、1650時間)卒業後に介護福祉士の資格が取得できたところ、養成施設(2年以上、1800時間)卒業後に国家試験を受験していただくこととなります。また、福祉系高校(1190時間)又は実務経験3年以上の方について国家資格の受験資格が付与されていたところ、福祉系高校では1800時間、実務経験3年以上の場合は養成施設で6月以上(600時間)の課題を経ていただくことが必要となります。

④施設・地域(在宅)を通じた汎用性ある能力
⑤心理的・社会的支援の重視
⑥予防からリハビリテーション、看取りまで、利用者の状態の変化に対応できる
⑦多職種協働によるチームケア
⑧一人でも基本的な対応ができる
⑨「個別ケア」の実践
⑩利用者・家族、チームに対するコミュニケーション能力や的確な記録・記述力

⑪関連領域の基本的な理解
⑫高い倫理性の保持
また、養成施設における教育体系についても、その基盤となる「養育倫理的態度の涵養に資する『人間と社会』」

「介護福祉士資格の取得時には、介護を必要とする幅広い利用者に対する基本的な介護を提供できる能力を持っていること」が求められる、その介護福祉士像とは次のように平成18年の検討会によって取りまとめられました。①尊厳を支えるケアの実践
②現場で必要とされる実践的能力
③自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できる

「介護福祉士」の現状と「介護福祉士制度の見直し」
介護福祉士の登録者数は年々増えており、これに従って介護職員に占める介護福祉士の割合もおおむね順調に増加しています。これからは、介護職員と併せて介護福祉士の質の向上が必要となってきており、そのために「すべての者は一定の教育プロセスを経た後に

国家試験を受験する」として資格取得方法の「一元化」を図る見直しを行いました。具体的には、養成施設(2年以上、1650時間)卒業後に介護福祉士の資格が取得できたところ、養成施設(2年以上、1800時間)卒業後に国家試験を受験していただくこととなります。また、福祉系高校(1190時間)又は実務経験3年以上の方について国家資格の受験資格が付与されていたところ、福祉系高校では1800時間、実務経験3年以上の場合は養成施設で6月以上(600時間)の課題を経ていただくことが必要となります。

福祉・介護人材の状況
福祉・介護人材を取り巻く現在の状況は次のようになっています。

①介護人材は年々増え続けており、平成12年(約55万人)の約2倍(平成18年約117万人)に達している
②女性の占める割合が高い(介護従事者の約8割)
③新たな人材の参入が近年増加(介護サービス従事者全体の約4割)
④地域社会におけるネットワークの構築という4つの視点から対策を講ずる必要があります。

平成20年度補正予算・平成21年度予算案ではこのような視点の下、様々な福祉・介護人材確保のための施策を実施することとしています。

まず、平成20年度第2次補正予算の中では、介護福祉士・社会福祉士養成施設の入学者に対し、修学資金の貸付けを行う「介護福祉士等修学資金貸付制度」について、貸付原資等の補助及び貸付条件の緩和を行います。この制度は、養成施設等に在学期間中に1ヵ月5万円を限度に貸付を行うとともに、養成施設等を何らかの形で福祉・介護分野へ復帰する意向がある

①介護福祉士等資格者を養成する養成校の入学者の著しい定員割れ(定員充足率は約46%、平成20年4月現在)
②福祉・介護人材確保に向けた取組

今後の高齢化の一層の進行やこれらの状況を踏まえて、福祉・介護人材の確保は喫緊の課題として挙げられ、①現に働いている人材の定着、②有資格者等の掘り起こし、③新たな人材の参入④地域社会におけるネットワークの構築という4つの視点から対策を講ずる必要があります。

平成20年度補正予算・平成21年度予算案ではこのような視点の下、様々な福祉・介護人材確保のための施策を実施することとしています。

まず、平成20年度第2次補正予算の中では、介護福祉士・社会福祉士養成施設の入学者に対し、修学資金の貸付けを行う「介護福祉士等修学資金貸付制度」について、貸付原資等の補助及び貸付条件の緩和を行います。この制度は、養成施設等に在学期間中に1ヵ月5万円を限度に貸付を行うとともに、養成施設等を何らかの形で福祉・介護分野へ復帰する意向がある

①介護福祉士等資格者を養成する養成校の入学者の著しい定員割れ(定員充足率は約46%、平成20年4月現在)
②福祉・介護人材確保に向けた取組

今後の高齢化の一層の進行やこれらの状況を踏まえて、福祉・介護人材の確保は喫緊の課題として挙げられ、①現に働いている人材の定着、②有資格者等の掘り起こし、③新たな人材の参入④地域社会におけるネットワークの構築という4つの視点から対策を講ずる必要があります。

平成20年度補正予算・平成21年度予算案ではこのような視点の下、様々な福祉・介護人材確保のための施策を実施することとしています。

まず、平成20年度第2次補正予算の中では、介護福祉士・社会福祉士養成施設の入学者に対し、修学資金の貸付けを行う「介護福祉士等修学資金貸付制度」について、貸付原資等の補助及び貸付条件の緩和を行います。この制度は、養成施設等に在学期間中に1ヵ月5万円を限度に貸付を行うとともに、養成施設等を何らかの形で福祉・介護分野へ復帰する意向がある

①介護福祉士等資格者を養成する養成校の入学者の著しい定員割れ(定員充足率は約46%、平成20年4月現在)
②福祉・介護人材確保に向けた取組

今後の高齢化の一層の進行やこれらの状況を踏まえて、福祉・介護人材の確保は喫緊の課題として挙げられ、①現に働いている人材の定着、②有資格者等の掘り起こし、③新たな人材の参入④地域社会におけるネットワークの構築という4つの視点から対策を講ずる必要があります。

福祉の養成課程における実習は、実践を通じて学習する機会として、人材養成に当たり不可欠です。しかし現在では、実習指導者を養成する講習会はあるものの、その後のフォローアップは、それぞれ施設や実習指導者に委ねられているのが現状です。このため、一定の要件を満たす優良な実習施設を中心に、他の実習施設に対し、実践事例報告会や講習会を開催すること等により、実習指導のレベル向上を図るとともに、実習期間の連携を促進していきま

「介護福祉士への期待」
介護福祉士への期待や理想のイメージとして、「介護福祉士から介護を受けるたい、介護に関する相談をしたい」「介護福祉士になれば社会的評価も高い」「介護福祉士が施設や事業所でも中核的・リーダー的存在となっている」「キャリアアップし、職場の労働環境、人間関係等に関する相談に心掛けることにも、その結果を事業所にフィードバックすることを通じて福祉・介護分野に従事する者の定着を支援します。②実習受入施設ステップアップ事業

平成21年度社団法人日本介護福祉士会通常総会挨拶

平成20年度の事業の総括

社団法人 日本介護福祉士会 会長 石橋真二



介護福祉士制度が改正され、介護福祉士の定義規定、義務規定の見直し、資格取得方法の一元化などから介護福祉士の資質の向上が求められるようになり、しかし、一方では、介護福祉士の社会的評価がそれに見合っていないなどから、介護の現場では人材不足が大きな課題となりました。

その対策として、介護の仕事が魅力ある職業として確立するため、介護職の賃金の向上をはじめとする労働環境の改善などが盛り込まれている「人材確保の基本指針」が確実に実行できるようにすることです。

そのため、本会としては、介護労働に対す

その結果、21年度介護報酬改定では、介護報酬改定がはじまって以来、介護職の賃金改善など人材確保の観点で3%の報酬アップが行われたこと、介護福祉士という国家資格に対する報酬上の評価、研修に対する評価など、一定の成果を得たことは私たち日本介護福祉士会の活動の賜物であるといっても過言ではありません。

なお、今後の課題として、実際に今回の報酬改定が介護職の賃金の向上を始め待遇改善につながったのかを検証やファーストステッ

プ研修修了者など一定の研修修了者を配置している場合の報酬上の評価及びサービスの質に対する評価のあり方などを含めた報酬のあり方や介護保険制度や介護福祉士制度の発展など、次のステップに對しての検討も行っていく必要があります。

専門分野に関する事業及び研修事業としては、一般研修をはじめ、初任者研修、初任者の指導係やチームリーダーの養成を目的としたファーストステップ研修への取り組み拡大、認知症専門介護福祉士の研修など、キャリアアップの仕組みに對応できるような生涯研修への取り組みも行ってまいりました。

さらには、介護福祉士の養成課程におけるカリキュラムの見直しに伴い、実習指導者の要件の見直しが行われ、20年度から厚生労働省の委託を受けて実習指導者特別研修を47支部で行ってまいりました。そのための講師養成研修、テキスト作成も行っているところ

です。

調査研究事業では、実際の介護現場でどのような事故が起きてい

るのか、またその予防や対策をどのように行っているのかを明らかにするなどの、介護分野における事故及びひやり・はつとの情報を試行的に収集分析し、事故等に対する分析から再発防止に役立て、ひやり・はつとに對する分析から事故を未然に防ぎ、利用者の安全確保やサービスの質の向上に寄与しようとするものとして介護事故を未然に防ぐために現場での実態調査を行い、報告書でまとめるとともに日本介護福祉士会としてのインシデント及び事故報告書の書式を提案することが出来ました。

広報事業としては本会が提案してきました「介護の日」が制定され、第1回となる20年11月11日には、「介護の日」ひろめ隊」を結成し、各支部で様々な広報活動を行ってまいりました。

関係者や一般の方に對しての公開シンポジウムとして、「これからの介護現場における要

「災害現場における要援護者の自立支援と介護予防」、「介護現場の労働環境改善のためのシンポジウム」を行ってまいりました。なお、今年度は助成金事業を6つ行うなど数多くの活動を行い、本会としての研究活動、社会貢献にも寄与してまいりました。

21年度以降も、介護報酬改定の評価、介護サービスとの連携のあり方、専門介護福祉士など生涯研修体系の確立、介護の日に對する広報、公益法人への移行、各支部の法人化、組織率の拡大など日本介護福祉士会が取り組むべき課題は山積しております。

国民の介護サービス

の充実のためにもこれらの課題を着実に解決し、生涯にわたって目標とやりがいを持つよう介護福祉士を魅力ある職業として確立する為に職能団体が中心となって取り組んでいくことが大切です。

そのためには、理事を始め全国の介護福祉士が一丸となって取り組むことが大切です。会員の皆様方には今後とも、本会に對してご協力とご支援をお願い申し上げます。

「介護の日」が制定され、第1回となる20年11月11日には、「介護の日」ひろめ隊」を結成し、各支部で様々な広報活動を行ってまいりました。

関係者や一般の方に對しての公開シンポジウムとして、「これからの介護現場における要

「災害現場における要援護者の自立支援と介護予防」、「介護現場の労働環境改善のためのシンポジウム」を行ってまいりました。なお、今年度は助成金事業を6つ行うなど数多くの活動を行い、本会としての研究活動、社会貢献にも寄与してまいりました。

21年度以降も、介護報酬改定の評価、介護サービスとの連携のあり方、専門介護福祉士など生涯研修体系の確立、介護の日に對する広報、公益法人への移行、各支部の法人化、組織率の拡大など日本介護福祉士会が取り組むべき課題は山積しております。

国民の介護サービス

の充実のためにもこれらの課題を着実に解決し、生涯にわたって目標とやりがいを持つよう介護福祉士を魅力ある職業として確立する為に職能団体が中心となって取り組んでいくことが大切です。

そのためには、理事を始め全国の介護福祉士が一丸となって取り組むことが大切です。会員の皆様方には今後とも、本会に對してご協力とご支援をお願い申し上げます。

その結果、21年度介護報酬改定では、介護報酬改定がはじまって以来、介護職の賃金改善など人材確保の観点で3%の報酬アップが行われたこと、介護福祉士という国家資格に対する報酬上の評価、研修に対する評価など、一定の成果を得たことは私たち日本介護福祉士会の活動の賜物であるといっても過言ではありません。

なお、今後の課題として、実際に今回の報酬改定が介護職の賃金の向上を始め待遇改善につながったのかを検証やファーストステッ

プ研修修了者など一定の研修修了者を配置している場合の報酬上の評価及びサービスの質に対する評価のあり方などを含めた報酬のあり方や介護保険制度や介護福祉士制度の発展など、次のステップに對しての検討も行っていく必要があります。

専門分野に関する事業及び研修事業としては、一般研修をはじめ、初任者研修、初任者の指導係やチームリーダーの養成を目的としたファーストステップ研修への取り組み拡大、認知症専門介護福祉士の研修など、キャリアアップの仕組みに對応できるような生涯研修への取り組みも行ってまいりました。

さらには、介護福祉士の養成課程におけるカリキュラムの見直しに伴い、実習指導者の要件の見直しが行われ、20年度から厚生労働省の委託を受けて実習指導者特別研修を47支部で行ってまいりました。そのための講師養成研修、テキスト作成も行っているところ

です。

調査研究事業では、実際の介護現場でどのような事故が起きてい

るのか、またその予防や対策をどのように行っているのかを明らかにするなどの、介護分野における事故及びひやり・はつとの情報を試行的に収集分析し、事故等に対する分析から再発防止に役立て、ひやり・はつとに對する分析から事故を未然に防ぎ、利用者の安全確保やサービスの質の向上に寄与しようとするものとして介護事故を未然に防ぐために現場での実態調査を行い、報告書でまとめるとともに日本介護福祉士会としてのインシデント及び事故報告書の書式を提案することが出来ました。

広報事業としては本会が提案してきました「介護の日」が制定され、第1回となる20年11月11日には、「介護の日」ひろめ隊」を結成し、各支部で様々な広報活動を行ってまいりました。

関係者や一般の方に對しての公開シンポジウムとして、「これからの介護現場における要

「災害現場における要援護者の自立支援と介護予防」、「介護現場の労働環境改善のためのシンポジウム」を行ってまいりました。なお、今年度は助成金事業を6つ行うなど数多くの活動を行い、本会としての研究活動、社会貢献にも寄与してまいりました。

21年度以降も、介護報酬改定の評価、介護サービスとの連携のあり方、専門介護福祉士など生涯研修体系の確立、介護の日に對する広報、公益法人への移行、各支部の法人化、組織率の拡大など日本介護福祉士会が取り組むべき課題は山積しております。

国民の介護サービス

の充実のためにもこれらの課題を着実に解決し、生涯にわたって目標とやりがいを持つよう介護福祉士を魅力ある職業として確立する為に職能団体が中心となって取り組んでいくことが大切です。

そのためには、理事を始め全国の介護福祉士が一丸となって取り組むことが大切です。会員の皆様方には今後とも、本会に對してご協力とご支援をお願い申し上げます。

「介護の日」が制定され、第1回となる20年11月11日には、「介護の日」ひろめ隊」を結成し、各支部で様々な広報活動を行ってまいりました。

関係者や一般の方に對しての公開シンポジウムとして、「これからの介護現場における要

「災害現場における要援護者の自立支援と介護予防」、「介護現場の労働環境改善のためのシンポジウム」を行ってまいりました。なお、今年度は助成金事業を6つ行うなど数多くの活動を行い、本会としての研究活動、社会貢献にも寄与してまいりました。

21年度以降も、介護報酬改定の評価、介護サービスとの連携のあり方、専門介護福祉士など生涯研修体系の確立、介護の日に對する広報、公益法人への移行、各支部の法人化、組織率の拡大など日本介護福祉士会が取り組むべき課題は山積しております。

国民の介護サービス

の充実のためにもこれらの課題を着実に解決し、生涯にわたって目標とやりがいを持つよう介護福祉士を魅力ある職業として確立する為に職能団体が中心となって取り組んでいくことが大切です。

そのためには、理事を始め全国の介護福祉士が一丸となって取り組むことが大切です。会員の皆様方には今後とも、本会に對してご協力とご支援をお願い申し上げます。

その結果、21年度介護報酬改定では、介護報酬改定がはじまって以来、介護職の賃金改善など人材確保の観点で3%の報酬アップが行われたこと、介護福祉士という国家資格に対する報酬上の評価、研修に対する評価など、一定の成果を得たことは私たち日本介護福祉士会の活動の賜物であるといっても過言ではありません。

なお、今後の課題として、実際に今回の報酬改定が介護職の賃金の向上を始め待遇改善につながったのかを検証やファーストステッ

介護福祉士としての仲間づくり

ファーストステップ研修を受講して

「半年の長丁場で得た、仲間とのつながりをどう生かすか」

一般社団法人 兵庫県介護福祉士会 伊藤 妙子

ファーストステップの研修は、全国で続々と開講されており、修了生の活躍の様子は現場でそして研修会などで拝見しています。その中で平成20年度に近畿ブロック2府4県という規模で開催されたファーストステップ研修修了生が、研修終了後もネットワークを繋ぎ、研修、懇親会を開催していますので、全国の皆さんにお伝えできればと思います。

近畿全域から、月2回半年に亘って研修会場の大阪へ。開催初日が3月という年度末の大変な中、シフト調整、家族への負担、休憩時間、事業所との確認などをこなしながらの研修でした。終了後この

まま別れるのは寂しいと感じ、なんとか連絡先を収集し「ファースト会」として有志の集まりを持つに至りました。昨年末にはお疲れ様会と称し懇親会を、そしてこの3月には研修会を日本介護福祉士会木村副会長、施設部長、在宅部長のご尽力を得て京都「洛東園」を見学させていただきました。

研修生42名中30名以上がファースト会に名前を面、今回の研修にも14名が参加いたしました。見学後は木村副会長たちのご同席を得ての懇親会。その中で私たちがやっていることを全国の仲間へ伝えたい、各研修を単発で終わらせないために

も何かの種になろうと参加者がホロ酔い気分得意気投入したのです。もちろん個人でお友達になった方もいますし、別枠で「おとめ会」(年齢制限があるそうなので)が旅行に行ったりもしているようです。

今の介護福祉士が置かれていた状況を考えて、個々で悩み、会を離れる方もいるようです。そんなとき事業所を離れての介護福祉士としての仲間、ネットワークが私たちの力になるのではないのでしょうか。

次回の研修は、夏、懇親会はバーベキューを予定しています。息切れしないように繋いでいきたいと思っています。

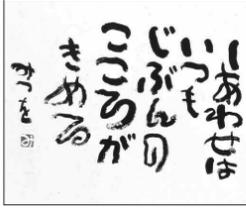
会員優待施設のご案内

東京・丸の内東京国際フォーラム内にある「相田みつを美術館」が企画展「いのち〜いちばん大切なもの〜」を9月6日まで開催中です。今回、同美術館より開催中有効の招待券を会員の皆様にいただきました。

この夏休み、研修や観光で上京される会員の方は、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

招待券ご希望の方は、招待券希望として会員番号と必要枚数(1枚で2名まで入館可)を明記し、返信用封筒(定型・80円切手貼付・住所・氏名を記載)同封の上、日本介護福祉士会事務局までご連絡下さい。

相田みつを美術館：電話03-6212-3200
http://www.mitsuo.co.jp/



介護福祉

専門性が支える介護福祉の充実のために

この『介護福祉』は、介護福祉士の皆様の自己研鑽のため、また、施設等における介護職員の資質向上のための必携の書として大変好評を得ています。本誌は、日常の介護業務において、そこで求められる介護行為・動作等について、論理的根拠を医学・心理学・解剖学・看護学その他の面から、分かりやすく解説するほか、介護福祉士として是非知っておいていただきたい専門知識や技術・福祉機器の活用など、介護に関する最新情報を提供しています。

☆発行回数 年4回/春・夏・秋・冬号
☆購読料(年) 3,440円(4号分・送料含む)
☆申込み先 財団法人 社会福祉振興・試験センター
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル
TEL 03-3486-7511 FAX 03-3486-7514
インターネットによる申込 <http://www.sssc.or.jp>
郵便振替口座 00120-5-138401

春号(21年3月発行) 特集「自立を目指した生活支援技術」
夏号(21年6月発行予定) 特集「生活のしにくさ、生きにくさ」

平成20年度事業報告書

I 法人の概況

1. 設立年月日
平成12年6月26日（任意団体設立・平成6年2月12日）
2. 定款に定める目的
本会は、介護福祉士の職業倫理及び専門性の確立、介護福祉に関する専門的教育及び研究の推進並びに介護に関する知識の普及を図り、介護福祉士の資質及び社会的地位の向上に資することともに、国民の福祉の増進に寄与することを目的とする。
3. 定款に定める事業内容
(1) 介護福祉士の職業倫理並びに専門的知識及び技術の向上に関する事業
(2) 介護福祉に関する調査研究に関する事業
(3) 介護福祉士教育機関その他関係団体との連携及び協力に関する事業
(4) 介護福祉の普及啓発に関する事業
(5) 介護福祉士の相互福祉に関する事業
(6) その他本会の目的を達成するために必要な事業
4. 所管官庁に関する事項
厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課
5. 会員の状況

種類	当期末	前期末比増減
正会員	43,080	1,556(増)
賛助会員	14	8(減)
名誉会員	1	-

※正会員については、定款第7条及び第8条第4項の規定に従い整理した。

6. 主たる事務所の状況
主たる事務所：東京都港区虎ノ門1丁目22番13号 西勘虎ノ門ビル3階
7. 役員等に関する事項
〈別表1・省略〉

8. 職員に関する事項

職員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
男子	5名(減)	1名(減)	3年6月
女子	1名(減)	1名(減)	7年5月
合計平均	6名(減)	2名(減)	53歳
			4年2月

※他に有期労働契約女子社員2名

II 事業の状況

1. 介護福祉士の職業倫理並びに専門的知識及び技術の向上に関する事業
- (1) 専門分野に関する事業
- (2) 生涯研修制度検討委員会

・生涯研修制度検討委員会
・当年度においては3回の委員会を開催し、生涯研修体系について検討を行った。また、ファーストステップ研修の諸規程を検討した。

・ファーストステップ研修等のレポート評価体制を構築した。
・ファーストステップ研修の講師養成、テキスト作成の検討を行った。

- (2) 各種研修に関する事業
- ① 日本介護福祉士会会員が広く参加する研修
- ② 全国大会の開催

○全国大会の開催
全ての介護福祉士の研究意欲を高めるとともに、介護福祉実践場面での知識・技術の向上を図るため次のとおり開催した。

開催年月日	開催場所	人数
20年9月20日(土)～21日(日)	伊香保温泉 ホテル天坊	600名

○ブロック研修会の実施

介護福祉士としての資質の向上を図るため、介護問題を巡る最新のテーマに基づいた研修会を実施した。

（ブロック研修）

開催年月日	開催場所	人数
北海道・東北ブロック(山形)	20年10月24日(金)～25日(土)	天童ホテル
関東・甲信越ブロック(東京)	20年6月21日(土)	350名
大妻女子大学多摩キャンパス	600名	
東海・北陸ブロック(石川)	20年7月19日(土)～20日(日)	山代温泉 ホテル雄山閣
近畿ブロック(兵庫)	20年11月9日(日)	220名
中国・四国ブロック(徳島)	20年11月14日(金)～15日(土)	徳島グランヴィリオホテル
九州ブロック(鹿児島)	20年9月12日(金)～13日(土)	九州ブロック(鹿児島)
かごしま県民交流センター	400名	

（ブロックリーダー研修）

開催年月日	開催場所	人数
北海道・東北ブロック	20年7月5日(土)～6日(日)	旭川勤労者福祉会館
関東・甲信越ブロック	20年5月25日(日)	83名
東大島文化センター	26名	
東海・北陸ブロック	20年10月18日(土)	ホテル信濃路(長野県)
27名		
富山観光ホテル	11名	
三重県社会福祉会館	68名	

近畿ブロック

開催年月日	開催場所	人数
20年8月16日(土)～17日(日)	洛西ふれあいの里保養研修センター	34名
20年3月14日(土)	業業年金会館(大阪府)	63名
中国・四国ブロック	20年11月4日(火)～5日(水)	さざんか会館(鳥取県)
12名		
九州ブロック	20年8月20日(日)	39名
福岡県	21年3月8日(日)	24名

- ② 総合的なキャリアアップを目的とする研修(生涯研修プログラム)に則って実施
- 初任者研修の実施
- ・ 初任者を対象として都道府県支部において実施した。
- ファーストステップ研修試行事業の実施
- ・ 各支部で円滑な事業実施が出来るよう次のとおり実施した。

開催年月日	開催場所	人数
20年3月9日(日)～12月14日(日)	福岡県	19名
20年3月15日(土)～9月28日(日)	近畿ブロック	41名
20年3月23日(日)～8月24日(日)	新潟県	40名
20年6月22日(日)～21年1月12日(日)	神奈川県	23名
20年7月13日(日)～21年3月1日(日)	東京都	12名
20年7月19日(土)～21年2月1日(日)	大阪府	41名
20年8月9日(土)～21年2月25日(水)	滋賀県	31名
20年8月30日(土)～21年4月11日(土)	静岡県	23名
宮崎県	18名	

○リーダー研修の実施

・ファーストステップ研修の講師養成を実施した。

開催年月日	開催場所	人数
20年10月29日(水)～31日(金)	ウイニング横浜	16名
20年11月29日(土)～30日(日)	東京グランドホテル	19名

- 「(仮称) 認定専門介護福祉士(認知症)養成研修」の実施
- ・ 東西会場において各1回次のとおり実施した。

開催年月日	開催場所	人数
20年6月20日(金)～22日(日)	ウイニング横浜	19名
20年7月12日(土)～13日(日)	味覚UHA館(東京都)	19名
20年12月19日(金)～21日(日)	京都テルサ	31名
21年1月17日(土)～18日(日)	京都アスニー	31名

③ 職能的研修

○ 介護技術講習主任指導者養成講習会の実施
・ 主任指導者養成講習会を次のとおり実施した。

開催年月日	開催場所	人数
20年9月2日(火)～3日(水)	ウイニング横浜	40名

④ その他の研修

○ 介護福祉士実習指導者講習会講師養成研修の実施

・介護福祉士実習指導者講習会の講師養成を次のとおり実施した。

開催年月日	20年8月30日(土)～31日(日)
開催場所	TOC有明コンベンションホール
人数	200名

- 介護福祉士実習指導者講習会の実施
- ・47都道府県支部(延べ69開催)〈参考資料3・省略〉において実施した。
- 「(仮称)認定専門介護福祉士(認知症)養成研修」フォーアアップ研修の実施
- ・次のとおり実施した。

開催年月日	21年2月7日(土)～8日(日)
開催場所	ハートンホテル南船場(大阪府)
人数	26名

- 「介護福祉士海外研修・調査」への会員参加及び募集協力を行った。
- 主 催：財団法人社会福祉振興・試験センター
- 派遣国：スウェーデン
- 実施期間：平成20年9月6日～9月20日

- 2. 介護福祉に関する調査研究に関する事業
- 第8回介護福祉士の就労実態と専門性の意識に関する調査
- ・より良い介護サービスの提供に資するこ
- と等を目的として、時代の変遷とともに
- 介護福祉士に求められているものおよび
- 就労実態に関する調査の内容を検討し、
- 調査を実施した。

- 3. 介護福祉士教育機関その他関係団体との連携及び協力に関する事業
- 当年度は、各団体と連携し、〈別表2・省略〉のとおり連携強化を図った。
- 介護技術講習会主任指導者養成講習会の実施
- ・神奈川県において実施した。

- 介護技術講習会指導者養成講習会の実施
- ・都道府県支部において実施した。
- 第21回介護福祉士国家試験(実技試験)の実地試験委員として、99名を社会福祉振興・試験センターに派遣した。

- 4. 介護福祉の普及啓発に関する事業
- 介護相談
- ・全国一斉介護相談「敬老の日・老人保健福祉週間の活動に協力実施し、支部において実施した。〈参考資料2・省略〉

- 介護の日
- ・「介護の日」ひろめ隊」と命名し、都道府県支部において街頭アンケートを実施した。
- 日本介護福祉士会ニュースの発行
- ・当年度は通巻No.85号からNo.90号を偶数月15日に発行した。支部を通じて全会員に送付するほか、有償購読者85(介護福祉士養成施設、その他団体・個人)に送付している。

- リーフレットの作成
- ・入会を促進するためリーフレットを作成し、適宜配布した。
- ホームページによる情報提供
- ・昨年度に引き続き、速やかな情報更新を行った。

- 介護福祉士国家試験受験対策事業の実施(模擬試験等)
- ・介護福祉士国家試験受験対策事業の実施(模擬試験等)
- ・介護福祉士国家試験受験支援のための、全国一斉模擬試験の実施(参考資料2・省略)

- 介護福祉士国家試験解答速報の福祉新聞への掲載
- 「受験せよみな」の福祉新聞への掲載
- 介護支援専門員全国一斉模擬試験の実施(参考資料2・省略)

- 5. 介護福祉士の相互福祉に関する事業
- 会員専用福利厚生制度(安心三重奏)の団体加入促進に取り組んだ。
- 昨年度に引き続き、会員証付帯福利厚生制度の充実に取り組んだ。

- 6. その他本会の目的を達成するために必要な事業
- 制度・政策検討委員会
- ・当年度においては委員会を9回開催し、政策提言事項、要望事項等の内容を検討し、それぞれ対応した。

- ・「参議院厚生労働委員会」、厚生労働省の「介護労働者の確保・定着等に関する研究会」に政策提言する内容について検討し、提言・要望を行った。
- ・「介護労働者を守り日本の介護を良くするための署名」の署名活動を5月から実施し、9月末には、政党からのメッセージ、現場からの声、介護人材確保のためのシンポジウムの三部作で構成したアピールのための全国集会を開催し、18万人もの署名を厚生労働大臣に提出した。

- ・介護報酬改定に向けて「平成21年介護報酬見直しにあたっての要望」を取りまとめ、国に提出した。
- 学術研究活動
- ・介護福祉にかかわる学術的な研究を推進

開催年月日	第6回日本介護学会 20年12月6日(土)～7日(日)
開催場所	富山観光ホテル
人数	320人

- ・介護福祉の専門的な技術、知識の向上を図るため、次のとおり開催した。
- ・学術専門誌「介護福祉士」No.10号及びNo.11号を刊行した。
- 組織財政運営(諸会議の開催)
- ・通常総会1回
- ・理事会2回
- ・常任理事会8回
- ・正会員理事懇談会2回
- ・都道府県会長会2回
- ・組織強化委員会2回
- ・研修委員会2回
- ・広報委員会1回
- ・倫理委員会3回
- ・全国大会実行委員会3回
- ・ブロック会議(各ブロックで3回)(会員の加入促進)

- ・都道府県会長会において提言を行い、具体的目標数を決定し、各支部はその達成の取り組みを行った。
- ・本会活動の積極的な周知に努め、賛助会員の獲得を図るなどして組織基盤を整備した。
- ・都道府県介護福祉士会の健全な発展のため、社団法人化及び一般社団法人化を支援した。
- ・社団法人化支部7支部(新潟県、長野県、大阪府、岡山県、広島県、福岡県、沖縄県)
- ・一般社団法人化支部3支部(神奈川県、静岡県、兵庫県)

- 補助金事業
- ・(公的助成の確保を図り、事業の充実を図った。)
- ・厚生労働省「介護福祉士実習指導者講習会」の実施
- ・介護福祉士養成カリキュラムの見直しにともない、実習施設・事業等(Ⅱ)における実習指導者が修了しなければならぬ講習会を47都道府県支部において実施した。

- ・厚生労働省「介護福祉士の専門性を活かした被災者対応マニュアル作成等事業」の実施
- ・(災害時に生じる個々のニーズに応じた支援優先課題を見出し、一貫した内容のボランティア活動支援が可能となる「災害時における生活7領域アクセスメント表」を含む、避難所等における高齢者・障がい者に対する自立支援と介護予防を目的とした介護支援ボランティアマニュアルを作成した。)
- ・厚生労働省「介護労働者に関する国民への周知及び労働環境の改善等に関する調査研究事業」の実施
- ・(介護現場における問題点を明らかにしたシンポジウムや、国民の介護に対する意識を明白にしたアンケート調査の結果、「介護の日」ひろめ隊」事業等の内容を総括した報告書を作成した。)
- ・厚生労働省「認知症高齢者の生活の質を高めた介護方法に関する調査研究事業」の実施
- ・(認知症による行動・心理症状へ適切に対応し、高い生活の質を維持する支援を行うことのできる介護福祉士を育成する際に、有用な教材として活用できる報告書を作成した。)
- ・独立行政法人福祉医療機構「介護現場におけるサービスの質の確保に関する調査研究事業」の実施
- ・(アンケート結果を基に作成した日本介護福祉士会方式「事故報告書」、「ひやり・はっと報告書」様式や事故及びひやり・はっとの定義付けについてまとめた報告書を作成した。)
- ・財団法人社会福祉振興・試験センター「リーダー研修会」の実施
- ・(介護福祉士初任者等を指導するリーダーを養成するために、研修会を実施した。)
- 第三者評価事業
- ・東京都第三者評価事業の評価機関として認証を受け、評価を行った。
- ・グループホーム1件、評価者の養成10名(継続研修を含む)
- ・各支部の実施状況
- ・神奈川県、新潟県、富山県、長野県、静岡県、京都府、福岡県で実施した。

- 介護サービス情報の公表事業
- ・各支部の実施状況
- ・新潟県、富山県、長野県、静岡県、京都府、福岡県で実施した。

ソウエルクラブ(福利厚生センター)ご加入のおすすめ

■職員の健康管理のために

- 生活習慣病予防健診費用助成
- 健康生活用品給付
- スポーツクラブ
- 電話健康医療相談

■職員の慶事のお祝いに

- 結婚お祝品贈呈
- 出産お祝品贈呈
- 入学お祝品贈呈
- 資格取得記念品贈呈
- 永年勤続記念品贈呈

■地域に密着した事業

- 会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等)

■職員の万が一の際に

- 会員の死亡弔慰金
- 会員の配偶者の死亡弔慰金
- 会員の入院・手術見舞金
- 災害見舞金

■職員の余暇活用のために

- 指定保養所・休暇村他 7種類の宿泊施設、全国289か所
- 海外リフレッシュツアー
- クラブ・サークル活動支援
- テーマパーク
- 国内・海外旅行
- レンタカー
- カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等

■職員の資質向上のために

- 海外研修
- 広報講習会
- レク・リーダー養成講習会
- 接遇講習会
- パソコン講習会
- メンタルヘルス講習会

■職員の生活サポートのために

- 住宅ローン・特別資金ローン
- クレジットカード
- ソウエル団体生命保険

■各種情報提供

- 会員情報誌、ソウエルクラブニュース
- ホームページ

加入できる職員

■社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。

掛金

■掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。

加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル

TEL ☎0120-292-711
FAX ☎0120-292-722
<http://www.sowel.or.jp/>
社会福祉法人 福利厚生センター
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-21-17虎ノ門NNビル

魅力ある職場づくりに福利厚生センターをご活用ください

平成21年度事業計画書

1. 介護福祉士の職業倫理並びに専門的知識及び技術の向上に関する事業

介護福祉士の資質向上等を目的として研修を実施する。

① 専門分野に関する事業

○生涯研修制度検討委員会―生涯研修システムを運営し、認証制度を実施する。
更に継続してシステムの普及・推進について検討を行う。

―ファーストステップ研修の内容を点検・再構築し、講師養成・テキスト作成等を行い、事業運営に必要な認定認証部門、研修評価部門等を設置する。
―認証制度のシステムを実施し、生涯研修手帳が効果的に活用できるよう支援する。

② 介護の専門性に関する研究委員会及び部門の設置について検討する。

・専門介護福祉士（認定専門介護福祉士等）養成のための研究部門設置に向けて委員会を設ける。
・介護職のための事例研究、研究方法及び発表の仕方などについての研修及び支援を行う委員会を設置し、全国大会、学会発表を促進するとともに専門性の向上・確立を目指す。

③ 各種研修に関する事業

① 日本介護福祉士会会員が広く参加する研修
―全国大会の開催
―全ての介護福祉士の研究意欲を高めるとともに、介護福祉実践場面での知識・技術の向上を図るため時宜に合ったテーマに沿って、講演、分科会等開催を全支部が支援し、実施する。（開催県＝大阪府）

④ ブロック研修会の開催（各ブロックで主催）

―介護福祉士としての資質の向上を図るため、介護問題を巡る最新のテーマに基づいた研修会を実施する。
② 総合的なキャリアアップを目的とする研修（生涯研修プログラムに則って実施）

⑤ 初任者を対象として研修を実施する。

―ファーストステップ研修
―国の法令、通知の改正を見込みつつ、各支部で円滑な事業実施が出来るよう研修事業を行う。

○リーダー研修の実施

―ファーストステップ研修・初任者研修などの講師養成をさらに充実させる目的として実施する。

○専門研修

―（仮称）認定専門介護福祉士（認知症）養成研修の実施
―介護福祉士実習指導者講習会の実施

―施設及び養成校における実習の指導に当たる者に必要な知識・技術を付与することを目的として講習会を実施する。
―各県で講習会が実施出来るように講師養成研修会を実施する。

③ 職能的研修

○サービスマニユアル研修（各ブロック又は支部において実施）
―介護保険制度で多くの介護福祉士がその責務を担うサービスマニユアル研修に必要知識を付与することを目的として実施する。

○介護支援専門員現任研修（各ブロック又は支部において実施）

―「日本介護福祉士会方式アセスメント・ケアプラン」を活用するなどして介護支援専門員の現任研修を行う。

○介護技術講習会主任指導者・指導者養成研修

―主任指導者・指導者養成研修を実施する。（主任指導者養成研修は中央実施、指導者養成研修は支部実施）

④ その他の研修

○海外研修の実施
―社会福祉振興・試験センター実施の海外研修への会員参加
○その他時宜に応じて必要な研修を行う。

2. 介護福祉に関する調査研究に関する事業

○就労実態と専門性の意識に関する調査研究
―より良い介護サービスの提供に資すること等を目的として、時代の変遷とともに介護福祉士に求められているものおよび就労実態に関する調査を実施し、介護福祉士の現況と今後の方向性について研究する。
○介護報酬改定の取組み状況の検証と評価に関する調査研究
―一般の介護報酬改定で位置づけられた介護従事者の専門性等のキャリアに着目した改定項目等に対する取組み状況の検証

等に関する調査を実施し、今後の介護報酬改定に向けての対応について研究する。
3. 介護福祉士教育機関その他関係団体との連携及び協力に関する事業
―各団体と連携し事業をすすめることにより一層、会の公益性を発揮させる。

○保健・医療・福祉の各団体との連携強化
○必要に応じて他団体、機関、研究所等との連携
○後継者の育成
―日本介護福祉士養成施設協会等の団体と協力し、後進の育成を図るとともに講師育成を図る。

○各支部事業への支援協力
○介護福祉士国家試験（実技試験）の実地試験委員派遣協力。

4. 介護福祉の普及啓発に関する事業

―介護福祉士に対する国民の要望に応え、本会の役割を普及させるため、各種事業を展開する。

○介護の日に関する事業の実施

・「介護の日」ひろめ隊の活動等の実施
11月11日の「介護の日」の普及啓発を図るとともに地域における支え合いの重要性等の理解と認識をひろめ、「介護の日」の意義を促す。

○シンポジウムの開催

国民が介護について理解と認識を深め、介護を取り巻く地域社会における支え合いや交流を促進する観点から公開シンポジウムを行う。

○介護相談事業などの実施

・介護相談マニユアル作成の実施
介護福祉士が、ニーズに添った質の高い確かなアドバイスをを行うために、介護相談マニユアルを作成する。

○日本介護福祉士会ニュースの充実・発行（年6回）

○ポスター及びパンフレットの作成
○ホームページによる情報提供―内容の一層の充実を図る
○調査研究事業の情報提供
○介護福祉士国家試験受験対策事業の実施
○介護福祉士国家試験受験対策事業の実施（模擬試験等）

○介護福祉士国家試験回答速報の福祉新聞への掲載

「受験せまな」の福祉新聞への掲載
○介護支援専門員実務研修受講試験受験対策

事業の実施（模擬試験等）

○介護に関する出版物の発行及び協力

5. 介護福祉士の相互福祉に関する事業

―会員相互の連携強化を図るための事業を実施
○各種保険制度への団体加入（安心三重奏）
○会員証付帯福利厚生制度の充実

6. その他本会の目的を達成するために必要な事業

○制度政策検討に関する事業
―介護福祉士の労働条件の改善・社会的評価の向上に対する取り組みを図る。
―介護保険制度とサービスマニユアルの質の評価に関する指標、自立支援法・医療行為・国家試験・介護福祉教育・外国人労働者などの介護福祉士制度に関する政策・提言については調査研究、研修部門と連携して検討する。

―行政を始めとする各委員会等に参画し提言していく。なお、国民、市民に向けての情報発信を積極的に行う。

○倫理委員会において、会員の倫理規定や倫理綱領を見直す。

○組織財政運営
―諸会議を開催し、健全な本会運営を図る
―総会、理事会及び常任理事会の開催
―各種委員会及び選挙管理委員会の運営
―各支部策定の「会員加入促進計画」に基づいて介護福祉士登録者の本会への加入を促進し、組織基盤を確立する。

○日本介護福祉士会及び都道府県介護福祉士会の健全な発展のため、公益社団法人認定を目指す。

―日本介護福祉士会及び都道府県介護福祉士会の健全な発展のため、公益社団法人認定を目指す。なお各支部の社団法人化を促進する。
―公的助成の確保を図り、事業の充実を目指す。

○災害救援事業の充実

―災害救援実践マニユアルの作成・充実を図る
○学術研究活動
―日本介護学会の運営と第7回学術集会の開催（開催県＝長野県）
―会員の実践・研究業績を広く周知し、生かすために専門誌「介護福祉士」（年2回）を発行する。

○第三者評価事業の実施・介護サービスの情報公表事業の推進

―日本介護福祉士会による事業の実施ならびに各支部が実施する場合の支援を行う。

○第三者評価事業の実施・介護サービスの情報公表事業の推進
―日本介護福祉士会による事業の実施ならびに各支部が実施する場合の支援を行う。

介護あいま

2009年
7月号
6月22日
発行

特集 高齢者の多様な住まい

高齢者の単身世帯等や要介護の高齢者等が増加することが見込まれており、子どもが巣立ったあとの生活期間が長くなるにつれ、どこでどのようにして生活していくかが重要になっていきます。そのため一般住宅のバリアフリー化や、介護や医療をはじめとするサービスが伴った高齢者向け住宅などへの関心も高まっています。本特集では、高齢者を支える住まいの現状と課題を探りながら、高齢者が安心して地域で住み続けられる住まいのあり方について考えます。

Part1 上野 千鶴子氏（東京大学大学院教授）にきく、おひとりさまを支える住まい

Part2 高齢者と住まい 井上 由起子氏（国立保健医療科学院施設科学部 施設環境評価室長） など

誌上セミナー「介護福祉士のためのキャリアアップ講座」

注 目 連 載 今全国の介護福祉士が自らのキャリアアップに向け、新たな研修にチャレンジしています。各地の介護福祉士会などが開催している「介護福祉士ファーストステップ研修」の内容をシリーズでお伝えします。

定期購読申込み受付中！

【FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい】お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい（品切れの際はご容赦下さい）。

●お申し込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

全社協

社会福祉 全国社会福祉協議会出版部
〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル
TEL：03-3581-9511

〈注文用〉 FAX：03-3581-4666 E-mail：zenshakyos@shakyo.or.jp

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ 福祉の本出版目録 検索 ▶▶http://www.fukushinohon.gr.jp

平成21年度 一般会計収支計算書 平成20年度

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

(単位：円)

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
(1)会費収入	236,000,000	236,000,000	0
①入会金収入	15,000,000	15,000,000	0
②年会費収入	219,000,000	219,000,000	0
年会費収入	216,000,000	216,000,000	0
過年度年会費収入	3,000,000	3,000,000	0
③賛助会費収入	2,000,000	2,000,000	0
(2)事業収入	88,100,000	30,730,000	57,370,000
①研修会費収入	60,000,000	10,000,000	50,000,000
②研修手数料収入	10,000,000	1,000,000	9,000,000
③協賛金収入	2,000,000	3,000,000	△ 1,000,000
④購読料収入	200,000	200,000	0
⑤生涯研修手帳頒布収入	0	30,000	△ 30,000
⑥ファーストステップ研修会手数料収入	0	500,000	△ 500,000
⑦手数料収入	15,000,000	15,000,000	0
⑧委託料収入	900,000	1,000,000	△ 100,000
第三者評価事業収入	900,000	1,000,000	△ 100,000
(3)補助金等収入	31,241,000	37,001,000	△ 5,760,000
①国庫補助金収入	27,241,000	33,001,000	△ 5,760,000
②民間助成金収入	4,000,000	4,000,000	0
(4)災害活動費収入	0	0	0
①災害活動費預り金受入収入	0	0	0
(5)雑収入	150,000	150,000	0
①雑収入	150,000	150,000	0
受取利息収入	100,000	100,000	0
雑収入	50,000	50,000	0
事業活動収入計	355,491,000	303,881,000	51,610,000
2. 事業活動支出			
(1)事業費支出	256,741,000	214,351,000	42,390,000
①研修費支出	97,241,000	53,401,000	43,840,000
②調査研究費支出	1,500,000	2,500,000	△ 1,000,000
③広報費支出	8,500,000	8,000,000	500,000
④組織費支出	7,800,000	7,600,000	200,000
⑤専門研究費支出	1,400,000	1,400,000	0
⑥その他事業費支出	29,250,000	30,400,000	△ 1,150,000
⑦会員証作成費支出	50,000	50,000	0
⑧支部活動費支出	108,000,000	108,000,000	0
⑨学術研究活動費支出	3,000,000	3,000,000	0
(2)管理費支出	97,100,000	87,100,000	10,000,000
①人件費支出	50,000,000	42,500,000	7,500,000
②顧問料支出	900,000	900,000	0
③事務所費支出	6,500,000	6,500,000	0
④通信運搬費支出	2,500,000	2,500,000	0
⑤事務費支出	11,000,000	9,500,000	1,500,000
⑥渉外費支出	1,800,000	1,800,000	0
⑦租税公課支出	1,200,000	1,200,000	0
⑧会議費支出	23,200,000	22,200,000	1,000,000
(3)他会計への繰入金支出	0	0	0
①特別会計(医療機構)への繰入金支出	0	0	0
②特別会計(学会)への繰入金支出	0	0	0
事業活動支出計	353,841,000	301,451,000	52,390,000
事業活動収支差額	1,650,000	2,430,000	△ 780,000
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
①基本財産取得支出	1,000,000	1,000,000	0
②固定資産取得支出	0	0	0
投資活動支出計	1,000,000	1,000,000	0
投資活動収支差額	△ 1,000,000	△ 1,000,000	0
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出			
当期収支差額	350,000	430,000	△ 80,000
前期繰越収支差額	46,511,464	24,257,634	22,253,830
次期繰越収支差額	46,861,464	24,687,634	22,173,830

(注) 1. 借入金限度額 なし 2. 債務負担額 なし

平成20年度特別会計決算、平成21年度特別会計予算についてはホームページをご覧ください。

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
(1)会費収入	236,000,000	225,506,000	10,494,000
①入会金収入	15,000,000	16,745,000	△ 1,745,000
②年会費収入	219,000,000	207,061,000	11,939,000
年会費収入	216,000,000	202,414,000	13,586,000
過年度年会費収入	3,000,000	4,647,000	△ 1,647,000
③賛助会費収入(注1)	2,000,000	1,700,000	300,000
(2)事業収入	30,730,000	136,250,238	△ 105,520,238
①研修会費収入	10,000,000	116,319,000	△ 106,319,000
②介護技術講習事業収入	1,000,000	1,384,500	△ 384,500
③協賛金収入	3,000,000	1,110,000	1,890,000
④購読料収入	200,000	195,000	5,000
⑤生涯研修手帳頒布収入	30,000	79,900	△ 49,900
⑥ファーストステップ研修会手数料収入	500,000	190,000	310,000
⑦手数料収入	15,000,000	16,651,838	△ 1,651,838
⑧委託料収入	1,000,000	320,000	680,000
第三者評価事業収入	1,000,000	320,000	680,000
(3)補助金等収入	37,001,000	68,234,000	△ 31,233,000
①リーダー研修助成事業収入	4,000,000	4,000,000	0
②国庫補助収入	33,001,000	42,101,000	△ 9,100,000
③老人保健健康増進等事業収入	0	22,133,000	△ 22,133,000
(4)寄付金収入	0	0	0
①寄付金収入	0	0	0
(5)雑収入	150,000	421,696	△ 271,696
①雑収入	150,000	421,696	△ 271,696
受取利息収入	100,000	202,100	△ 102,100
雑収入	50,000	219,596	△ 169,596
事業活動収入計	303,881,000	430,411,934	△ 126,530,934
2. 事業活動支出			
(1)事業費支出	214,351,000	316,103,361	△ 101,752,361
①研修費支出	53,401,000	155,264,196	△ 101,863,196
②調査研究費支出	2,500,000	22,336,965	△ 19,836,965
③広報費支出	8,000,000	5,645,245	2,354,755
④組織費支出	7,600,000	5,300,230	2,299,770
⑤専門研究費支出	1,400,000	3,854,275	△ 2,454,275
⑥その他事業費支出	30,400,000	24,575,418	5,824,582
⑦会員証作成費支出	50,000	14,175	35,825
⑧支部活動費支出	108,000,000	95,907,000	12,093,000
⑨学術研究活動費支出	3,000,000	3,205,857	△ 205,857
(2)管理費支出	87,100,000	83,572,869	3,527,131
①人件費支出	42,500,000	42,706,062	△ 206,062
②顧問料支出	900,000	756,000	144,000
③事務所費支出	6,500,000	6,376,495	123,505
④通信運搬費支出	2,500,000	2,272,715	227,285
⑤事務費支出	9,500,000	4,397,073	5,102,927
⑥渉外費支出	1,800,000	1,310,402	489,598
⑦租税公課支出	1,200,000	3,114,000	△ 1,914,000
⑧会議費支出	22,200,000	22,640,122	△ 440,122
(3)他会計への繰入金支出	0	481,874	△ 481,874
①特別会計(医療機構)への繰入金支出	0	0	0
②特別会計(学会)への繰入金支出	0	481,874	△ 481,874
事業活動支出計	301,451,000	400,158,104	△ 98,707,104
事業活動収支差額	2,430,000	30,253,830	△ 27,823,830
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
①基本財産取得支出	1,000,000	8,000,000	△ 7,000,000
②固定資産取得支出	0	0	0
投資活動支出計	1,000,000	8,000,000	△ 7,000,000
投資活動収支差額	△ 1,000,000	△ 8,000,000	7,000,000
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出			
当期収支差額	430,000	0	1,000,000
前期繰越収支差額	24,257,634	22,253,830	△ 21,823,830
次期繰越収支差額	24,687,634	46,511,464	△ 21,823,830

(注1) (株)アイ・ジー・オー、新日本法規出版(株)、名鉄観光サービス(株)、東洋羽毛工業(株)、社団法人日本介護福祉士養成施設協会、(株)トータル保険サービス、中央法規出版(株)(2口)、厚有出版(株)、社団法人全国老人福祉施設協議会、学校法人上智社会福祉専門学校、(株)損害保険ジャパン(2口)、(株)ジャパン保険サービス、(株)ピュアスピリッツ(2口)、トップツアー(株)(敬称略)(14団体)

第16回 全国大会

- 1. 日程 12月4日(金)～5日(土)
- 2. 会場 大阪国際交流センター
- 3. テーマ 「好きやねん介護福祉士」
- 4. 定員 1,000名
- 5. 対象者
 - ・日本介護福祉士会会員
 - ・社会福祉協議会、行政機関等の役職員
 - ・介護福祉士養成校、福祉関係の学生及び教職員
 - ・福祉・保健・医療関係者、その他一般
- 6. 参加費 会員3,000円、一般10,000円、学生1,000円
- 7. プログラム概要

第1日目

- 開会式典
- 基調講演 厚生労働省(予定)
- 記念講演 中井政嗣氏(千房株式会社社長)
- 特別講演 調整中
- 懇親会

第2日目

- 分科会①「認知症ケアにおける介護福祉士の専門性」
座長：田中涼子氏(高齢者福祉総合施設ももやま副園長)
- ②「障害者ケアにおける介護福祉士の専門性」
座長：調整中
- ③「在宅ケアにおける介護福祉士の専門性」
座長：濱田和則氏(社団法人大阪介護支援専門員協会会長)
- ④「施設ケアにおける介護福祉士の専門性」
座長：福森潔氏(特別養護老人ホーム寿光園施設長)
- ⑤「人材育成における介護福祉士の専門性」
座長：西野(和田)佳名子氏(特別養護老人ホーム喜楽苑々長)
- シンポジウム「介護福祉士の質の向上と評価について考える」
コーディネーター：白澤政和氏(大阪市立大学大学院生活科学研究科教授)
シンポジスト：川井太加子氏(桃山学院大学社会学部社会福祉学科准教授)
大阪府老人介護者(家族)の会連絡会
社団法人大阪介護福祉士会会員
緒方しのぶ(社団法人大阪介護福祉士会会長)
石橋真二(社団法人日本介護福祉士会会長)

分科会報告
閉会式典

※詳細は日本介護福祉士会ホームページをご参照ください。

発表事例募集のご案内

全国大会であなたの研究成果を発表してみませんか!

<申し込み方法>

1. 事例発表希望者は「事例発表申込書」に必要事項を記入し、事務局宛てにFAXまたはEメールで送付してください。(郵送の場合も同日必着)
申込締切は9月4日(金) 必着です。
送付先：FAX03-3507-8810
Eメール：webmaster@jaccw.or.jp
2. 発表事例は、第1～第5分科会のテーマより選択してください。
第1分科会：「認知症ケアにおける介護福祉士の専門性」
第2分科会：「障害者ケアにおける介護福祉士の専門性」
第3分科会：「在宅ケアにおける介護福祉士の専門性」
第4分科会：「施設ケアにおける介護福祉士の専門性」
第5分科会：「人材育成における介護福祉士の専門性」
3. 申込事例は本会で選考のうえ発表事例を決定し、ご本人宛て通知いたします。
4. 選考に際しては、会員を優先させていただきます。
5. 発表事例は抄録原稿を大会資料冊子に掲載し、分科会において決められた時間内で口頭発表していただきます。(発表20分、質疑応答10分程度)
6. 事例発表者は予め申し出てパソコン・プロジェクター等を使用することができます。

<抄録の提出>

1. 事例発表者には、事前に発表要旨の抄録を提出していただきます。
抄録提出締切りは10月7日(水) 必着です。
2. 抄録は必ずパソコン(文章はWord、表データはExcel)で作成することとし、Eメールによる提出とします。
3. 原稿量はA4用紙で4枚程度とします。
注1) 発表者の大会参加費用は全て本人負担とします。
注2) 会員の方が発表された場合の生涯研修制度単位数は、次のとおりとなります。
①全国大会全てに参加・・・16ポイント
②分科会での発表時のみ参加・・・6ポイント

東海・北陸ブロック研修会

- 1. テーマ 「尊厳ある生を支える介護」～介護福祉の実践をとおして～
- 2. 日程 平成21年8月28日(金)～29日(土)
- 3. 会場 ホテルコンコルド浜松 「雲の間」他
- 4. 定員 300名
- 5. 参加費 会員3,000円、非会員一般8,000円、学生1,000円
- 6. 申込み・問合せ先 静岡県介護福祉士会事務局
TEL 054-253-0818 FAX 054-253-0829

北海道・東北ブロック研修会

- 1. テーマ 「今、誰もが迎える死を考える」
～いのちを支える介護の原点をみつめる～
- 2. 日程 平成21年9月4日(金)12:30より9月5日(土)12:00まで
- 3. 会場 ホテル 華の湯 福島県郡山市熱海町熱海5丁目6-80
- 4. 定員 150名
- 5. 締め切り 平成21年7月31日(金) 必着(FAX可)
- 6. 参加費用 <参加費>会員1,000円、一般3,000円(1日のみの参加でも同額)
学生 無料
<別途費用>懇親会・宿泊・朝食込み12,500円
宿泊のみの受付はしていません
- 7. 申し込み・問い合わせ先 福島県介護福祉士会事務局
TEL・FAX 0247-57-5275

関東・甲信越ブロック大会

- 1. テーマ ～ひびきあう心とこころ・「介護」to「快互」～
- 2. 期日 平成21年9月25日(金)～26日(土)
- 3. 会場 ホテルグリーンタワー千葉
〒260-0025 千葉市中央区問屋町1-45 ポートスクエア
- 4. 定員 500名
- 5. 参加費 会員3,000円、一般5,000円、学生1,000円
- 6. 申し込み・問い合わせ先 千葉県介護福祉士会事務局
TEL 043-248-1451

第7回 日本介護学会

- 1. 日時 平成21年10月31日(土) 10:00～16:40
- 2. 会場 佐久勤労者福祉センター 長野県佐久市佐久平駅南4-1
- 3. プログラム
10:00 開会式、記念講演 鈴木 隆雄 氏
13:00 研究発表
16:00 研究発表に対する講評
16:30 閉会式
- 4. 参加対象 日本介護学会会員 一般 学生
- 5. 参加費用 参加費 会員3,000円、一般13,000円、学生1,000円
- 6. 申込先 JTB長野支店 TEL 026-224-0303
- 7. 申込締切日 9月30日(水)
- 8. 問い合わせ先 日本介護学会事務局(社団法人日本介護福祉士会事務局内)
TEL 03-3507-0784 FAX 03-3507-8810

平成22年度(第38回) 民間社会福祉施設職員海外研修生の募集

- ▼対象職種
①生活指導員 ②職業指導員 ③児童指導員 ④心理・職能判定員 ⑤PT ⑥OT ⑦看護師 ⑧介護職員 ⑨保育士 ⑩その他特に必要と認める者
- ▼対象要件
①年齢27歳以上45歳以下の者 ②経験年数5年以上の者 ③研修・研究する具体的なテーマを有する者 ④英語の日常会話及び研修科目の専門用語の知識を有する者
- ▼募集人員 10人程度
- ▼研修期間 15日間(平成22年4月初旬から8月までの2か月から4か月以内の承認された期間)
- ▼研修方法 デンマーク又はアメリカでの合同研修及び各人が個別に設定する個別研修
- ▼応募方法 応募書類を施設の長が都道府県(政令指定都市・中核市)を経由して財団へ提出
- ▼推薦期限 平成21年8月31日
- ▼試験方法 ①書類審査 ②実地試験
- ▼試験日程 平成21年9月17日(木)から18日(金)
- ▼問い合わせ先 (財)中央競馬馬主社会福祉財団 企画・管理部 TEL03-5472-5581

支部の研修

東京支部研修情報

- 【介護支援専門員実務研修受講試験】
対策講座のご案内
日程 7月20日(月・祝) 9時～16時
9月26日(土) 9時～16時
9月27日(日) 9時～16時
会場 東京しごとセンター(飯田橋)
- ▼定員 50名
- ▼対象者 介護支援専門員実務研修受講試験の受験を予定している方
- ▼受講料 3日コース 会員17,850円
非会員27,300円
模擬試験のみ 非会員3,500円
非会員4,600円
- ▼問い合わせ先 NPO法人東京都介護福祉士会
TEL03-5624-2821

滋賀支部研修情報

- 【平成21年度レクリエーション研修】
日程 8月12日(水)
【臨時総会及び会員研修会】
日程 9月12日(土)
研修テーマ 「どうすれば介護現場にやる気と元気をもたらすモチベーション・クリエーターになれるか」
- ▼講師 日本女子大学久田則夫教授
- ▼【認知症ケア研修】
日程 10月5日(月)・27日(火)・11月9日(月)の3日間シリーズ
- ▼【介護福祉士受験・直前対策講座】
会場 草津会場、彦根会場、大津会場
- ▼問い合わせ先 滋賀県介護福祉士会
TEL077-568-1758

三重支部研修情報

- 【平成21年度初任者研修会】
日程 7月11日(土) 9時～16時
8月22日(土) 9時～16時
8月23日(日) 9時～16時
- ▼場所 三重県社会福祉会館 3階講堂
- ▼内容 介護福祉士の専門性・職業倫理・法・制度、介護技術、介護過程展開、高齢者の疾病など
- ▼問い合わせ先 三重県介護福祉士会
TEL059-271-9918

広島支部研修情報

- 【介護従事者スポーツ交流会】
日程 7月16日(木)
- ▼会場 広島県立総合体育館小アリーナ
- ▼内容 ソフトバレーボール等
- ▼参加費 1,000円(昼食代・保険料含)
- ▼問い合わせ先 社団法人広島県介護福祉士会
TEL082-254-3016



社団法人 日本介護福祉士会

URL : <http://www.jaccw.or.jp/>

E-mail : webmaster@jaccw.or.jp

介護福祉士の待遇改善や将来展望等について議論

平成21年度第一回都道府県介護福祉士会会長会を実施

本年第一回目の都道府県介護福祉士会会長会が、神奈川県横浜市のゆめおおおかオフィスタワーで開催された。



冒頭で石橋真二会長は、本年度からの介護報酬の改定について触れ、経済危機のもとでの行政や政治団体への働きかけ、報酬アップ率3%の達成、介護職員等処遇改善交付金の実施、さらに介護福祉士という職業の専門性に対する評価の高まりに言及、「介護福祉士にフォーローの風が吹きはじめた」と述べた。

また課題として、さらに職員の待遇改善の必要性があること、研修システムの拡充、公益法人への移行問題、医療職と介護職の連携のあり方などをあげ、これらの解決に向けて新たなステップに踏み出す覚悟を示した。

続いて、厚生労働省老健局振興課課長補佐・菊池芳久氏が「介護報酬改定及び緊急経済危機対策等について」と題して講演を行った。

その内容は、介護従事者の人材確保・処遇改善のための報酬加算の内容、介護拠点の緊急整備のための市町村交付金や施設整備費に対する助成金の拡充、介護職員の研修支援体制の新たな実施などについてであった。(詳細は2面)

また、今後の介護保険制度を取り巻く課題として、高齢者人口の増加による保険財政の



問題、同時に認知症高齢者の増加にともなう認知症ケアシステムの整備が急務であることなどに触れた。

社会福祉法人全国社会福祉協議会中央福祉人材センターの楠聖伸氏は、「ファーストステップ研修について」説明を行い、平成18年度から20年度までの3年間の試行の成果から、ファーストステップ研修の定義、今後の方向性、申請時の注意事項などについて説明を行った。

説明後の質疑応答タイムでは、「研修に別講座として医療部分のカリキュラムを導入できないか」、「ファースト

ステップ研修を受けた者はスムーズにリーダー研修を受けられるシステムの構築はできないか」、「具体的なシラバス例を示してほしい」、「6カ月という期間の長さは多忙な介護職員にとっては厳しい」、「行政の理解を深めるために、ファーストステップ研修の意義の周知徹底を」など、活発なディスカッションが繰り広げられた。

全体会では、事務局から「平成21年度事業計画」「平成21年度国庫補助事業等」「全国大会および日本介護学会の開催予定」について説明を行った。全国大会については、大阪府の大阪国際交流センターにて12月4日(金)・5日(土)に開催する(詳細は4面)。

参加員目標も確認され、会員の積極的な参加が望まれた。日本介護学会については、長野県佐久市にて10月31日(土)に開催する(詳細は4面)。



「専門職という意識が高まった」「リーダーとしての自分を見直すきっかけとなった」と答えています。

日本介護福祉士会役員の動き (H21.6/1~7/31・抜粋)

- 6/2 全国社会福祉協議会「ファーストステップ研修普及・認定等委員会」に石橋会長が出席
- 6/10 厚生労働省「特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員の連携によるケアの在り方に関する検討会」に木村副会長が出席
- 6/13 京都支部一般社団法人化式典に石橋会長が出席
- 6/18 常任理事会開催
- 6/19 日本老年医学会介護連携検討委員会に内田副会長が出席
- 6/24 社会保障審議会介護給付費分科会に田中名誉会長が出席
- 6/25 中国・四国ブロック研修会に石橋会長が出席
- 7/17~18 都道府県介護福祉士会会長会開催
- 7/23 全国介護老人保健施設大会に石橋会長が出席
- 7/30 常任理事会開催

(詳細は4面)。また、全国大会と日本介護学会の開催について、将来的には同じ日の開催にしてはどの提案もなされ、今後の検討事項となった。



その後のディスカッションでは、日本介護福祉士会として国に対して、介護福祉士の待遇改善等を訴えていくために、そのための調査研究を早急に行い、数値的根拠に基づいた要望を取り戻すべく、今回の研修の3%の報酬アップはあくまでも通過点であり、次なる改定に向けた取り組みを行っていくことが必要であるとの声が多かった。その他、ファーストステップ研

ファーストステップ研修について

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
中央福祉人材センター
楠 聖伸 氏

ファーストステップの目的は、実務経験2年程度であって基礎的な業務に習熟した介護職員を対象として、的確な判断、対人理解に基づく尊敬を支えるケアが実践でき、小規模チームのリーダーや初任者等の指導係として任用することを期待できるレベルの視点や技術を養成する点にあります。

制度上の位置づけとして、個室ユニットケアを行う介護保険施設、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護などにおいて、ユニットごとに少なくとも一名のファーストステップ研修修了者を常勤で配置する、ケア単位の小規模化を進め、サービスの質を高めるため、従来型の介護保険施設、通所系サービス、特定施設入所者生活介護などにおいて、ファーストステップ研修修了者の常勤配置を報酬上評価する、訪問介護事業のサービス提供責任者について、ファーストステップ研修修了者を常勤で配置する、などの提案を行っています。

当研修は、「ケア領域(72時間)」、「連携領域(48時間)」、「運営管理基礎領域(80時間)」の3つの領域で構成され、研修内容は「ファーストステップ

研修ガイドライン」に明示しています。

平成18年度から20年度までの3年間の認定・実施状況を申し上げます。3カ年の合計で定員11623名に対して受講者は1050名、その内の修了者は834名となっております。

受講後の評価を聞いたところ、修了者の9割以上が「同僚・後輩に受講を勧めたい」と答え、その理由として

会長会 講演

介護報酬改定及び 緊急経済危機対策等について

厚生労働省 老健局 振興課 課長補佐 菊池 芳久氏

介護保険の現状

介護保険制度の実施状況として、65歳以上の被保険者数は、2000年4月からの8年間で約592万人（27%）増加、要介護（要支援）の認定者数は約237万人（109%）増加しています。特に、要支援・要介護1の認定者が大幅に増加しています（8年間で133%増）。

また、サービス受給者は2000年4月の約149万人から2008年4月には約347万人と約222万人（149%）の増加となり、分野別では特に居宅サービスが177%の増加と、大きく伸びています。

介護保険財政として、介護職員等単独の総費用は、8年間で約3・6兆円から約7・7兆円へと増加し、約2倍に増加しています。

介護職員数は6年で倍以上の増加が見られます。介護職員の賃金については、経験年数、平均年齢等の要素の違いにより、介護分野の賃金水準は産業全体と比較して低い傾向にあり、ホームヘルパーや福祉施設介護員の賃金は医療福祉分野における他職種と比較してもさらに低い傾向にあります。

介護職員・訪問介護員を合わせた離職率は、全産業平均よりも高い水準にあり、その分布をみると「10%未満」の事業所と「30%以上」の事業所との二極化が見られました。

21年度の介護報酬改定の経緯と概要

21年度の改定に先立って行われた、介護事業経営実態調査においては以下のような結果が得られました。

前回調査（平成17年）に比べ収支差率が低下しているサービスは、主に人件費の伸び等を背景に支出が増加している傾向にあります。

また、前回調査に比べ収支差率が増加しているサービスについては、利用者1人当たりの収入が増加しているサービスや、職員1人当たりの訪問回数が増加しているサービスが、地域別に見ると、特

別に（23区）は職員1人当たりの給与が高いことにより、収支差率が低い傾向にあります。

事業所規模で見た場合、小規模事業所の収支差率が低い傾向にあり、これは特に人件比率が高いことが影響している可能性が考えられます。

また、介護サービス事業の実態把握のためのワーキングチームからの報告では、介護サービス事業の経営や従事者の処遇には様々な要因があり、介護報酬水準の改定だけでは諸問題の根本的解決につながらないため、諸要因の十分な分析と、幅広い観点からの施策を講じる必要性が訴えられました。実際には、従事者の専門性評価や、人事的労務管理、事務的負担などが、諸要因として挙がっています。

これらの結果を踏まえて、今回の改定では介護報酬の3%引き上げを行いました。これは、前回改定を行った平成18年以降、そのコストの伸びは賃金と物価上昇率を勘案しても1%に届いておりませんが、今後高齢化の進む日本社会においてさ

らに重要性を増す介護保険制度について、それを支える介護職員の待遇改善を、提供体制強化加算を新設しました。

その他にも、「人件費の地域差への対応」や「医療との連携・機能分化の推進」、「認知症ケアの推進」についての対応も盛り込みました。

現に介護職員として働く者を外部研修等に派遣する場面に必要な代替職員を雇用する事業を実施します。

地域相談体制の強化
地域包括支援センター等に、相談支援専門職のバックアップを行う職員や認知症の連携担当者等を雇用する事業を実施します。

また、「介護職員等の処遇改善・養成」として、以下の2つの対策を実施します。

介護職員のさらなる処遇の向上のため、介護事業者からの申請に基づき、介護報酬とは別に交付します。介護職員1人当たり月額1・5万円の賃金引き上げに相当し、平成21年10月サービス分から実施を予定し、2・5年分を予算計上しました。

新規介護職員等の養成
雇用保険の受給資格のない離職者等に対して、社会福祉施設等の現場において職業訓練を実施します。

地域の介護ニーズに
対応するため、地域密着型サービスの整備に係る既存交付金（市町村交付金）の拡充、施設整備に係る都道府県による補助金に対する地方財源措置の拡充を通じて、特養・老健・グループホーム・小規

模多機能事業所など介護拠点等を緊急に整備します。

現在の介護サービスは、介護報酬の引き上げが、今後高齢化の進む日本社会においてさ

らに重要性を増す介護保険制度について、それを支える介護職員の待遇改善を、提供体制強化加算を新設しました。

その他にも、「人件費の地域差への対応」や「医療との連携・機能分化の推進」についての対応も盛り込みました。



今後の課題

介護保険制度を取り巻く現状の課題として、以下のことが指摘されています。

現在、第一次ベビーブームの方々が高齢者世代になり、医療ニーズが高まっています。

同様に介護サービスだけでなく、要介護（要支援）にならないための施策（予防）の充実や個別ケアの推進が望まれています。

一方で、認知症高齢者の増加もあり、認知症ケア・介護の推進の必要性も高まっています。

高齢化社会において、老夫婦世帯や高齢者単独世帯の増加も生まれてきます。高齢者の住みやすい確保や介護サービスの独自のモデルの確立も急務です。都市部では全国平均の倍程の速度で超高齢化が進むため、大型拠点の確保やサービスニーズ増加への対応がより重要となってきます。

さらに、こうした環境の中で介護サービスを支える従事者を確保していくことは非常に重要です。今回の報酬改定が従事者の処遇改善につながっているかの検証を実施し、その他の改定項目・経済危機対策での施策についても調査・検証を十分に行い、介護サービスの質について適切な指標を検討していくことなどにより、介護従事者の処遇改善、職場環境の改善のために一層努めてまいります。

ソウエルクラブ(福利厚生センター)ご加入のおすすめ

■職員の健康管理のために <ul style="list-style-type: none"> ●生活習慣病予防健診費用助成 ●健康生活用品給付 ●スポーツクラブ ●電話健康医療相談 	■職員の万が一の際に <ul style="list-style-type: none"> ●会員の死亡弔慰金 ●会員の配偶者の死亡弔慰金 ●会員の入院・手術見舞金 ●災害見舞金 	■職員の資質向上のために <ul style="list-style-type: none"> ●海外研修 ●広報講習会 ●レク・リーダー養成講習会 ●接遇講習会 ●パソコン講習会 ●メンタルヘルス講習会 	加入できる職員 <ul style="list-style-type: none"> ■社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。 	
■職員の慶事のお祝いに <ul style="list-style-type: none"> ●結婚お祝い品贈呈 ●出産お祝い品贈呈 ●入学お祝い品贈呈 ●資格取得記念品贈呈 ●永年勤続記念品贈呈 	■職員の余暇活用のために <ul style="list-style-type: none"> ●指定保養所・休暇村他 7種類の宿泊施設、全国289か所 ●海外リフレッシュツアー ●クラブ・サークル活動支援 ●テーマパーク ●国内・海外旅行 ●レンタカー ●カルチャー・スクール・ゴルフ・乗馬等 	■職員の生活サポートのために <ul style="list-style-type: none"> ●住宅ローン・特別資金ローン ●クレジットカード ●ソウエル団体生命保険 	掛金 <ul style="list-style-type: none"> ■掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。 	
■地域に密着した事業 <ul style="list-style-type: none"> ●会員交流事業（旅行・観劇・スポーツ大会等） 			加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル TEL ☎0120-292-711 FAX ☎0120-292-722 http://www.sowel.or.jp/ 社会福祉法人 福利厚生センター 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-21-17虎ノ門NNビル	

魅力ある職場づくりに福利厚生センターをご活用ください

6月13日(土)～14日(日)の2日間、東京都のスター研修センターお茶の水及びTKP東京駅八重洲ビジネスセンターにおいて、リーダー研修会(初任者研修講師養成研修)が行われた。全国の支部より98名が参加した。

研修1日目は、6名の講師陣により、初任者研修の各科目についてテキストとなっていて「介護福祉士初任者のための実践ガイドブック」をもとに、介護福祉士資格取得後2年

未満の初任者に対して、どのようなポイントで講義・演習を行うべきかについて講義が行われた。

研修2日目は、グループワークとなり、グループごとにシラバスや授業案を作成し、模擬講義の発表を行った。発表後には他の受講者より、良かった点や改善すべき点等について意見があり、それについて発表者が説明を行うなど活発な意見交換も行われた。

急遽2日目の研修会場が変更となるなど、

初任者研修の教授法を学ぶ

介護技術講習主任指導者および指導者登録カードの廃止について

平成16年度より行っている介護技術講習主任指導者および指導者への登録カードの発行および更新業務は平成19年3月31日をもって終了しています。お手元の登録カードが有効期限切れになった場合においても、再発行はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

ただし、厚生労働省地方厚生局への主任指導者および指導者としての登録はこれまで通り有効となっておりますので、主任指導者または指導者として活動する際に支障はございません。

ご不明な点は日本介護福祉士会事務局までお問い合わせください。

熟練者指向のキャリアアップ ～新任者に伝える移動介護～

- ◆プログラムのねらい
熟練者をめざす介護職の方々が、移動介護に関する知識と技術を修得し、新任者等を指導するためのプログラムを提供します。
- ◆対象
介護福祉士資格をもち、新任者を指導する立場にある介護職の方
- ◆日程
2009年10月～2010年2月 (全5回、月1回土曜日実施)
- ◆定員
50名
- ◆開催場所
上智大学四谷キャンパス内教室
- ◆受講料
32,000円 (公開講座 10月17日のみ：7,000円)

「ケアマネ受験一発合格!」 医療・福祉編

「ケアマネ受験一発合格!」医療・福祉編

昨年度ケアマネジャー合格者のうち介護福祉士のしめる割合は63%と、ここ数年で圧倒的に増えています。合格率は約20%と低く簡単には合格できません。そんななか「1回の受験で合格したい」と願う介護福祉士の強い味方が受験対策本『ケアマネ受験一発合格!医療・福祉編』です。11年分の過去問を徹底分析。「保健医療サービス分野」と「福祉サービス分野」に特化しました。参考書十過去問題集十予想問題集の3つの機能を兼ね備え、短時間で効率よく勉強できるユニークな特徴です。

『ケアマネ受験一発合格!介護保険制度の知識がよくわかる!』と2冊そろえば出題範囲をすべてカバーできます。

(西原修造著・(株)保育社)

書評

NHK学園生涯学習通信講座が 福利厚生に変わりました!

NHK学園はNHKによって設立された学校法人ですが、通信生の高等学校と社会福祉士・介護福祉士養成課程、社会人のための生涯学習講座を開講しています。このたび生涯学習通信講座全200コースを会員優待5%割引で受講できることになりました。ぜひこの機会にお好きなコースをご受講ください。

- ◆対象/会員とご家族
- ◆特典/受講料5%割引

さらに10/30までに受講をお申込の方全員にNHKでおなじみのキャラクターグッズをプレゼントします。

《コース一例》

- ・福祉住環境コーディネーター
- ・ケアマネジャー試験対策講座
- ・セルフ・カウンセリング
- ・ペン字 等教養講座多数



◆ご利用方法◆

NHK学園へ「日本介護福祉士会会員」と告げて講座の資料の請求をしてください。

講座案内と受講申込書をお送りします。

NHK学園 団体受講係

TEL 042-572-3151 FAX 042-574-1006

第15回 中国・四国ブロック研修会報告

6月25日(木)岡山コンベンションセンター(ママカリフォーラム)において400名余りの参加者を得て、ブロック研修会を開催しました。開催にあたり協賛いただいた団体と企業は50の事業所であり、その内17の事業所が出席しました。このように地元をあげての応援の中での研修会となりました。

記念公演は、さわやか福祉財団理事長の堀田力氏をお迎えしました。講演の中で「介護の仕事は人の幸せを直につくり出す数少ない職業である」と評価し、

介護現場では「介護される側の過去の経験が生きる対応や相手の気持ち(自尊心)を大切にしたい」とエピソードをまじえて語られました。また、社会問題となつてきている介護職員の人材難や給与の低さに対して、国の審議会委員の立場から「このような状況がいつまでも続くはずがない」と言われました。

今回の研修テーマは「介護の力を明日につなげよう」でサブテーマは「話そう、楽しさを!」引き継ごう、喜びを!と題し実践研究発表を行いました。内容は中国、四国9県の代表が日頃の介護実践の10事例を発表し、熱心な討議が繰り広げられ、あらためて介護の仕事のすばらしさを再確認できました。

参加者100人へのインタビューでは、「他設の取り組みを聞いて今後生かしたい」、「業者の出すおもしろかった」、「岡山のおいしい物を食べてリフレッシュできた」、「今までの研修会の中では上位に値すると思います」等の感想がありました。一日となりました。



ふれあいケア

介護に携わるプロフェッショナルのための応援誌。毎日の介護実践に役立つ専門知識や技術についての情報を満載。高齢者ケアに関わる施設福祉や在宅福祉の最新情報や、先駆的な実践事例も紹介。

●定価1,020円(本体971円) ●毎月20日発行 ●B5判/80頁 ●送料300円(10冊以上・定期購読の場合は送料サービス)

2009年 9月号
8月20日発行

特集 実践!・フットケア

高齢者は視力低下や足先まで手が届かなくなっていることなどから、足と爪の手入れがおろそかになるといわれ、外反母趾、水虫、爪白癬、巻き爪、厚爪、硬爪、足裏の角質層の硬化および亀裂などを引き起こすことがみられます。これらの足の機能低下の原因となる症状を予防し、また転倒防止や介護予防のために、介護施設においてもフットケアの導入が進んでいます。本特集では、介護施設において、介護職員が医療職と連携しながらフットケアをすすめるうえでのポイントや実践上の留意点を紹介します。

Part1 フットケアの意義 家城 恭彦 (黒部市市民病院 内科部長)
Part2 フットケアの実践 宮川 晴妃 (メディカルフットケア JF協会会長) など

注目連載 **誌上セミナー「介護福祉士のためのキャリアアップ講座」**
今全国の介護福祉士が自らのキャリアアップに向け、新たな研修にチャレンジしています。各地の介護福祉士会などが開催している「介護福祉士ファーストステップ研修」の内容をシリーズでお伝えします。

定期購読申込み受付中! [FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい] お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい(品切れの際はご容赦下さい)。

●お申し込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

全社協出版部受注センター
TEL: 049-257-3111 FAX: 049-257-1080
E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協 社会福祉 全国社会福祉協議会 出版部
〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ 福祉の本出版目録 検索

▶▶ http://www.fukushinohon.gr.jp

全国大会開催要綱

- 1. 日程 平成21年12月4日(金)～5日(土)
- 2. 会場 大阪国際交流センター
- 3. テーマ 「好きやねん介護福祉士」
- 4. 定員 1,000名
- 5. 対象者
 - ・日本介護福祉士会会員
 - ・社会福祉協議会、行政機関等の役職員
 - ・介護福祉士養成校、福祉関係の学生及び教職員
 - ・福祉・保健・医療関係者、その他一般
- 6. 参加費 会員3,000円、一般10,000円、学生1,000円
- 7. プログラム概要

第1日目

開会式典
 基調講演 厚生労働省(予定)
 記念講演 中井政嗣氏(千房株式会社社長)
 1945年奈良県生まれ。中学卒業と同時に乾物屋に丁稚奉公。73年大阪ミナミ千日前にお好み焼専門店「千房」を開店。大阪の味を独自の感性で国内のみならず海外にも広める。その間、86年四十歳にして高等学校卒業。現在自身の体験をふまえた独特の持論で社会教育家としても注目を集め、全国各地で講演を行う。著書に『無印人間でも社長になれた』(ばるす出版)、『できるやんか!』(潮出版)がある。

特別講演 調整中
 懇親会

第2日目

- 分科会①「認知症ケアにおける介護福祉士の専門性」
 座長：田中涼子氏(高齢者福祉総合施設ももやま副園長)
- ②「障害者ケアにおける介護福祉士の専門性」
 座長：岡村憲一氏(大阪府社会福祉協議会運営適正化委員会副委員長)
- ③「在宅ケアにおける介護福祉士の専門性」
 座長：濱田和則氏(社団法人大阪介護支援専門員協会会長)
- ④「施設ケアにおける介護福祉士の専門性」
 座長：福森潔氏(特別養護老人ホーム寿光園施設長)
- ⑤「人材育成における介護福祉士の専門性」
 座長：西野(和田)佳名子氏(特別養護老人ホーム喜楽苑々々長)

シンポジウム「介護福祉士の質の向上と評価について考える」
 コーディネーター：白澤政和氏(大阪市立大学大学院生活科学研究科教授)

シンポジスト：川井太加子氏(桃山学院大学社会学部准教授)
 大阪府老人介護者(家族)の会連絡会会員
 社団法人大阪介護福祉士会会員
 緒方しのぶ(社団法人大阪介護福祉士会会長)
 石橋真二(社団法人日本介護福祉士会会長)

分科会報告
 閉会式典

第7回 日本介護学会

- 1. 日時 平成21年10月31日(土) 10:00～16:40
- 2. 会場 佐久勤労者福祉センター 長野県佐久市佐久平駅南4-1
- 3. プログラム
 - 10:00 開会式
 - 10:10 記念講演 鈴木隆雄氏(国立長寿医療センター研究所所長)
 - 13:00 研究発表
 - 論文・調査研究
 助言者：中島豊氏(長野大学社会福祉学部教授)
 - 実践研究
 助言者：宮島渡氏(高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ施設長)
 - 16:00 研究発表に対する講評
 - 16:30 閉会式
- 4. 参加対象 日本介護学会会員 一般 学生
- 5. 参加費用
 - 参加費 会員 3,000円
 (日本介護福祉士会会員、一般会員)
 - 一般 13,000円
 - 学生 1,000円

※入会希望の方は別途申込みが必要となりますので日本介護学会までお問い合わせください。

- 6. 申込方法 申込書に必要事項をご記入の上、下記にお申し込みください。
 JTB長野支店 TEL 026-224-0303
- 7. 申込締切日 9月30日(水)
- 8. 問い合わせ先 日本介護学会事務局(社団法人日本介護福祉士会事務局内)
 TEL 03-3507-0784 FAX 03-3507-8810

関東・甲信越ブロック研修会

- 1. テーマ ～ひびきあう 心とこころ・「介護」to「快互」～
- 2. 日程 平成21年9月25日(金)～26日(土)
- 3. 会場 ホテルグリーンタワー千葉
 千葉県千葉市中央区問屋町1-45 ポートスクエア
- 4. 参加費 会員 3,000円 一般 5,000円 学生 1,000円
- 5. 問い合わせ先 千葉県介護福祉士会 TEL 043-248-1451

九州・沖縄ブロック研修会

- 1. テーマ 「ふれ愛 支え愛 微笑み愛」
- 2. 日程 平成21年10月10日(土)～11日(日)
- 3. 会場 熊本市市民会館(崇城大学市民ホール)
- 4. 参加費 会員 3,000円 一般 10,000円 学生 1,000円
- 5. 問い合わせ先 熊本県介護福祉士会
 TEL 096-384-7215

支部の研修

京都支部研修情報

- 〔北・中部ブロック研修〕
- 日程 平成21年10月3日(土) 13:00～
- 場所 京都府立中丹勤労者福祉会館
- 内容 「認知症ケア研修」
- 問い合わせ先 一般社団法人京都府介護福祉士会
 TEL 075-801-8060

三重支部研修情報

- 〔介護技術フォローアップ研修会〕
- 日程 平成21年9月27日(日) 10:00～
- 場所 三重県社会福祉会館 3階講堂
- 内容 「観察と記録」「基本的な記録の見直し」「医行為でない行為の書き方」
- 問い合わせ先 三重県介護福祉士会
 TEL 059-271-9918

福岡支部研修情報

- 〔介護福祉士 現場に活かせる研修(初任者研修)〕
- 日程 平成21年10月18日(日)・31日(土)
- 平成21年11月8日(日)
- 内容 資格取得後の能力開発とキャリアアップ支援
- 対象者 平成21年3月31日現在、介護福祉士のうち原則として資格取得後2年未満の介護業務に従事しているものであって、社会福祉施設及び介護保険施設に勤務する者並びにホームヘルパーなど在宅福祉サービス従事者を主たる受講者とする。

場所 クローバープラザ又は福岡市周辺
 申込締切日 平成21年10月2日(金)
 問い合わせ先 社団法人福岡県介護福祉士会
 TEL 092-474-7015

介護福祉士向け専門情報誌

介護福祉

- ☆発行回数 年4回/春・夏・秋・冬号
- ☆購読料(年) 3,440円(4号分・送料含む)
- ☆申込み先 財団法人 社会福祉振興・試験センター
 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル
 TEL 03-3486-7511 FAX 03-3486-7514
 インターネットによる申込 <http://www.sssc.or.jp>
 郵便振替口座 00120-5-138401

専門性が支える介護福祉の充実のために

この『介護福祉』は、介護福祉士の皆様の自己研鑽のため、また、施設等における介護職員の資質向上のための必携の書として大変好評を得ています。本誌は、日常の介護業務において、そこで求められる介護行為・動作等について、論理的根拠を医学・心理学・解剖学・看護学その他の面から、分かりやすく解説するほか、介護福祉士として是非知っておいていただきたい専門知識や技術・福祉機器の活用など、介護に関する最新情報を提供しています。

- 夏号(21年6月発行) 特集「生活のしにくさ、生きにくさ」
- 秋号(21年9月発行予定) 特集「生活の楽しみを引き出す介護」

社団法人 日本介護福祉士会

URL : <http://www.jaccw.or.jp/>

E-mail : webmaster@jaccw.or.jp

次期役員選挙について

この9月7日(月)本会事務局において第1回選挙管理委員会が開催された。委員会は、始めに鹿児島県介護福祉士会所属の寺尾幸祝氏を委員長に選出、議案の検討に入った。次期役員選出に関するスケジュール確認と今回公示される「役員候補者選出に関する公示」を定めた。今回は法人化後4回目の選挙となる。

役員候補者選出に関する公示

平成21年10月15日
社団法人 日本介護福祉士会
選挙管理委員会

以下のとおり、社団法人日本介護福祉士会の役員候補者選出を行いますので公示致します。

1 選出する役員候補者の構成および人数

- ① 正会員以外の理事 9人
- ② 正会員理事 19人

【正会員理事の内訳】

- (1) ブロック選出理事 6人(下記6ブロック各1人)
北海道・東北、関東・甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州
- (2) 全国選出理事 13人

1 選出する役員の任期

平成22年の通常総会から平成24年の通常総会まで

1 選出時期および選出方法

- ① ブロック選出理事
平成21年11月27日(金)
ブロック内支部会長により構成するブロック選考委員会の合議により選出する。
- ② 全国選出理事
平成22年1月20日(水)
全国選出理事立候補者に対する代議員の郵送による投票により票数上位13人を当選者とし選出する。

1 全国選出理事立候補の受付

- ① 立候補受付期間
平成21年11月16日(月)から11月27日(金)
郵送によることとし、締切日の消印を有効とする。
- ② 受付・郵送先
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-22-13 西勘虎ノ門ビル3階
社団法人 日本介護福祉士会 選挙管理委員会

1 立候補者の要件

- ① 立候補者は、正会員でなければならない。
- ② 立候補者は、正会員20人による推薦がなければならない。

1 立候補の方法

立候補は、別記様式「社団法人日本介護福祉士会 役員立候補届」及び「社団法人日本介護福祉士会 役員立候補者推薦書」(20人分)ならびに「役員立候補者推薦理由書」等を併せて郵送により提出する。

1 禁止事項

- ① ブロック選出理事は全国選出理事に立候補することはできない。
- ② 推薦者は同時に複数の立候補者を推薦することはできない。
- ③ 推薦者は立候補できない。
- ④ 選挙管理委員は立候補できない。また、立候補者を推薦できない。
- ⑤ 代議員は立候補できない。立候補する場合は代議員を辞任しなければならない。

※ 補足事項

- ① 選挙管理委員会は、役員選出にかかる事務すべてを管理します。
- ② 立候補に必要な書類(上記別記様式)は、請求により本会事務局より送付致します。また、本会ホームページからもダウンロード(PDF書類)が可能です。
- ③ 立候補者名簿は、12月15日に本会ニュース及びホームページを通じて公示致します。
- ④ 正会員以外の理事候補者及び監事候補者は、規定により本年度内の理事会において選出致します。
- ⑤ 選挙管理委員会は、役員候補者名簿(正会員以外の理事、ブロック選出理事、全国選出理事、監事各候補者の名簿)を整え、平成22年度通常総会に提出致します。総会において役員の選任(承認)を行います。
- ⑥ 総会において役員の承認が得られ、正式に理事に就任した後理事会を開催して、予め「役職選考会」で内定した候補者を役職者に決定致します。

選挙管理委員会 委員名簿

ブロック	氏名(所属支部)
北海道・東北	井田 智(山形)
関東・甲信越	北條 正恵(茨城)
東海・北陸	北野 正敏(石川)
近畿	橋本 榮子(京都)
中国・四国	西田 ひろみ(鳥取)
九州	○寺尾 幸祝(鹿児島)

※氏名の前○印は、委員長

2回目の「介護の日」に向けて

昨年、厚生労働省が「介護について理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者及び介護家族を支援するとともに、利用者、家族、介護従事者、それらを取り巻く地域社会における支え合いや交流を促進する観点から、高齢者や障害者等に対する介護に関し、国民への啓発を重点的に実施するための日」として、「11月11日」を「介護の日」と決めました。

日本介護福祉士会では、各都道府県支部等の協力を得て、「介護の日」ひろめ隊」を結成し、国民への介護に関する周知活動として、街頭アンケート等の事業を実施したところです。

これらの事業については、NHKを始めとする報道各社に広く取り上げていただき、国民が介護福祉士という専門職を理解するきっかけにつながったと考えています。

2年目の今年には、「介護の日」を中心に

11月4日から11月17日までの2週間を「介護の日」ひろめ隊」の活動や厚生労働省主催の記念行事を掲載する予定で、ぜひご覧下さい。

日本介護福祉士会においても昨年度に引き続き、各都道府県支部の協力を得て、積極的な活動を展開致します。

なお、ホームページに「介護の日」ポスター



「特集を組み「介護の日」ひろめ隊」の活動や厚生労働省主催の「介護の日」新聞」を配信致します。

初霜の候、とくに北海道・東北地方などでは、街頭での周知活動も厳しいこととは思いますが、私たちが介護福祉士の日の努力を広く伝える最高の機会とお考えいただき、インフルエンザ対策も万全に「介護の日」ひろめ隊」活動に会員一人ひとりの強力(協力)をいただければ幸いです。

●今年度配布予定のクリアファイル(東洋羽毛工業(株)より)



日本介護福祉士会役員の動き (H21.8/1~9/30・抜粋)

- 8/18 全国社会福祉施設経営者協会との打ち合わせに石橋真二会長、内田千恵子・木村晴恵・羽山政弘各副会長が出席
- 8/28 東海・北陸ブロック研修会に石橋真二会長が出席
- 9/1 全国社会福祉協議会中央福祉学院「福祉・介護サービス従事者のキャリアパスに対応した生涯研修体系構築検討委員会」に羽山政弘副会長が出席
- 9/4 北海道・東北ブロック研修会に石橋真二会長が出席
- 9/7 「介護相談マニュアル作成等事業」委員会開催
- 9/11 常任理事会開催
- 9/14 J A 栃木中央会研修会に内田千恵子副会長が出席
- 9/25 関東・甲信越ブロック研修会に石橋真二会長が出席
- 9/29 生涯研修制度検討委員会作業委員会開催

介護技術講習主任指導者養成講習会を開催

8月8日(土)と9日(日)の2日間、神奈川県横浜市のウィリン「排世の介護」の講義であった。二日目も講義形式で浦尾和江氏(田園調布学園大学人間福祉学部准教授)による「衣服着脱の介護」(食事の介護)、内田千恵子(日本介護福祉士会副会長)による「入浴の介護等」(総合評価)という内容で行われた。

初日の講義では、ハンドブック形式の演習用資料が提示された。この資料は実際に長野

◆厚生労働省に要望書を提出◆

9月29日、厚生労働省に対し、「インフルエンザ対策の強化に関する要望書」を提出した。社会福祉施設や訪問介護事業所等(介護従事者が関係する施設等)への配慮や、介護従事者に対する予防対策について日本介護福祉士会として要望した。その内容は次のとおり。

インフルエンザ対策の強化に関する要望書

1 社会福祉施設や訪問介護事業所等(介護従事者が関係する施設等)への配慮について

新型インフルエンザ対策のみならず季節性インフルエンザ対策にも十分な対策を講じていただきたい。

社会福祉施設及び訪問介護事業所等の利用者について現時点での発症者数は少ないものの、今後は重症化する者が多く見込まれるので、予防に際し、関係者への指導を二層強化いただきたいこと。

2 介護従事者に対する予防対策について

現時点での流行は見受けられないものの、今後については予断を許さず、介護職が鑑みると重篤化が予測

厚生労働大臣 長妻 昭様
社団法人 日本介護福祉士会 会長 石橋真二

(仮称)認定専門介護福祉士(認知症)養成研修(東会場) 報告

認知症高齢者に対する「生活支援」としての介護

今回で5回目となる(仮称)認定専門介護福祉士(認知症)養成研修が、7月24日(26日)及び8月28日(30日)に東京都千代田区において行われた。

介護福祉士の専門性を基礎とした認知症高齢者の「生活支援の介護サービス」を担うことのできる専門介護福祉士の育成を目的として、モデル的に実施している本研修では、演習が多く盛り込まれた内容となっている。

森繁樹氏(介護付有

料老人ホーム『結びの杜ホーム』所長)、宮島渡氏(高齢者総合福祉施設『アザレア』施設長)をメイン講師とした研修内容は次のとおり。①生活支援における『生活』の意味するところ、介護福祉士として目指すべき認知症介護の基本理念についての理解を深める。②認知症高齢者の行動や心理について、相互交流の観点から関わる介護者側の行為が意味することの理解に努めると共に、

また、本研修の評価について、これまでの修了者からは、「研修を受講して認知症介護に対する考え方が変わったので、現場に戻って実践してみたところ、これまで見えていなかった新たな気づきによって、本当の意味での利用者本位の介護が実践できるようになりました。」や、「研修が終わった時には、それをどう実践につなげていくのかイメージできませんでしたが、上司や周りのスタッフか

「介護福祉士実習指導者講習会」標準テキストが完成

平成20年度より厚生労働省の補助金を受け、日本介護福祉士会が実施している介護福祉士実習指導者講習会において使用する標準テキスト『介護実習指導者テキスト』(日本介護福祉士会編纂)が完成し、全国社会福祉協議会より発行された。

本書は、厚生労働省の示している介護福祉士実習指導者講習会のカリキュラムに沿って21年度より実施されている。

また、執筆には介護福祉士養成施設の教員や、介護福祉士養成実習施設の施設長などを迎えているので、実習指導のポイントを押さえた充実した内容となっており、講習会での使用にとどまらず、介護福祉士養成実習施設における実習指導者には必携の一冊となっている。

なお、テキストの構成は、「第1章 介護の基本と実習指導者に対する期待」「第2章 実習指導の理論と実際」「第3章 実習指導の方法と展開」「第4章 実習スーパービジョンの意義と活用及び学生理解」「第5章 介護過程の理論と指導方法」となっている。

全239ページ、定価2,400円(税別)



書評 社会保障を日本一わかりやすく考える

京都大学副学長で医療経済学の大御所の西村周二先生が病院経営の実践家と経済学者の井野節子氏とともに日本の医療保険を分かりやすく説明し国民とともに明日の医療を考へる本を出した。

基本は普通の市民に日本の医療の問題とすべての人が無差別平等に最高水準の医療を受けられる建前という良いところを知ってもらうこと、そして日本の医療を護ることである。この信念の下に井野さんが質問し西村先生が答えるという形で日本の医療制度を分かりやすく解説し、しかも井野さんのとぎつ質問にもひるむことなく正面から答えている。

筆者は医療経済の専門家であるから、費用の面での説明が本書の大きな割合を占めているが、中心たる保険はいつの時代でも大変困難な状況である。これを解決するには、筆者は医療保険制度を守るには制度を簡単にするという正論をもって迫る。例えば、高齢者の保険料は全国一律の部分と地域の差を設ける部分

とから構成する。不便な地域は安く便利な都会は高く保険料を設定するという考えを示している。

また、費用については、医療費用の増加原因を人口高齢化と医療技術の進歩に求められており、医療技術の進歩に対しては、働いている間に徴収した保険料は一部積み立て方式にして高齢になってからの技術進歩やそれに伴う医療費に充てたらどうか、その間に運用して日本の医療機器や医薬品の開発に投資してはどうかなど財源にも工夫を凝らしている。

締め言葉は、必要なものは絶対に要するけれども財源は天から降ってこないというものであった。社会保障制度は国民全体が最大公約数で幸せに暮らせるよう設計しなければならぬ。やるつもりがあってもできない人が居ることを前提に設計されねばならないことを肝に銘じている。

著者：西村周二・井野節子
発行：PHP研究所
定価：1,200円+税

ソウェルクラブ(福利厚生センター)ご加入のおすすめ

<p>■職員の健康管理のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生活習慣病予防健康費用助成 ●健康生活用品給付 ●スポーツクラブ ●電話健康医療相談 	<p>■職員の万が一の際に</p> <ul style="list-style-type: none"> ●会員の死亡弔慰金 ●会員の配偶者の死亡弔慰金 ●会員の入院・手術見舞金 ●災害見舞金 	<p>■職員の資質向上のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ●海外研修 ●広報講習会 ●レク・リーダー養成講習会 ●接遇講習会 ●パソコン講習会 ●メンタルヘルス講習会 	<p>加入できる職員</p> <p>■社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。</p>
<p>■職員の慶事のお祝いに</p> <ul style="list-style-type: none"> ●結婚お祝品贈呈 ●出産お祝品贈呈 ●入学お祝品贈呈 ●資格取得記念品贈呈 ●永年勤続記念品贈呈 	<p>■職員の余暇活用のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ●指定保養所・休暇村他 7種類の宿泊施設、全国289か所 ●海外リフレッシュツアー ●クラブ・サークル活動支援 ●テーマパーク ●国内・海外旅行 ●レンタカー ●カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等 	<p>■職員の生活サポートのために</p> <ul style="list-style-type: none"> ●住宅ローン・特別資金ローン ●クレジットカード ●ソウェル団体生命保険 	<p>掛金</p> <p>■掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。</p>
<p>■地域に密着した事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等) 	<p>■各種情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ●会員情報誌、ソウェルクラブニュース ●ホームページ 	<p>加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル</p> <p>TEL ☎0120-292-711 FAX ☎0120-292-722 http://www.sowel.or.jp/</p> <p>社会福祉法人 福利厚生センター 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-21-17虎ノ門NNビル</p>	<p>Sowel CLUB</p>

魅力ある職場づくりに福利厚生センターをご活用ください

関東・甲信越ブロック研修会報告



第16回社団法人日本介護福祉士会関東・甲信越ブロック大会は、平成21年9月25日(金)26日(土)の日程にて、千葉県千葉市のホテルグリーンタワー千葉を会場に開催されました。

第16回社団法人日本介護福祉士会関東・甲信越ブロック大会は、平成21年9月25日(金)26日(土)の日程にて、千葉県千葉市のホテルグリーンタワー千葉を会場に開催されました。

テーマは「ひびきあう心とこころ」。「介護」も「快互」として、各県支部の参加者、団体バスや電車にて参集され、日頃の業務の疲れも見せず、熱い討論を重ねる姿が印象的でした。初日、基調講演では、千葉県健康福祉部健康福祉指導課平井正久課長から、「福祉人材確保・定着」「やりがい」を育み・持続できる福祉を」と題して、県も一丸となって

福祉人材確保に取り組み熱意を感じることができました。他県の参加者も同様に、各県での取り組みを重ね合わせていただけたかと思えます。500名の参加者は、4つの分科会に分かれてそれぞれの課題の提案について耳を傾けました。第1分科会「介護福祉士だからできること」、第2分科会「それぞれの介護現場での現状と取り組みと課題」、第3分科会「人材育成の現状の取り組みと課題」、第4分科会「医療との連携への取り組み」と、

それぞれの分科会に対して助言者の先生より貴重な助言をいただきました。また、第2日目の日本介護福祉士会からの講評の中でも触れられましたが、各分科会の事例発表者がまとめ上げた事例については、不十分な点ながらも少し各県支部段階でも練り上げながら、事例として、全国の介護福祉士の学びの材料に積み上げていく事が必要であると痛感しました。まだまだ、介護福祉士が専門職として社会にたいして発信していくためには、研鑽が必要であるが、さまざまな観点からの考察がはじまっている事については、おおいに評価できることも感じました。

第2日目の記念講演では、NPO法人日本ホスピタル・クラウン協会理事長の大棟耕介氏のパフォーマンスを交えたお話しに、会場参加者の心はずっかり奪われた様子でした。脇役として相手を引き立て思いやるクラウンの考え方は、介護福祉士にも通じる素晴らしい理念でした。開催県として実行委員に加わった会員たちは、たくさんの学びをいただくことができました。ご協力いただきました各県の皆様に感謝いたします。次は埼玉です。またお会いしましょう。(千葉県介護福祉士会)

東海・北陸ブロック研修会報告



8月28日(金)〜8月29日(土)、静岡県のホテルコンコルド浜松においてブロック研修会を開催致しました。「尊厳ある生を支える介護」をテーマにしたこの研修には県の内外から220名余りの参加者が訪れ、地域・職場は違えども同じように介護を生業とするものとして、熱い想いを交感する2日間でした。

8月28日(金)〜8月29日(土)、静岡県のホテルコンコルド浜松においてブロック研修会を開催致しました。「尊厳ある生を支える介護」をテーマにしたこの研修には県の内外から220名余りの参加者が訪れ、地域・職場は違えども同じように介護を生業とするものとして、熱い想いを交感する2日間でした。

開会式の挨拶では静岡県介護福祉士会会長の岡田万正より「介護を取り巻く環境は依然厳しいものがある。しかし、介護現場の最前線に立つ私たち介護福祉士の情熱を、この研修を通して、大きなうねりとして社会に伝えていく」と、力強い開会の挨拶がありました。

第1日目は茨城県立健康プラザ管理者の大田仁史氏を講師にお迎えし、「リハビリテーションの介護の実践を通して職場に元気を取り戻そう」をテーマに講演をしていただきました。介護の現場にいる私たちは、誰も一度は「いったい何を以って自らの介護を良くするのかわからない」目の前の利用者やスタッフが死を迎える時、私たちは本当にこの人の尊厳を支えたいと云えるだろうか」と云うような重い感覚に囚われることがあると思えます。今回の大田先生のお話では、「無理をしないでその人の主体性を引き出すことが大切」「介護困難の方の予防・介助にリハビリの技術を活用する」と云う、介護の核となる考え方を、改めてご指導いただきました。そして「その人が生を終えた時、重度の拘縮や褥瘡の有るような、悲惨なご遺体になることを

予防しなければならぬ。そして最後まできちんと関わりご遺体を観察することでケアを評価するのです」と云うシンプル且つ奥の深い言葉に、思わず同意のため息を漏らした参加者も数多くいました。

1日目の夜に行われた親睦会には多数の会員が参加し、学びの場としてだけでなく、郷土色豊かな演出もあり、交流を深める場として大いに盛り上がりまし

た。2日目のプログラムは、各分科会に分かれての研究・実践事例発表です。第1分科会「ターミナルケア」、第2分科会「認知症ケア」、第3分科会「人材育成」リーダーの立場から「介護職の育成」の3つの分科会で9事例が発表されました。どのテーマも、自分たちが平日頃から各々の職場で直面している問題です。真剣な表情でメモを取りながら聞く人、自分の職場の取組みとの比較検討をする人、質問を投げかけて更に理解を深めようとする人など各会場とも会員たちの熱気に包まれていました。(静岡県介護福祉士会)

北海道・東北ブロック研修会報告

第16回北海道・東北ブロック研修会は「今、誰もが迎える死を考える」というのを支える介護の原点をみつめようというテーマで9月4日〜5日福島県郡山市(磐梯熱海)の「華の湯」を会場に254名の参加者を迎えて開催されました。開会式典では、支部会長深澤嘉代の開会挨拶で始まり、続いて石橋真二会長挨拶、その後、厚生労働省社会・援護局福祉課課長マンパワ一企画係長の滝沢明也氏による基調講演「福祉・介護人材確保対策と介護福祉士への期待」が行われ、

介護関係者を取り巻く現状や人材確保、介護職員の処遇改善に向けた取り組みなど、具体的な取り組みが紹介され、多くの参加者が「介護の日について」講演があり、具体的な取り組みを通して分かったり、すい説明が行われ、続く記念講演では、臨済宗福聚寺住職であり、また芥川賞作家でもある玄侑宗久氏より「有為の奥山」と題した講演が行われ、また「有為の奥山を越える」という言葉が、この研修会を越えていくこと(逆は無為)「古来より西洋と東洋とは根本的に異なる考えがいくつもあり、様々な物事のとらえかた

にも表れる「制度にも言えるが、ぜひ東洋的な、日本人的な考えを取り入れた福祉をお願いしたい」などの言葉をいただきました。

二日目は、「介護福祉士が現場で出会う利用者の死とどう向き合うか」をテーマに前半5名、後半4名、計9名の方より順に事例・体験・意見発表が行われました。前半は在宅での看取りケアや緩和ケアについて、後半は特別養護老人ホームでの看取りケアについて、各県の発表者より、それぞれお年寄りの看取りや関わりから得た考えなどを話していただき、コメントーターの方々からもそれぞれの発表者に対して感想や意見を述べていただきました。その中で、共通して述べられていたことは、「一人ひとりの今の時間や生活を大切にしながら介護が大事である」ということ、そのためにはチームケアとスタッフの生死観、普段からの生きがいをサポートする個別ケア、尊厳ある利用者の人生を踏まえたケアを提案するための取り組みなどを、普段の生活で支援していくことが必要であり求められている、ということが挙げられました。また、このことから「看取り」はやはり「点」ではなく実際は死に至るまでの過程であり、お年寄りとの出会い、そして別れるまでの時間すべてが「看取り」であると考えることが自然であること、お年寄りを中心にかかわる地域やスタッフと共に寄り添う介護の中で「何を望んでいるのか」「できることは何か」を常に考えながら携わる「日々の関わりの大切さ」も改めて考え認識することのできた研修会となったのではないかと思われます。今後も介護福祉ニーズを有するすべての人々が住み慣れた地域において安心して暮らすことができ、そして暮らし続けていくことのできる社会の実現にむけ、研修会を行い得たことを生かしていきたいと思

最後にりましたが、事例の中で参加となった利用者やご家族の方々、9名の発表者、コメントーター、ご協力をいただいた方々に対して深く感謝を申しあげまして、研修会の報告とさせていただきます。ありがとうございます。(福島県介護福祉士会 実行委員会)

た。2日目のプログラムは、各分科会に分かれての研究・実践事例発表です。第1分科会「ターミナルケア」、第2分科会「認知症ケア」、第3分科会「人材育成」リーダーの立場から「介護職の育成」の3つの分科会で9事例が発表されました。どのテーマも、自分たちが平日頃から各々の職場で直面している問題です。真剣な表情でメモを取りながら聞く人、自分の職場の取組みとの比較検討をする人、質問を投げかけて更に理解を深めようとする人など各会場とも会員たちの熱気に包まれていました。(静岡県介護福祉士会)

た。2日目のプログラムは、各分科会に分かれての研究・実践事例発表です。第1分科会「ターミナルケア」、第2分科会「認知症ケア」、第3分科会「人材育成」リーダーの立場から「介護職の育成」の3つの分科会で9事例が発表されました。どのテーマも、自分たちが平日頃から各々の職場で直面している問題です。真剣な表情でメモを取りながら聞く人、自分の職場の取組みとの比較検討をする人、質問を投げかけて更に理解を深めようとする人など各会場とも会員たちの熱気に包まれていました。(静岡県介護福祉士会)

た。2日目のプログラムは、各分科会に分かれての研究・実践事例発表です。第1分科会「ターミナルケア」、第2分科会「認知症ケア」、第3分科会「人材育成」リーダーの立場から「介護職の育成」の3つの分科会で9事例が発表されました。どのテーマも、自分たちが平日頃から各々の職場で直面している問題です。真剣な表情でメモを取りながら聞く人、自分の職場の取組みとの比較検討をする人、質問を投げかけて更に理解を深めようとする人など各会場とも会員たちの熱気に包まれていました。(静岡県介護福祉士会)

2009年 11月号 10月20日発行

特集 現場発・介護のイメージアップ作戦

介護施設で働く職員は、介護や介護職員のイメージをどのようにとらえているのでしょうか。介護という仕事のセールスポイントは？ 本特集では、福祉人材の不足が叫ばれるなか、介護という仕事の意義や、やりがい、おもしろさを現場で働く人びとのなかであらためて見直し、アピールの方法を考えることによって、自身の仕事を振り返ってみたいと思います。

Part1 介護の魅力とは
Part2 介護の魅力を再発見しよう など

注目連載 **誌上セミナー「介護福祉士のためのキャリアアップ講座」**

今全国の介護福祉士が自らのキャリアアップに向け、新たな研修にチャレンジしています。各地の介護福祉士会などが開催している「介護福祉士ファーストステップ研修」の内容をシリーズでお伝えします。

定期購読申込み受付中! [FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい] お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい(品切れの際はご容赦下さい)。

●お申し込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

全社協出版部受注センター

TEL: 049-257-3111 FAX: 049-257-1080

E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協 社会福祉 全国社会福祉協議会 出版部

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ <http://www.fukushinohon.gr.jp>

福祉の本出版目録

第16回全国大会

「好きやねん介護福祉士」

- 1. 日程 12月4日(金)～5日(土)
- 2. 会場 大阪国際交流センター
- 3. 主なプログラム

【大会第1日目】

- 基調講演 藤澤 勝博 氏
(厚生労働省社会・援護局福祉基盤課 課長)
テーマ：未定
- 記念講演 中井 政嗣 氏
(千房株式会社 社長)
テーマ：「人育ては自分育て」
- 特別講演 坂田 利夫 氏
(よしもとクリエイティブ・エージェンシー)
タイトル：「アホと呼ばれて45年～真実の坂田利夫～」



【大会第2日目】

- 分科会 ①「認知症ケアにおける介護福祉士の専門性」
②「障害者ケアにおける介護福祉士の専門性」
③「在宅ケアにおける介護福祉士の専門性」
④「施設ケアにおける介護福祉士の専門性」
⑤「人材育成における介護福祉士の専門性」

シンポジウム「介護福祉士の質の向上と評価について考える」
コーディネーター 白澤 政和 氏
(大阪市立大学大学院生活科学研究科 教授)

- 4. 参加費 会員/3,000円 一般/10,000円 学生/1,000円
- 5. 申込方法 近畿日本ツーリスト(株)
関西イベント・コンベンション支店
FAX 06-6202-7921
又は特設サイト<http://www.ec-knt.jp/kaigo/>
にてお申し込みください。

皆様のお越しをお待ちしています！

認定専門介護福祉士(認知症)養成研修開催要綱

- 1. 日程 (西会場) 前期：平成22年1月16日(土)～17日(日)
平成22年2月19日(金)～21日(日)
- 2. 会場 (西会場) 大阪ビジネスパークTWIN21
MIDタワー第2会議室 TEL 06-6941-0941
- 3. 研修内容 ①生活支援における『生活』の意味するところと、介護福祉士として目指すべき認知症介護の基本理念についての理解を深める。
②認知症高齢者の行動や心理について、相互交流の観点から関わる介護者側の行為の意味するところの理解に努めると共に、自ら持ち寄った事例等を基とした各種検討の積み重ねにより、認知症介護の実践的理解を深める。
③自らの実践を言語化する力をつけると共に、介護福祉士固有の認知症介護の専門性について理解を深める。
- 4. 対象者 原則として、以下の3項目全てを満たす者とする。
①5年以上高齢者介護の実務に就き、介護施設・認知症グループホーム・訪問介護事業所等で現在認知症ケアを実践している者
②受講終了後に学びを活かした認知症介護の実践を行い、今後、支部活動におけるリーダー的役割を担うことのできる者
③各支部より推薦を受けた者
- 5. 定員 30名～35名程度
- 6. 小論文 申し込みにあたっては、小論文(2種類)を作成していただくこととなります。(各1200字程度)
テーマ①日本介護福祉士会倫理綱領を読んで自分の倫理観を述べなさい。
②認知症ケアで印象に残っている事例についてまとめなさい。
小論文の先頭に、都道府県名及び氏名を明記して下さい(A4サイズの用紙又は市販の原稿用紙を使用して下さい)
- 7. 申込方法 「受講申込書」に必要事項を記入の上、小論文2種類を添付して、各都道府県介護福祉士会に申し込む。
- 8. 締め切り 西会場：平成21年12月22日(火)
(各都道府県介護福祉士会への必着日)
※受講申込者が多数の場合は選考いたします。
- 9. 参加費用 会員5万円 非会員10万円
※非会員については、同時にご入会していただくと会員費用となります。
※宿泊はご自身でご準備下さい。
- 10. 昼食代 全日とも 1食 1,200円
- 11. 問合せ先 社団法人日本介護福祉士会 事務局
TEL.03-3507-0784 FAX.03-3507-8810

支部の研修

介護福祉士国家試験受験対策・模擬試験
詳細は各都道府県介護福祉士会までお問い合わせ下さい。

静岡支部研修情報

- 職員研修実施者のための研修
日程 平成21年11月7日(土)
9:00～17:00
- 場所 静岡労働会館 視聴覚室
- 公開シンポジウム「介護サービスの明日を語るII」
日程 平成21年11月23日(月・祝)
13:30～17:00
- 場所 静岡県立大学 短期大学部
- テーマ「私たちがつくる元気な介護」
- 問い合わせ先 一般社団法人静岡県介護福祉士会
TEL054-2153-0818

愛知支部研修情報

- 平成21年度初任者研修
日程 平成21年11月8日(日)・14日(土)・15日(日)
- 場所 名古屋市長合社会福祉会館
- 問い合わせ先 一般社団法人愛知県介護福祉士会
TEL0587-32-0554

京都支部研修情報

- 平成21年度初任者研修
日程 平成21年11月22日(日)・13:00～24日(火)10:00～16:30
- 場所 京都テルサ 2階 視聴覚研修室
- 問い合わせ先 一般社団法人京都府介護福祉士会
TEL075-801-8060

長崎支部研修情報

- 平成21年度サービスマスター提供責任者研修
日程 平成21年11月7日(土)・8日(日)
- 場所 諫早市社会福祉会館
- 「介護の日」講演会
日程 平成21年11月15日(日)
- 場所 長崎国際大学 第3回事例発表会
13:00～15:30 講演会
- 場所 長崎国際大学
- 内容 「支える側が支えられるとき」
藤川幸之助講演会
- 問い合わせ先 一般社団法人長崎県介護福祉士会
TEL095-842-1237

介護福祉士向け専門情報誌

介護福祉

- ☆発行回数 年4回/春・夏・秋・冬号
- ☆購読料(年) 3,440円(4号分・送料含む)
- ☆申込み先 財団法人社会福祉振興・試験センター
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル
TEL 03-3486-7511 FAX 03-3486-7514
インターネットによる払込票の取寄せ <http://www.sssc.or.jp>
郵便振替口座 00120-5-138401

専門性が支える介護福祉の充実のために

この『介護福祉』は、介護福祉士の皆様の自己研鑽のため、また、施設等における介護職員の資質向上のための必携の書として大変好評を得ています。本誌は、日常の介護業務において、そこで求められる介護行為・動作等について、論理的根拠を医学・心理学・解剖学・看護学その他の面から、分かりやすく解説するほか、介護福祉士として是非知っておいていただきたい専門知識や技術・福祉機器の活用など、介護に関する最新情報を提供しています。

- 秋号(21年9月発行) 特集「生活の楽しみを引き出す介護」
- 冬号(21年12月発行予定) 特集「介護する人と利用する人の心のケア」

社団法人 日本介護福祉士会

URL : <http://www.jaccw.or.jp/>

E-mail : webmaster@jaccw.or.jp

謹賀新年

介護福祉士制度の発展に向けて

新年明けましておめでとうございます。介護福祉士制度が改正され、資格取得方法の一元化、定義規定・義務規定の見直しなど介護福祉士の質の向上が一層求められるようになってきました。

このように介護福祉士は資質の向上が一層求められてきています。一方では介護労働に対する評価は十分とはいえず、介護現場に

おける人材不足が大きな課題となってきました。そのため、本会としては、これまでに介護職の待遇改善をはじめとする人材確保対策を

また、介護福祉士という国家資格に対する報酬上の評価も行われることになりました。

保険制度が始まって以来、初めて介護職の賃金改善など人材確保の観点から3割の報酬アップが行われました。

しかし、今後の課題として、介護福祉士に対する介護報酬上の評価を確実にすること、

の確立、「介護」についての普及啓発、会員拡大など日本介護福祉士会が取り組むべき課題はまだまだ山積しております。

介護福祉士制度の発展と国民への介護サービスの実現のためにも、これらの課題を職業団体が中心となつて

最後、一人ひとりがそれぞれの現場で介護福祉士としての質を高め、介護福祉士としての評価を得るよう努力していただき、行政、政治家、関係団体、関係者各位の皆様方にも介護福祉士制度のさらなる発展に向けて今後ともご協力をお願い申し上げます。



社団法人 日本介護福祉士会 会長 石橋 真二

役員候補者選出に関する公示

平成21年12月15日
社団法人日本介護福祉士会選挙管理委員会

正会員理事(全国選出理事)ならびにブロック選出理事の候補者届出がありましたので、以下のとおり公示します。

者として決定した。ブロック選出理事については、6ブロックよりそれぞれ1名の候補者推薦があり、6名の候補者は推薦を受託した。資格を審査した結果、全員が条件を満たしていることが確認された。

め、規定により理事予定者とすることを決定した。

※補定
正会員以外の理事(外部理事)予定者10名は、規程に基づき今年度の理事会において選出されることになっております。

全国選出・ブロック選出・正会員以外のすべての理事予定者は、来年5月の平成22年度通常総会において承認を受けた後、正式に理事に就任します。

正副会長は「役職者の互選規定」に基づき、これらの理事予定者すべてが選出された後、通常総会までに互選選挙を実施し、全国選出理事予定者の中から選出される予定になっております。

定数13名に対し13名の立候補があり、全員について資格を審査した結果、立候補条件を満たしていることが確認された。立候補者が選出人数と同数であるため、選挙管理細則第15条により、全員を無投票当選とし理事予定

ブロック選出理事予定者

ブロック名	氏名	所属支部	支部役職
北海道・東北	藤幸子	山形県会	会長
関東・甲信越	山仁美	長野県会	会長
東海・北陸	山伸司	富山県副会	会長
近畿	田美穂子	滋賀県会	会長
中国・四国	鳥取久	鳥取県会	会長
九州	利恵	福岡県会	会長

全国選出理事立候補者(五十音順)

氏名	所属支部	支部役職
石橋 真二	香川県会	会長
内田 千恵子	東京都副会	会長
及川 ゆりこ	静岡県副会	会長
大谷 久也	佐賀県会	会長
大智 明	福岡県副会	会長
大田 史	新潟県副会	会長
岡田 昭恵	岡山県副会	会長
草加 晴子	京都府副会	理事
木村 晴恵	京都府副会	理事
高木 順子	群馬県副会	会長
中根 健男	愛知県副会	会長
野上 薫子	神奈川県副会	会長
前田 薫	宮崎県会	会長
三浦 晃史	大分県会	会長

日本介護福祉士会役員の動き (H21.10/1~11/30・抜粋)

- 10/6 制度・政策検討委員会開催
- 10/9 九州ブロック研修会に石橋真二会長が出席
- 10/13 「介護の日」に関する国民への周知および介護現場に関する国民の認識に関する調査研究委員会に羽山政弘副会長が出席
- 10/20 介護職員のキャリアアップ研修体系の開発と支援に関する調査研究事業委員会に石橋真二会長が出席
- 10/27 介護相談マニュアル作成等事業委員会に羽山政弘副会長が出席
- 10/30 常任理事会開催
- 10/31 日本介護学会開催
- 11/11 「介護の日」フォーラムに石橋真二会長が出席
- 11/14 「介護の日」記念公開シンポジウム「参加型の介護福祉を目指して～介護現場を活性化するためのイベント手法～」に羽山政弘副会長が出席
- 11/17 社団法人日本語教育学会役員との懇談に石橋真二会長、内田千恵子副会長、木村晴恵副会長が出席
- 11/25 介護職員のキャリアアップ研修体系の開発と支援に関する調査研究事業委員会作業委員会に石橋真二会長、内田千恵子副会長が出席

シンポジウム案内

1. テーマ 介護福祉士が地域社会で担うべき役割について～地域住民からの介護相談事例から～
2. 日程 平成22年2月13日(土) 13:30~16:45
3. 会場 KFCルーム 101-103 〒130-0015 東京都墨田区横網1-6-1 国際ファッションセンタービル 10階
4. 定員 200名
5. 内容
 - 第1部 講演 <テーマ調整中>
ケアタウン総合研究所 所長 高室成幸氏
 - 第2部 シンポジウム
コーディネーター 鹿児島国際大学 教授 田中安平氏
シンポジスト (財)さわやか福祉財団 組織づくり支援事業プロジェクトリーダー 木原勇氏
大間町地域包括支援センター くらまつ 管理者 納谷むつみ氏
特別養護老人ホーム 睦園 山下輝子氏
<調整中>
6. 参加費 無料
7. 参加申込 Webサイトの申込フォームから、又は都道府県名・氏名・連絡先・所属等を記入しFAXにて、日本介護福祉士会へお申込み下さい。
8. 問合せ先 社団法人日本介護福祉士会事務局
TEL 03-3507-0784 FAX 03-3507-8810 E-mail webmaster@jaccw.or.jp

第16回全国大会 大阪で開催 好きやねん介護福祉士

「創る力!変える力!活かせる力!」 未来への希望を信じて

第16回全国大会が、12月4日(金)〜5日(土)、大阪府の大阪国際交流センターで開催された。

テーマを「好きやねん介護福祉士!創る力!変える力!活かせる力!未来への希望を信じて」として、1000人を超える介護福祉士やその関係者が全国より集まった。

開会に先立ち、大阪介護福祉士会会長の緒方しづと日本介護福祉士会会長石橋真二より開会の挨拶が行われた。その中でこれまでの介護福祉士の活動に対して一定

【全国大会基調講演】 福祉・介護人材確保 介護福祉士への期待

厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課長 藤澤勝博氏

「福祉・介護人材確保対策と介護福祉士への期待」と題して、厚生労働省社会・援護局福祉基盤課長の藤澤勝博氏により基調講演が行われた。

まず、福祉・介護を取り巻く最近の動向として、平成21年度補正予算の執行停止や平成22年度予算概算要求、事業仕分け、緊急雇用対策などについての説明がされた。

次に、介護人材の現状、福祉・介護人材確保のための取り組み、介護福祉士の現状と資格制度の見直しについての話がされた。

【全国大会記念講演】 人育ては自分育て

千房株式会社社長 中井政嗣氏

国内外において店舗展開をしているお好み焼き専門店「千房」の社長である中井政嗣氏により「人育ては自分育て」と題して、人を育てること、自分が育つことについて「千房」の立ち上げから現在に至るまで培われた経験を基に分かりやすく具体的に語られた。

最後に、介護福祉士への期待は国民から信頼され、自らも誇りを持って働き続けられる専門職としての確立であるとし、そのための行政に求められる役割、介護福祉士個人に求められる役割、介護福祉士会に求められる役割を述べられた。



藤澤勝博氏



中井政嗣氏



第16回全国大会

【全国大会特別講演】 アホと呼ばれて45年 真実の坂田利夫

株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシー 坂田利夫氏

幼少のころから貧しい生活であった坂田氏の現在に至るまでに形成された命の大切さへの強い思い、子育て論や介護への感謝など実体験のさまざまなエピソードを交えて語られた。

支えている介護福祉士の仕事に対する感謝を自分分の実体験を交えて話され、これから特に重要になってくる介護福祉士の職場を希望をもって働ける環境を整備してほしいと行政に向けたメッセージを発信した。また、子育てや子どもへの接し方



坂田利夫氏

分科会報告

分科会では5つのテーマにより行われた。

●第1分科会「認知症ケアにおける介護福祉士の専門性」
座長に高齢者福祉総合施設もやま副園長の田中涼子氏を迎え、4名の発表者によって発表が行われた。

●第2分科会「障害者ケアにおける介護福祉士の専門性」
座長に大阪府社会福祉協議会運営適正化委員会副委員長の岡村憲一氏を迎え、4名の発表者によって発表が行われた。

●第3分科会「在宅ケアにおける介護福祉士の専門性」
座長に社団法人大阪介護支援専門員協会会長の濱田和則氏を迎え、5名の発表者によって発表が行われた。

●第4分科会「施設ケアにおける介護福祉士の専門性」
座長に特別養護老人ホーム寿光園施設長の福森潔氏を迎え、7名の発表者によって発表が行われた。

●第5分科会「人材育成における介護福祉士の専門性」
座長に特別養護老人ホーム喜楽苑苑長、社会福祉法人きらくえん法人事務局教育・研修統括責任者の西野佳名子氏を迎え、7名の発表者によって発表が行われた。

全国大会を終えて

実行委員長 清水浩二

去る12月4日・5日、大阪国際交流センターにて開催されました第16回社団法人日本介護福祉士会全国大会は、おかげさまで1000余名の皆様のご参加を得まして盛況のうちに終了いたしました。これもひとえに会員の皆様方のお力添えの賜物と感謝いたしております。

研究発表いただいた会員の皆様、シンポジウムの提案・セミナー講師をお引き受けいただいた会員及びゲストの皆様、そして何よりも準備の段階から幾日も貴重なお時間をこの大会開催に賜った、各部の協力員の皆様のご尽力とご協力の証と心より感謝いたしております。

ソウエルクラブ(福利厚生センター)ご加入のおすすめ

■職員の健康管理のために <ul style="list-style-type: none"> ●生活習慣病予防健康費用助成 ●健康生活用品給付 ●スポーツクラブ ●電話健康医療相談 	■職員の万一の際に <ul style="list-style-type: none"> ●会員の死亡弔慰金 ●会員の配偶者の死亡弔慰金 ●会員の入院・手術見舞金 ●災害見舞金 	■職員の資質向上のために <ul style="list-style-type: none"> ●海外研修 ●広報講習会 ●レク・リーダー養成講習会 ●接遇講習会 ●パソコン講習会 ●メンタルヘルス講習会 	加入できる職員 <p>■社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。</p>
■職員の慶事のお祝いに <ul style="list-style-type: none"> ●結婚お祝品贈呈 ●出産お祝品贈呈 ●入学お祝品贈呈 ●資格取得記念品贈呈 ●永年勤続記念品贈呈 	■職員の余暇活用のために <ul style="list-style-type: none"> ●指定保養所・休暇村他 7種類の宿泊施設、全国289か所 ●海外リフレッシュツアー ●クラブ・サークル活動支援 ●テーマパーク ●国内・海外旅行 ●レンタカー ●カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等 	■職員の生活サポートのために <ul style="list-style-type: none"> ●住宅ローン・特別資金ローン ●クレジットカード ●ソウエル団体生命保険 	■掛金 <p>■掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。</p>
■地域に密着した事業 <ul style="list-style-type: none"> ●会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等) 	■各種情報提供 <ul style="list-style-type: none"> ●会員情報誌、ソウエルクラブニュース ●ホームページ 	加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル <p>TEL ☎0120-292-711 FAX ☎0120-292-722 http://www.sowel.or.jp/ 社会福祉法人 福利厚生センター 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-21-17虎ノ門NNビル</p>	

魅力ある職場づくりに福利厚生センターをご活用ください

全国大会シンポジウム

テーマ「介護福祉士の質の向上と評価について考える」



シンポジウムは大阪市立大学大学院生活科学研究科教授・白澤政和氏のコーディネートにより、「介護福祉士の質の向上と評価について考える」と題して始まった。川井太加子氏（桃山学院大学社会学部社会福祉学

科准教授）、西崎真氏（大阪府老人介護者（家族）の会連絡会会長）、藤澤亮一（社団法人大阪介護福祉士会会長）、法橋幸子（社団法人大阪介護福祉士会会長）、緒方真二（社団法人日本介護福祉士会会長）の6名のシンポジストによって活発な意見が交換された。緒方氏は、介護福祉士資格制度創設の必要性とその理由について語り、介護福祉士の必要性に対して答えていくことの大切さを訴えながら、本大会のテーマである「好きやねん介護福祉士」にあるように介護福祉士の仕事は誇りを持って行っている仕事であることを強調した。



西崎氏は、超高齢社会をむかえて、介護に対する不安を少しでも解消するために、介護福祉士とは何かという問いに、堂々と答えていく必要がある。また、利用者および介護者家族が安心して介護を実現するために、介護福祉士を取り巻く労働環境の改善、およびよい介護サービスを安心して受けることができ、多くの人が気づいてほしいと述べた。

藤澤氏は、介護福祉士が自信を持ち、心の底から「本当にこの仕事が好き」といえるようになるためにも、一人ひとりが自己研鑽に努め、個性・能力を發揮することで地位の向上を図る努力が必要であると述べた。法橋氏は、介護福祉士を取得するも体調不良により休養し、その後、潜在介護福祉士再就職セミナーなどを経て現在復職している。そこに至るまでの経緯と現在も継続して行っている日本介護福祉士会の研修の重要性を強調した。

石橋会長は、介護福祉士は介護サービスを支える役割を担うものである。また介護福祉士を魅力ある職業としていくために、介護労働に対する評価の向上やキャリアアップの仕組み及び生涯研修体系の構築が必要であるとした。今後の日本介護福祉士会の取り組みとして、介護福祉士の専門性の向上・学問体系的構築・社会的評価の確立、介護福祉士の生涯研修体系の構築、組織率の向上があげられた。川井氏は、看護師として働いていた当時の環境の中で、介護現場に活用できる具体的な事例を提案されるとともに、これからは介護の現場が大変であることを数字を持ってアピールし、変えていくべきことを明確に説明していくことが大切であると述べた。

第7回日本介護学会報告

動向

10月31日、佐久勤労福祉センター（長野県佐久市）において第7回日本介護学会が開催された。全国各地より約370名が参加し、例年を上回る参加者数となった。

午後、中島豊氏（長野大学社会学部福祉学部長）を助言者として迎えた第一分科会の「論文・調査研究」と、宮島渡氏（高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ総合施設長）を助言者として迎えた第二分科会の「実践研究」の研究発表が行われた。今年計16編の研究発表が投稿され、査読委員により選考された論文2編、調査研究3編、実践研究4編が発表された。



午後、中島豊氏（長野大学社会学部福祉学部長）を助言者として迎えた第一分科会の「論文・調査研究」と、宮島渡氏（高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ総合施設長）を助言者として迎えた第二分科会の「実践研究」の研究発表が行われた。今年計16編の研究発表が投稿され、査読委員により選考された論文2編、調査研究3編、実践研究4編が発表された。

中島氏は研究の仕方・論文の書き方の留意点として、①調査研究は目的をはっきりわかりやすく明記すること②調査は統計処理をしないと大半は有効性のないものになること③目的・方法・結果・考察を対応させる（全体の整合性）こと④事前に先行研究を調べる必要性⑤言葉の表記の仕方について述べた。



またそれを説明できることが大切だと思えます。そのためには研究を続けていくことが非常に大事だと思えます。」各支部で研究の方法や論文の書き方の研修なども是非取り入れていただいで、来年はまた沢山のご応募をいただきたいと思えます。」と述べられた。

最後に、次回開催県の代表として吉田均岩手県介護福祉士会会長が次回開催予告を行った。その中で「岩手県が誇れることは認知症サポーター養成講座の開催回数人口比で全国一位だということだ。」とアピールした。「認知症ケアと医療・介護の連携が大切になっていくと思えますので、是非そのような研究発表や実践発表を行っていただきたいです。来年、盛岡で皆さんにお会いすることを楽しみにしています。」と述べ、幕を閉じた。

小ねあい 2010年1月号 12月21日発行

特集 介護と看護をつなぐ

高齢化がすすんでいくなかで、在宅でも施設でも、要介護度の高い高齢者の介護にかかわることが多くなってきています。医療依存度の高い人への対応や看取りなど、介護と看護が目的を共有したうえで、それぞれが専門性を発揮し、連携してケアにあたる必要があります。そこで、本特集では、よりよいケアを実現するための介護職員と看護職員の連携のあり方について考えます。

Part1 座談会 介護と看護の連携 **Part2 介護と看護の連携事例**
Part3 介護職員へのメッセージ

注目連載 誌上セミナー「介護福祉士のためのキャリアアップ講座」
 今全国の介護福祉士が自らのキャリアアップに向け、新たな研修にチャレンジしています。各地の介護福祉士会などが開催している「介護福祉士ファーストステップ研修」の内容をシリーズでお伝えします。

定期購読申込み受付中！ [FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい] お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい（品切れの際はご容赦下さい）。

●お申し込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

全社協出版部受注センター
 受注 TEL: 049-257-3111 FAX: 049-257-1080
 専用 E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協 全国社会福祉協議会 出版部
 〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ <http://www.fukushinohon.gr.jp>

介護の日イベント報告

11月11日の「介護の日」に、東京国際フォーラム(東京都千代田区)において「介護の日」フォーラム(主催：厚生労働省・全国社会福祉協議会)が開催されました。



「明日の介護」わたしの提言と表彰式(協賛事業：財団法人長寿社会開発センター)、「記念講演・福祉・介護をめざす人、働く人へのメッセージ」家族介護をとおして感じたもの(綾戸智恵氏・ジャズシンガー)、「シンポ



フォーラムでは、「明日の介護」わたしの提言と表彰式(協賛事業：財団法人長寿社会開発センター)、「記念講演・福祉・介護をめざす人、働く人へのメッセージ」家族介護をとおして感じたもの(綾戸智恵氏・ジャズシンガー)、「シンポ

九州ブロック研修会報告

テーマ『ふれ愛 支え愛 微笑み愛』ガマ出せ介護福祉士！3Kを3L(Love)に！

平成21年10月10日、11日、宗城大学市民ホール(熊本市民会館)にて開催されました。二日間とも晴天に恵まれ、九州各県から会員並びに介護・福祉に係る仲間・同志が集まり、「九州のへソ」と言われる熊本の地で共に研鑽する機会となりました。今回の大会テーマは、特に若い世代層の介護・福祉業界離れが深刻化している現状について検証する機会として、仕事の過酷さや低賃金などの労働条件の悪さばかりにスポットが当てられている現状ではありますが、それらを上回るだけの



ありながら職員としても勤務されている方、介護福祉士の経験を経て地元でモノマネタレントとして活躍している方をお招きし、様々な立場や経験から、介護福祉士の現状や期待についての意見交換がなされました。また会場からも、厳しい現状について涙ながらに訴えられる生の声が寄せられ、非常に心に響くフォーラムとなりました。午後からは、前熊本県知事で長崎国際大学の潮谷義子学長によ



「老いこそ出番！」と題した記念講演、ラストに『未来の介護福祉士からのメッセージ』！今こそ介護福祉士を目指そう！拜啓先輩たち！と題し、介護福祉士養成校の学生によるメッセージ発表が行なわれ、壇上より未来の介護福祉士達が抱えている希望や熱い思い、不安など、純粋な想いが投げかけられました。まさに今回のテーマである、介護の魅力若くは人達の感性から私たち自身が気付かされ、原点を見つめ直す機会となりました。

「私の提言」の表彰式に出席し、日本介護福祉士会会長賞の表彰を行うとともに、出席されていた長妻昭厚生労働大臣にもご挨拶させていただきました。課題である介護福祉士の処遇改善についても大臣に直接お願いした。また、同時開催として、「介護のコト体験フェア」知って得するプロのワザ」も行われた。

このシンポジウムは、介護への正しい理解と認識を一般市民と共有化し、そのイメージアップを図り、人材不足解消、質の向上へとつなげることを目的として実施された。

まず、小坂善次郎氏(流通科学大学教授)が「介護現場からのメッセージを多くの人に届けよう。そこに幸せが生まれる」として講演を行った。次に、塚口伍喜夫氏(兵庫県社会福祉施設経営協議会顧問)をコーディネーターとして、岡部和夫氏(名寄市立大学教授)、沖藤典子氏(作家)、羽山政弘(日本介護福祉士会副会長)によるシンポジウム「介護福祉現場の現状から課題を探る」が行われた。

また、日本介護福祉士会の主催で、11月14日に「介護の日記念公開シンポジウム参加型の介護福祉を指し」を、北海道札幌市内で開催し、介護福祉士など約80名が集まりました。

最後に、参加者たちが数人ずつのグループに分かれてワークショップを行い、介護者自身が介護への理解を深め、伝えるためのプランを立案し、実際にイベントを企画・実行するまでの方法を学んだ。



スウェーデン介護福祉視察旅行
企画・研修 日通旅行(日本通運株式会社首都圏旅行支店)
後援 社団法人日本介護福祉士会
旅行期間 2010年3月21日(日)～28日(日)
旅行代金 368,000円(名1室利用/大人1名)
募集締切 2010年2月10日(水)
募集パンフレット請求及び申込先
日本通運株式会社 首都圏旅行支店営業第6課
TEL:03-62251-6356
FAX:03-62251-6366
※本旅行には日本介護福祉士会役員が同行する予定です

支部の研修

奈良支部研修情報
平成21年度介護福祉士国家試験模擬試験(実技)
日程 平成22年2月17日(水)・2月24日(水)
平成22年2月21日(日)・2月28日(日)
対象者 第22回介護福祉士国家試験実技試験受験予定者及び介護実技の研修を希望する者
場所 奈良県福祉パーク ならふくじゅ荘 研修室
内容 模擬試験・演習
参加費 10,000円
締切 2月1日(月) 必着(定員になり次第締切ります)
問い合わせ先 奈良県介護福祉士会事務局
TEL0744-355286

三重支部研修情報
後期研修会
日程 平成22年3月13日(土)
10:00～17:00
場所 社会福祉会館3F講堂
内容 力のいらない介護技術
講師 岡田慎一郎氏
問い合わせ先 三重県介護福祉士会
TEL059-271-9918

岡山支部研修情報
平成21年度(第7回)介護実践研究発表会
日程 平成22年1月30日(土)
10:00～16:30(9:20より受付)
内容 実践研究発表会、パネルディスカッション
参加費 学生1,000円(学生証を所持下さい)
会員2,000円(賛助会員含む)
一般5,000円
場所 旭川荘研修センターよしい川 研修室6
問い合わせ先 社団法人岡山県介護福祉士会
TEL086-2222-31215

介護福祉士向け専門情報誌

介護福祉

☆発行回数 年4回/春・夏・秋・冬号
☆購読料(年) 3,440円(4号分・送料含む)
☆申込み先 財団法人 社会福祉振興・試験センター
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル
TEL 03-3486-7511 FAX 03-3486-7514
インターネットによる申込 <http://www.sssc.or.jp>
郵便振替口座 00120-5-138401

専門性が支える介護福祉の充実のために

この『介護福祉』は、介護福祉士の皆様の自己研鑽のため、また、施設等における介護職員の資質向上のための必携の書として大変好評を得ています。本誌は、日常の介護業務において、そこで求められる介護行為・動作等について、論理的根拠を医学・心理学・解剖学・看護学その他の面から、分かりやすく解説するほか、介護福祉士としては是非知っておいていただきたい専門知識や技術・福祉機器の活用など、介護に関する最新情報を提供しています。

夏号(21年6月発行) 特集「生活のしにくさ、生きにくさ」
秋号(21年9月発行) 特集「生活の楽しみを引き出す介護」



社団法人 日本介護福祉士会

URL : <http://www.jaccw.or.jp/> E-mail : webmaster@jaccw.or.jp

介護職員のキャリアパス

厚労省にて懇談会開かれる

厚生労働省による介護職員の処遇改善に対する施策の一環として、平成21年12月より開始された介護職員処遇改善交付金(※1)の助成では期限付きの制度であることや、介護職員以外との間に生じる賃金格差などを理由として申請率が伸び悩んでいたが、厚生労働省や関係機関の周知活動により、1月15日に行われた全国厚生労働関係係長会議の資料によれば、平成21年12月末時点における申請率の全国平均は80%と運用当初よりも改善された。

なお、平成22年度以降の助成については、職員の能力・資格・経験等に応じた処遇が適切になされるため、現行要件に加えてキャリアパスに関する要件が追加されることとなる。この懇談会では、冒頭、山井和則大臣政務官が、「日本の素晴らしが、介護職員の働きがいがいかに夢と希望と働いていくか、このキャリアパスの導入が困難な小規模事業者の場合、介護職員処遇改善交付金の減額が懸念されることとなる。」と述べた。

また、日本介護福祉士会としては、生涯研修制度を構築し、研修者を付与して一元管理している中で、キャリアパスの導入に活用し

役職者の互選に関する公示

平成22年2月15日
社団法人 日本介護福祉士会
選挙管理委員会

以下のとおり、平成22年度役員改選にかかる役職者の互選を行うので公示します。

1 選出する役職者

- (1) 会長 1人
- (2) 副会長 3人以内

1 選出する役員の任期

平成22年5月の通常総会から平成24年の通常総会まで

1 選出方法

平成22年度通常総会開催の概ね1ヶ月前に、選挙管理委員長が理事予定者全員を招集し役職選考会を開催する。

会長の選考は、全国選出理事予定者による立候補制とし、無記名投票により最多得票者を次期会長内定者とする。ただし、得票数が同数の場合はくじ引きにより決する。

副会長は、会長立候補者が立候補時に3人以内の副会長候補者を全国選出理事より指名し、会長内定に伴い副会長内定者となる。

1 立候補の受付

2月15日から3月12日を立候補届出期間とし、所定の立候補届出を郵送により提出する。

なお、届出は上記期間内の消印をもって有効とし、選挙管理委員会あてに立候補届在中と朱書きのうえ郵送する。

1 立候補者の要件

会長立候補者、副会長立候補者ともに全国選出理事予定者でなければならない。

○キャリアパスを考へる際には、事業所の規模を考慮する必要があり、規模に応じたキャリアパスを提示しなければ、積極的な導入は図られないばかりか、キャリアパスの導入が困難な小規模事業者の場合、介護職員処遇改善交付金の減額が懸念されることとなる。

○介護職員の勤務形態、研修履歴、それらに対応した賃金体系といったものをきちんと整備する、または整備のために支援をしていくことがキャリアパス構築には必要不可欠である。

○管理職等のポスト不足にどう対応すべきかという課題がある。

○キャリアパス構築要素としては、職位(等級)、評価の仕組み、給与(賃金)体系などが考えられる。

○介護職員処遇改善交付金については、自治体によって手続が異なるケースが見られるので、厚生労働省が何らかの基準を示し、手続を簡素化して申請率の向上を図るべきである。

○厚生労働省には、介護職員処遇改善交付金の交付期限が過ぎた後も、介護職員の処遇が下がらないような施策を講じていただきたい。

○キャリアパス導入により、職員の定着率が上がった、職員育成コストが下がった、サービスの質の向上が見られたなどの具体的な例示を行うことで、普及が図られるのではないかと期待している。

○キャリアパスを考へる際には、事業所の規模を考慮する必要があり、規模に応じたキャリアパスを提示しなければ、積極的な導入は図られないばかりか、キャリアパスの導入が困難な小規模事業者の場合、介護職員処遇改善交付金の減額が懸念されることとなる。

○介護職員の勤務形態、研修履歴、それらに対応した賃金体系といったものをきちんと整備する、または整備のために支援をしていくことがキャリアパス構築には必要不可欠である。

○管理職等のポスト不足にどう対応すべきかという課題がある。

○キャリアパス構築要素としては、職位(等級)、評価の仕組み、給与(賃金)体系などが考えられる。

○介護職員処遇改善交付金については、自治体によって手続が異なるケースが見られるので、厚生労働省が何らかの基準を示し、手続を簡素化して申請率の向上を図るべきである。

○厚生労働省には、介護職員処遇改善交付金の交付期限が過ぎた後も、介護職員の処遇が下がらないような施策を講じていただきたい。

○キャリアパス導入により、職員の定着率が上がった、職員育成コストが下がった、サービスの質の向上が見られたなどの具体的な例示を行うことで、普及が図られるのではないかと期待している。

○キャリアパスを考へる際には、事業所の規模を考慮する必要があり、規模に応じたキャリアパスを提示しなければ、積極的な導入は図られないばかりか、キャリアパスの導入が困難な小規模事業者の場合、介護職員処遇改善交付金の減額が懸念されることとなる。

○介護職員の勤務形態、研修履歴、それらに対応した賃金体系といったものをきちんと整備する、または整備のために支援をしていくことがキャリアパス構築には必要不可欠である。

○管理職等のポスト不足にどう対応すべきかという課題がある。

○キャリアパス構築要素としては、職位(等級)、評価の仕組み、給与(賃金)体系などが考えられる。

○介護職員処遇改善交付金については、自治体によって手続が異なるケースが見られるので、厚生労働省が何らかの基準を示し、手続を簡素化して申請率の向上を図るべきである。

○厚生労働省には、介護職員処遇改善交付金の交付期限が過ぎた後も、介護職員の処遇が下がらないような施策を講じていただきたい。

○キャリアパス導入により、職員の定着率が上がった、職員育成コストが下がった、サービスの質の向上が見られたなどの具体的な例示を行うことで、普及が図られるのではないかと期待している。

日本介護福祉士会役員の動き

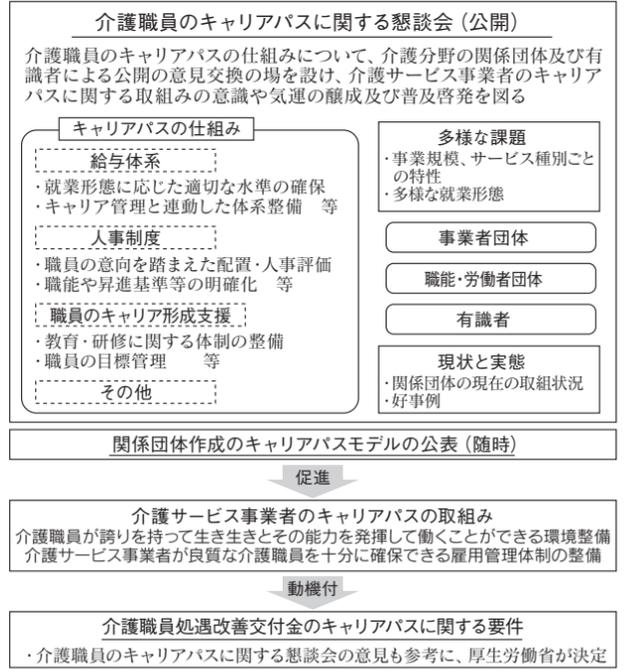
(H21.12/1~H22.1/31・主要なもののみ掲載)

日程	会議名	出席者
12/4~5	第16回全国大会	石橋真二会長 内田千恵子副会長 木村晴恵副会長 羽山政弘副会長
12/5	組織強化委員会	石橋真二会長 内田千恵子副会長 木村晴恵副会長
12/7	介護相談マニュアル等作成事業委員会	羽山政弘副会長
12/13	介護職員のキャリアアップ研修体系の開発と支援に関する調査研究事業授業改善作業委員会	内田千恵子副会長
12/16	介護職員のキャリアアップ研修体系の開発と支援に関する調査研究事業教材開発作業委員会	内田千恵子副会長
12/21	全国社会福祉協議会「中央福祉学院運営会議」	羽山政弘副会長
12/23	日本介護福祉士養成施設協会「実務経験者の介護福祉士資格取得支援のためのモデルカリキュラムに関する研究会」	石橋真二会長
12/24	各関係団体へ年末挨拶	石橋真二会長 内田千恵子副会長
12/26	介護職員のキャリアアップ研修体系の開発と支援に関する調査研究事業委員会	石橋真二会長 羽山政弘副会長
1/6	生涯研修制度検討委員会作業委員会 各関係団体へ年始挨拶	羽山政弘副会長 石橋真二会長 木村晴恵副会長 羽山政弘副会長
1/11	滋賀県介護福祉士会法人設立記念式典	石橋真二会長
1/21	介護相談マニュアル等作成事業委員会	羽山政弘副会長
1/22	常任理事会	石橋真二会長 木村晴恵副会長 羽山政弘副会長
1/24	生涯研修制度検討委員会作業委員会	羽山政弘副会長
1/31	介護職員のキャリアアップ研修体系の開発と支援に関する調査研究事業授業改善作業委員会 ソーシャルケアサービス従事者研究協議会賀詞交歓会	石橋真二会長 内田千恵子副会長 羽山政弘副会長 石橋真二会長 羽山政弘副会長

表② 平成22年度以降の介護職員処遇改善交付金事業スケジュール(案)について

- ①キャリアパス要件等の設定について
- 平成22年度以降の介護職員処遇改善交付金の助成にあたっては、現行要件に加えてキャリアパスに関する要件等を追加し、本要件を満たさない場合、助成額を減額することを予定。
 - 本要件の取扱いについては、平成21年度中に定め、運営要領の改正を行う予定。
- ②今後の事務手続きについて
- 平成22年度当初の申請手続きについては、暫定的に現行要領のまま行う。
 - ※キャリアパス要件等の設定については、平成22年度2月サービス分からは適用しない。
 - キャリアパス要件等の設定時期については、労使交渉(一般的には4月以降)の時期等も踏まえ、現場の混乱のないよう周知期間等を設けることを予定。
 - 平成22年度の申請手続後、キャリアパス要件等に関する届出が必要となるが、手続きについては、可能な限り簡素化を図る等、一定の配慮を行う予定。
 - 昨年12月開催の「介護職員のキャリアパスに関する懇談会」では、キャリアパスに対する取り組みは重要との認識がある一方、事業所規模に応じた一定の配慮が必要等の指摘もあり、要件設定の際に参考にするものとしている。

表① 介護分野における介護職員のキャリアパスに関する取組みの推進について



入会促進活動の報告

各都道府県支部では役員が中心となって、主に介護福祉士養成施設を訪れ、介護という仕事のやりがいや、介護福祉士資格取得後の生涯研修の必要性、職能団体に所属することの意義などを説明し、リーフレットやニュース等を配布して、入会促進活動を行っています。

会員の皆様も、職場や地域において会員の拡大にご協力いただくとともに、各都道府県支部の活動にも積極的にご参加いただくようお願いいたします。

◆◆◆仲間と一緒に自分をみがこう◆◆◆



■学生にリーフレットを配布する役員(宮城支部)



■介護福祉士の活動を説明する様子(長野支部)



■養成校における説明会の様子(大阪支部)



■この養成校では毎年卒業生全員が入会している(石川支部)

12月14日からの一週間、全国各地のハローワークにおいて、「介護就職デー」が開催され、介護の仕事に興味がある、「介護現場で働きたい」といった今年3月卒業見込みの学生などを対象として、就職面接会が行われた。

『介護就職デー』開催

厚生労働省において、12月19日に開催、東京都内の社会福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、訪問介護事業所など約50の事業所による就職面接会や、介護体験コーナー、セミナー等が行われ、求職者ら538名が参加した。

厚生労働省からは、日本介護福祉士会が、厚生労働省からの依頼により会場の一室を利用して、セミナー『介護に求められる人材像』及び介護相談『生涯研修で専門職として自分を磨き続ける』を実施した。セミナーでは、講師の内田千恵子副会長により、マスキングミでいわれるようなイメージによる、現場での職務や、期待

平均給与額9,058円増額

介護報酬改定に関する調査結果

(社会保障審議会介護給付費分科会調査実施委員会)

1月25日、第3回社会保障審議会介護給付費分科会調査実施委員会が開かれ、昨年10月に行われた「介護従事者処遇状況等調査」の結果(速報)が報告された。この結果は昨年12月末までに確定した調査票を集計したものであり、今後発表される最終的な結果については数値が変動することになる。

調査結果(速報)の概要は次のとおりとなっている。

1 平成21年4月から9月の間での給与等引き上げの状況は、「定期昇給を実施」が43.7%、「介護報酬改定を踏まえ」

2 平成20年及び平成21年ともに施設・事業所に在籍している介護従事者の平均給与額は、平成20年「222,308円」、平成21年「231,366円」で「9,058円」増額している。(表①参照)

3 平成20年及び平成21年ともに施設・事業所に在籍している介護従事者の平均給与の増加額は、職種別により「8,102円」から「12,291円」とな

4 給与等以外の処遇改善の状況をみると以下のようになっている。

・「1. 職員の増員による業務負担の軽減」32.6%

・「3. 能力や仕事ぶりの評価と配置・処遇への反映」33.8%

・「4. 昇給または昇進・昇格要件の明確化」33.8%

また、日本介護福祉士会が、会員である介護福祉士を対象として昨年行った「介護報酬改定に伴う介護従事者の処遇改善に関する調査」の結果については、現在とりまとめているところである。

「6. 賃金体系等の人事制度の整備」33.5%

・「13. 腰痛対策、メンタルケア等を含めた健康管理の充実」30.9%

(注)割合は「従来より実施しており、今回さらに充実」、「従来、実施していないが、今回新たに実施」及び「今後実施予定」の合計

表① 施設・事業所の給与等の引き上げ状況について(複数回答)

	定期昇給を実施	介護報酬改定を踏まえて引き上げ	介護報酬改定に関わらず引き上げ	給与等の引き上げを行なったが、1年以内に引き上げ予定	給与等の引き上げを行っておらず、今後も引き上げ予定無し	その他
合計	43.7%	23.4%	21.0%	15.2%	13.1%	7.4%
介護老人福祉施設	71.6%	43.1%	21.1%	12.5%	2.9%	5.0%
介護老人保健施設	69.4%	37.0%	26.6%	9.7%	3.3%	5.0%
介護療養型医療施設	53.4%	14.7%	25.4%	9.9%	11.0%	5.9%
訪問介護事業所	32.9%	30.4%	19.3%	17.4%	13.9%	6.8%
通所介護事業所	46.1%	20.1%	26.1%	19.3%	8.4%	5.4%
認知症対応型共同生活介護事業所	41.0%	26.1%	26.8%	16.5%	7.1%	10.1%
居宅介護支援事業所	41.6%	14.9%	15.7%	11.7%	21.3%	9.5%

表② 介護従事者の平均給与額について(平成20年及び平成21年ともに在籍している者を集計)

	介護従事者の平均給与額(注2)			その他(回収数)
	平成21年9月	平成20年9月	差引(平成21年-平成20年)	
全体	231,366円	222,308円	9,058円	42,311人
介護老人福祉施設	281,800円	269,748円	12,052円	15,069人
介護老人保健施設	296,043円	284,414円	11,629円	8,312人
介護療養型医療施設	304,505円	298,369円	6,136円	5,282人
訪問介護事業所	139,473円	133,605円	5,868円	3,176人
通所介護事業所	197,331円	188,784円	8,547円	4,116人
認知症対応型共同生活介護事業所	207,057円	197,870円	9,187円	4,251人
居宅介護支援事業所	306,616円	296,877円	9,739円	1,605人

表③ 介護従事者の職種別平均給与額について(平成20年及び平成21年ともに在籍している者を集計)

	介護従事者の平均給与額(注2)			その他(回収数)(注3)
	平成21年9月	平成20年9月	差引(平成21年-平成20年)	
看護職員	306,511円	298,118円	8,393円	6,865人
介護職員(訪問介護員を含む)	199,854円	190,935円	8,919円	25,270人
生活相談員・支援相談員	296,349円	284,058円	12,291円	3,246人
PT、OT、ST又は機能訓練指導員	273,715円	265,613円	8,102円	2,518人
介護支援専門員	315,006円	305,154円	9,852円	3,873人

(注1) 介護報酬改定前後における介護従事者の給与額の増減を把握することを目的としているため、平成20年及び平成21年ともに在籍している者を対象として比較している

(注2) 介護従事者の給与は、以下により算出
月給の者:月給+手当+一時金(4~9月支給金額の1/6)
日給の者:日給×実労働日数+手当+一時金(4~9月支給金額の1/6)
時給の者:時給×実労働時間+手当+一時金(4~9月支給金額の1/6)

(注3) 職種が不明な者を含むため、職種別の職員数の合計と表②の介護従事者数の全体は一致しない。

出典:平成21年度介護従事者処遇状況等調査結果(速報)

ソウエルクラブ(福利厚生センター)ご加入のおすすめ

- 職員の健康管理のために
- 生活習慣病予防防診費用助成
 - 健康生活用品給付
 - スポーツクラブ
 - 電話健康医療相談

- 職員の慶事のお祝いに
- 結婚お祝い品贈呈
 - 出産お祝い品贈呈
 - 入学お祝い品贈呈
 - 資格取得記念品贈呈
 - 永年勤続記念品贈呈

- 地域に密着した事業
- 会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等)

- 職員の万が一の際に
- 会員の死亡弔慰金
 - 会員の配偶者の死亡弔慰金
 - 会員の入院・手術見舞金
 - 災害見舞金

- 職員の余暇活用のために
- 指定保養所・休暇村他 7種類の宿泊施設、全国289か所
 - 海外リフレッシュツアー
 - クラブ・サークル活動支援
 - テーマパーク
 - 国内・海外旅行
 - レンタカー
 - カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等

- 職員の資質向上のために
- 海外研修
 - 広報講習会
 - レク・リーダー養成講習会
 - 接遇講習会
 - パソコン講習会
 - メンタルヘルス講習会

- 職員の生活サポートのために
- 住宅ローン・特別資金ローン
 - クレジットカード
 - ソウエル団体生命保険

- 各種情報提供
- 会員情報誌、ソウエルクラブニュース
 - ホームページ

加入できる職員

■社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。

掛金

■掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。

加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル

TEL ☎0120-292-711
FAX ☎0120-292-722
http://www.sowel.or.jp/
社会福祉法人 福利厚生センター
〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-21-17虎ノ門NNビル



魅力ある職場づくりに福利厚生センターをご活用ください

表1 年代別相談者数 (%)

30歳未満	5.6
30歳代	4.2
40歳代	5.6
50歳代	9.7
60歳代	19.4
70歳代	30.6
80歳以上	25.0

表2 相談対象者 (複数回答) (%)

父親	5.3
母親	17.3
配偶者	12.0
それ以外の家族	8.0
親類	4.0
友人・知人	5.3
本人	46.7
その他	1.3

表4 十分な対応ができたと思うか (%)

充分できた	16.0
概ねできた	74.0
やや不十分	10.0
不十分だった	0.0



福祉医療機構の助成による全国一斉介護相談が9月から11月にかけて実施された。9月6日新潟県介護福祉士会により、スタッフ7名で電話相談及び面接相談等という形でスタートした(朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター)。岡山県介護福祉士会では9月から11月の間に、倉敷・東備・新見・井笠・岡山・美作の6ヶ所で面接相談及び福祉用具展示等を行った。県内の複数箇所で開催したのは岡山県を含め5府県であった。開催後のアンケートは次のとおり。(9月・10月の実施分) まず、相談件数は76件であった。相談者を男女別に見ると男性18

表3 相談内容 (複数回答) (%)

親や身近な人の介護への不安	13.4
漠然とした不安への対応	21.6
認知症に関する知識	6.2
介護サービスに関する相談	19.6
在宅介護・施設入所に関する相談	9.3
介護疲れに関する相談	6.2
介護保険制度について	6.2
その他	17.5

その他
・福祉用具について
・金銭管理について
・介護技術について
・健康について
・障害者サービスについて
・成年後見制度について
・就業相談
・医療制度について
・介護保険以外のサービスについて など

人、女性は男性の約3倍の58人であった。また相談者を年代別に見ると「70歳代」が最も多く30・6%、次いで「80歳代以上」25・0%というように、相談者の半数以上が70歳以上であった(表1)。相談内容の対象者については、「本人」というのは、「障害に対する相談」としては、「本人」という結果になった(表3)。次に、相談員が相談を受けた際「自分で対応できたか」について「自分で対応できなかった」理由については、「障害に対する相談」としては、「本人」という結果になった(表3)。次に、相談員が相談を受けた際「自分で対応できたか」について「自分で対応できなかった」理由については、「障害に対する相談」としては、「本人」という結果になった(表3)。次に、相談員が相談を受けた際「自分で対応できなかった」理由については、「障害に対する相談」としては、「本人」という結果になった(表3)。

実施支部一覧

岩手県介護福祉士会
宮城県介護福祉士会
山形県介護福祉士会
茨城県介護福祉士会
栃木県介護福祉士会
一般社団法人神奈川介護福祉士会
社団法人新潟県介護福祉士会
一般社団法人富山県介護福祉士会
石川県介護福祉士会
福井県介護福祉士会
岐阜県介護福祉士会
一般社団法人愛知県介護福祉士会
三重県介護福祉士会
一般社団法人滋賀県介護福祉士会
一般社団法人京都府介護福祉士会
社団法人大阪介護福祉士会
奈良県介護福祉士会
鳥取県介護福祉士会
島根県介護福祉士会
社団法人岡山県介護福祉士会
社団法人広島県介護福祉士会
山口県介護福祉士会
高知県介護福祉士会
社団法人福岡県介護福祉士会
一般社団法人長崎県介護福祉士会
熊本県介護福祉士会
一般社団法人宮崎県介護福祉士会
鹿児島県介護福祉士会

全国一斉介護相談..... 28府県41ヶ所で実施

「この窓口を紹介するのかわからなかった」ということが挙げられた。「十分な対応ができたと思うか」については「概ねできた」相談員が74・0%という結果になった(表4)。

全国一斉介護相談実施後にあげられた課題は次のとおり。「最新の福祉情勢の知識及び資料、介護保険の仕組みの理解」「相談員のカウンセリング方法(聞き取り方、話し方、記録の仕方)」「現在の福祉求人情報について」「多種多様な相談窓口等活用できる社会資源の情報」「地域の介護サービスの種類」「相談マニュアル」「福祉用具の知識」「地域内の施設を把握しておく」等であり、この結果は介護相談マニュアルに活かすこととしてほしい。

「その人らしさ」とは何か

1月16日〜17日、大阪ビジネスパーク(大阪府大阪市)において、(仮称)認定専門介護福祉士(認知症)養成研修の前期研修を実施

今回で6回目となる本研修には、受講定員の約2倍となる67名からの申し込みがあり、認知症ケアに関する関心の高さが浮き彫りとなった。

前期2日間の研修では、森繁樹氏(介護付有料老人ホーム「結びの杜ホーム」所長)、宮島渡氏(高齢者総合福祉施設「アザレアン」)

「さなだ」総合施設長の2名により、主に次のような講義や、それを基にした演習が行われた。

○認知症や老化の進行を止めることはできない。
○認知症ケアに正解はない。
○認知症ケアにおいて、介護福祉士は利用者の生活環境を

「えいていく」という視点を持つべきである。そのためには、現在の利用者だけでなく、時代背景を含めた利用者との生活史を理解しようとするのが重要。

○以上のような考え方を養い、現場に活用できるように演習等によって多くの事例にふれることも重要となる。

後期研修は2月19日から21日まで、同会場にて予定されている。

岩波新書新刊紹介

介護保険は老いを守るか

沖藤 典子 (社団法人日本介護福祉士会理事)

介護保険法は、1997年に立法し、三年後の2000年からスタートしました。2010年4月には満10年を迎えます。創設前後には、「税か保険か」「年齢範囲は?」「どのようなシステムにするのか?」など、議論が紛糾しました。記憶に新しいところです。

しかし国民の多くは、「介護の社会化」という概念のもと、「愛は家族に、介護は専門家に」というスローガンに期待しました。専門家の目と手があつてこそいい介護と、介護に対する意識も変わりました。特養ホームも、「運営から経営へ」といわれ、今や介護施設の利用は人々の晩年の生活に定着しています。

本書は、この10年を振り返りつつ、介護保険が国民の最晩年を守るものになっているか、いささかの危機感を抱きつつ、利用者の目線で書いたものです。

内容は5章に分かれています。

第1章「介護保険はなぜ創設されたか」、第2章「介護保険サービスの「適正化」、第3章「解決されるか、介護現場の危機」、第4章「迷走した要介護認定」、第5章「老いを守る介護保険への道」。

本書の中心をなすテーマは、社会保障削減計画のもと、「財源論」が先行し、「介護給付適正化推進運動」によって、利用者や、介護現場で働く人たちに大きな影響を与えたことへの警告です。

2012年は、医療と介護の同時報酬改定です。医療との連携は今後大きな課題ですが、第二医療保険になってはならないと思います。国民は、「介護の力」に期待しています。

「介護保険にもう一度明るさを。温かさを。財源論に新しい哲学を」これが本書の願いです。

※沖藤氏のサイン本を抽選で5名の会員の方にプレゼントいたします。ご希望の方は事務局までFAX、メールにてお申し込みください。なお、当選者の発表は発送をもって変えさせていただきます。

ふれあいケア

介護に携わるプロフェッショナルのための応援誌。毎日の介護実践に役立つ専門知識や技術についての情報を満載。高齢者ケアに関わる施設福祉や在宅福祉の最新情報や、先駆的な実践事例も紹介。

●定価1,020円(本体971円) ●毎月20日発行 ●B5判/80頁 ●送料300円(10冊以上・定期購読の場合は送料サービス)

2010年
3月号
2月22日
発行

特集 **利用者の笑顔を引き出そう**

施設では、利用者がその人らしく、いきいきと生活できることが生活の質を高めるうえでも重要です。日々ケアにあっていると職員のペースで物事をすすめ、利用者の気持ちが後回しになってしまうことはありません。本特集では、利用者の思いを引き出し、入浴や食事、生きがいや楽しみなど、利用者本人の意向にそったケアの実践やさまざまな工夫を紹介します。

Part1 座談会 利用者の笑顔を引き出す **Part2 実践事例**
Part3 モニタリングの重要性

注目連載 **誌上セミナー「介護福祉士のためのキャリアアップ講座」**

今全国の介護福祉士が自らのキャリアアップに向け、新たな研修にチャレンジしています。各地の介護福祉士会などが開催している「介護福祉士ファーストステップ研修」の内容をシリーズでお伝えします。

定期購読申込み受付中! [FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい] お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい(品切れの際はご容赦下さい)。

●お申し込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

全社協出版部受注センター

受注 TEL: 049-257-3111 FAX: 049-257-1080
専用 E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協 社会福祉 全国社会福祉協議会 出版部

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ **福祉の本出版目録**

▶▶ <http://www.fukushinohon.gr.jp>

第17回 全国大会

- 1. 日時 平成22年12月10日(金)～11日(土)
- 2. 会場 ワールドコンベンションセンター・サミット(宮崎県宮崎市)
神話と癒しの故郷「宮崎」海幸・山幸うまいもの満載!!
宮崎県庁と宮崎の海・青空・太陽が皆様を心よりお待ちしております。
※詳細はニュース97号及びホームページへ4月中旬掲載予定。

通常総会及び記念講演

- 1. 日時 平成22年5月29日(土) 11:00～15:30
- 2. 会場 株式会社損害保険ジャパン2階 大会議室(東京都新宿区)
- 3. 記念講演 調整中
- ※ 詳細は後日代議員の皆様へ通知いたします。

第8回 日本介護学会

- 1. 日時 平成22年10月2日(土)
- 2. 会場 いわて県民情報交流センター(アイーナ)(岩手県盛岡市)
- 3. 定員 300名
- <論文募集について>
・募集期間 平成22年5月14日(金)～平成22年6月14日(月)の予定
論文は、学会の投稿規程によります。詳細は日本介護学会事務局までお問い合わせください。
- 4. 問い合わせ先 日本介護学会事務局
(社団法人日本介護福祉士会事務局内)
TEL 03-3507-0784
E-mail webmaster@jaccw.or.jp

各支部総会予定

支部名	総会予定日
北海道介護福祉士会	5月8日
青森県介護福祉士会	5月16日
岩手県介護福祉士会	5月1日
宮城県介護福祉士会	5月30日
秋田県介護福祉士会	6月12日
山形県介護福祉士会	未定
福島県介護福祉士会	4月25日
茨城県介護福祉士会	5月16日
栃木県介護福祉士会	4月24日
群馬県介護福祉士会	臨時総会3月14日/臨時総会(設立)4月10日
一般社団法人埼玉県介護福祉士会	6月6日
千葉県介護福祉士会	5月23日(予定)
NPO法人東京都介護福祉士会	5月23日
一般社団法人神奈川県介護福祉士会	5月中旬
社団法人新潟県介護福祉士会	3月20日/6月5日
一般社団法人富山県介護福祉士会	6月5日
石川県介護福祉士会	6月13日
福井県介護福祉士会	4月25日
山梨県介護福祉士会	5月8日
社団法人長野県介護福祉士会	5月15日
岐阜県介護福祉士会	6月6日
一般社団法人静岡県介護福祉士会	4月29日
一般社団法人愛知県介護福祉士会	5月30日
三重県介護福祉士会	未定
一般社団法人滋賀県介護福祉士会	6月12日
一般社団法人京都府介護福祉士会	6月12日
社団法人大阪介護福祉士会	3月27日
一般社団法人兵庫県介護福祉士会	6月5日
奈良県介護福祉士会	5月30日
和歌山県介護福祉士会	6月(予定)
鳥取県介護福祉士会	5月22日
島根県介護福祉士会	5月16日
社団法人岡山県介護福祉士会	5月22日
社団法人広島県介護福祉士会	5月30日
山口県介護福祉士会	4月25日
徳島県介護福祉士会	6月6日
香川県介護福祉士会	5月15日
愛媛県介護福祉士会	7月4日
高知県介護福祉士会	未定
社団法人福岡県介護福祉士会	6月12日
一般社団法人佐賀県介護福祉士会	設立総会3月27日
一般社団法人長崎県介護福祉士会	未定
熊本県介護福祉士会	6月
大分県介護福祉士会	6月6日
一般社団法人宮崎県介護福祉士会	5月9日
鹿児島県介護福祉士会	4月18日
社団法人沖縄県介護福祉士会	3月27日

積極的に総会に参加して
介護福祉士の活動を盛り上げよう!

平成22年度 社団法人日本介護福祉士会 ブロック研修会 予定表

北海道・東北	日程: 8月下旬 会場: 調整中(北海道) テーマ: 検討中
関東・甲信越	日程: 9月4日(土) 会場: 大宮ソニックシティ 小ホール(埼玉県さいたま市) テーマ: 生きる～あなたと出会えてよかった～
東海・北陸	日程: 7月17日(土)～18日(日) 会場: 黒部市宇奈月国際会館「セレネ」(富山県黒部市) テーマ: 尊厳ある生を支える介護 —エビデンスのある介護知識・技術を身につける—
近畿	日程: 10月30日(土)または11月6日(土) 会場: アハローム紀の国(和歌山県和歌山市) テーマ: 検討中
中国・四国	日程: 8月21日(土)～22日(日) 会場: 高知市内ホテル テーマ: 求められる介護福祉士とは
九州	全国大会開催にて代替

茨城県支部
〔研修会〕アクセスメント&会員交流会
+リフレクソロジー
日程 平成22年3月14日(日) 10:00～15:00
場所 茨城県総合福祉会館・中研修室
研修内容 ケアプラン・アクセスメントについて
問い合わせ先 茨城県介護福祉士会
TEL 029-354-1522

島根県支部
〔島根県介護福祉士会通常総会・研修会〕
日程 平成22年5月16日(日) 9:00～受付
場所 いきいきプラザ403号室
研修内容 認知症
問い合わせ先 島根県介護福祉士会
TEL 0852-337294

佐賀県支部
〔一般社団法人 佐賀県介護福祉士会設立総会・記念講演〕
日程 平成22年3月27日(土)
場所 アバンセ研修会室 4F
講演内容 「水と自立」 竹内孝仁氏
(国際医療福祉大学大学院教授)
問い合わせ先 一般社団法人 佐賀県介護福祉士会
TEL 0952-75-3292

支部の研修情報

平成22年度年会費振替のお知らせ

○平成22年5月26日(水)
○口座登録されている継続会員のみ
みなさま

指定口座からの年会費の自動振替を上記の日程で実施いたします。つきましては前日までに口座へのご入金をお願いいたします。

会費納入について不明な点がございましたら、日本介護福祉士会事務局までお問い合わせください。また、ご指定の口座をお忘れになられた等、口座情報に関するご本人様よりお問い合わせいただきますようお願いいたします。

石橋会長と羽山副会長がソーシャルケアサービス従事者研究協議会主催の「2010新年賀詞交歓会」に出席し、国会議員を始め、関係者、関係団体等と交流を深めた。



民主党 衆議院議員 山崎摩耶氏



公明党 衆議院議員 古屋範子氏

介護福祉士向け専門情報誌

介護福祉

☆発行回数 年4回/春・夏・秋・冬号
☆購読料(年) 3,440円(4号分・送料含む)
☆申込み先 財団法人 社会福祉振興・試験センター
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル
TEL 03-3486-7511 FAX 03-3486-7514
インターネットによる申込 <http://www.sssc.or.jp>
郵便振替口座 00120-5-138401

専門性が支える介護福祉の充実のために

この『介護福祉』は、介護福祉士の皆様の自己研鑽のため、また、施設等における介護職員の資質向上のための必携の書として大変好評を得ています。本誌は、日常の介護業務において、そこで求められる介護行為・動作等について、論理的根拠を医学・心理学・解剖学・看護学その他の面から、分かりやすく解説するほか、介護福祉士としては是非知っておいていただきたい専門知識や技術・福祉機器の活用など、介護に関する最新情報を提供しています。

秋号(21年9月発行) 特集「生活の楽しみを引き出す介護」
冬号(21年12月発行) 特集「介護する人と利用する人の心のケア」

社団法人 日本介護福祉士会

URL: <http://www.jaccw.or.jp/> E-mail: webmaster@jaccw.or.jp

平成22年度通常総会

1. 日程: 5月29日(土)
 2. 場所: 株式会社損害保険ジャパン
2階大会議室
- ※ 詳細は後日代議員の皆様へ通知いたします。また、ホームページ上にも掲載いたします。

日本介護福祉士会役員の動き

(H22.2/1~H22.3/31・主要なもののみ掲載)

日程	会議名	出席者
2月4日	キャリアパス検討会	石橋真二会長 羽山政弘副会長
※2月5日	実務経験者の介護福祉士資格取得支援のためのモデルカリキュラムに関する研究会(日本介護福祉士養成施設協会)	石橋真二会長
2月11日 2月12日	正会員理事懇談会・都道府県介護福祉士会会長会	石橋真二会長 内田千恵子副会長 木村晴恵副会長 羽山政弘副会長
2月13日	公開シンポジウム「介護福祉士が地域社会で担うべき役割について～地域住民からの介護相談事例から～」	石橋真二会長 羽山政弘副会長
2月25日	正副会長会・常任理事会・生涯研修制度検討委員会	石橋真二会長 内田千恵子副会長 羽山政弘副会長 木村晴恵副会長 (生涯研修のみ)
2月28日	第3回介護職員のキャリアアップ研修体系の開発と支援に関する調査研究委員会	石橋真二会長
3月2日	第6回介護相談マニュアル等作成事業委員会	羽山政弘副会長
3月4日	第1回全国大会実行委員会	木村晴恵副会長
3月8日	第4回介護職員のキャリアアップ研修体系の開発と支援に関する調査研究委員会授業改善作業委員会	羽山政弘副会長
3月11日	正副会長会・常任理事会	石橋真二会長 内田千恵子副会長 木村晴恵副会長 羽山政弘副会長
3月11日	第4回介護職員のキャリアアップ研修体系の開発と支援に関する調査研究委員会教材開発作業委員会	石橋真二会長
※3月12日	日本介護福祉士養成施設協会との意見交換	石橋真二会長
※3月13日	実務経験者の介護福祉士資格取得支援のためのモデルカリキュラムに関する研究会(日本介護福祉士養成施設協会)	石橋真二会長
3月18日	第4回介護職員のキャリアアップ研修体系の開発と支援に関する調査研究委員会	石橋真二会長 内田千恵子副会長
※3月19日	日本社会事業大学学位授与式	内田千恵子副会長
3月23日	正会員理事懇談会・理事会・制度政策検討委員会	石橋真二会長 木村晴恵副会長 羽山政弘副会長
※3月24日	中央福祉人材センター運営委員会	内田千恵子副会長
※3月25日	第65回社会保障審議会介護給付費分科会	田中雅子名誉会長
※3月25日	第3回特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員の連携によるケアの在り方に関する検討会	内田千恵子副会長 (代理出席)
※3月29日	今後の介護人材養成の在り方に関する検討会	石橋真二会長
※3月30日	国際医療技術交流財団評議員会	石橋真二会長

※は外部団体等の主催

平成22年度年会費振替のお知らせ 5月26日に実施します。

指定口座からの年会費の自動振替を下記の日程で実施いたします。

つきましては前日までに口座へのご入金をお願いいたします。

○平成22年5月26日(水)
○口座登録されている継続会員のみならず
会費納入について不明な点がございましたら、日本介護福祉士会事務局までお問い合わせください。また、ご指定の口座をお忘れになられた等、口座情報に関する事については、恐れ入りますがご本人様よりお問い合わせください。

会長選挙に関する公示

平成22年4月15日
社団法人 日本介護福祉士会
選挙管理委員会

先に公示した「役職者の互選に関する公示」に基づき、会長立候補者について以下のとおり公示します。

<会長選挙について>

立候補者が1名のため、役職者の互選規程第6条(1)により無投票とし、立候補者石橋真二を会長内定者とします。

また、同条(2)により内田千恵子、木村晴恵、三浦晃史の3名を副会長内定者とします。

<備考>

役職者の互選規程

(選考方法)

第6条 理事予定者は、役員選考会において、次の各号のとおり役職候補者を選考する。

- (1) 会長の選考は、全国選出理事予定者による立候補制とし、無記名投票により最多得票者を次期会長候補(以下「会長内定者」という。)とする。

ただし、得票数が同数の場合はくじ引きにより決する。

立候補者が1人の場合は無投票とする。

- (2) 副会長の選考は、会長立候補者が立候補時に3人以内の副会長候補者を全国選出理事より指名し、公示する。会長内定に伴い次期副会長候補(以下「副会長内定者」という。)とする。

平成22年度(23年度)の役員改選に伴う会長立候補者が3月12日に締め切られ、立候補者は現会長でもある石橋真二1名であった。この結果、役職者の互選規程に基づき、石橋真二が

平成22年度(23年度)の役員改選に伴う会長立候補者となった。また、同時に内田千恵子、木村晴恵、三浦晃史が副会長内定者となった。3月23日には平成21年度第2回理事会を開催し、平成22年度の事

無投票当選で会長内定者となった。また、同業計画案及び収支予算案の承認と、正会員以外の理事及び監事の選出が行われた。これによりすでに選出されている正会員理事とあわせて役員候補者が揃った。

会長選挙 無投票に 役員候補者出揃う

今後、5月29日に予定されている平成22年度通常総会において正式に選任されることになる。



厚生労働省に「特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員との連携によるケアの在り方について(要望)」を提出

3月25日、「特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員の連携によるケアの在り方に関する検討会」が開催され、特別養護老人ホームにおいて、医師、看護職員との連携の下、介護職員が口腔内のたんの吸引及び胃ろうによる経管栄養を実施することに関して取りまとめられた。

その内容から、検討結果に関するものは次のとおり。(抜粋)

○口腔内のたんの吸引等は、医師、看護師等で行うことができない医行為であり、本来、特別養護老人ホームにおける看護職員の適正な配置を進めるべきである。しかし、今後も口腔内のたんの吸引等が必要な高齢者が増加する中で、特に夜間において口腔内の

たんの吸引等のすべてを担当できるだけの看護職員の配置を短期間のうちに行うことは困難であると考えられる。

○したがって、医師・看護職員と介護職員との連携・協働して実施したモデル事業の結果を踏まえ、こうした方式を特別養護老人ホーム全体に許容することは、医療の安全が確保されるよう条件の下で、一定の範囲内において口腔内の

○ない。むを得ない。今

平成22年3月25日
厚生労働省 老健局長 宮島 俊彦 殿
社団法人 日本介護福祉士会 会長 石橋 真二

特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員との連携によるケアの在り方について(要望) 一 介護福祉士が実施する行為について

厚生労働省において、「特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員の連携によるケアの在り方に関する検討会」が行われており、その中で特別養護老人ホーム(以下「特養」という)の介護職員が行っている吸引、経管栄養等(以下「医行為」という)について検討されています。

日本介護福祉士会としては、「特養」が老人福祉施設から介護老人福祉施設としての位置づけで運営されている現在、また「特養」で行われている医行為の現状から鑑み、看護師のみでは対応できない場合、次のような条件整備を行った後、介護福祉士に対応させるよう要望します。

- 1 介護従事者のうち「医行為」可能な職種を「介護福祉士」に限定すること。
・「医行為」可能な職種を「介護福祉士」として、3年以上の実務経験を有する者で一定の研修を修了した者に限定すること。
- 2 実施可能な法的根拠の整備を行うこと。
・介護福祉士も「医行為」が可能であるとする法的根拠の整備を行うこと。
・対象とする「医行為」の具体的な内容を明確にすること。
- 3 責任体制等を明確化すること。
・事故の発生も予測されるので、その対応に関する勤務体制や命令系統を定め、管理者の責任、当事者の責任等について他の職種と同様に責任体制等について明確にすること。
- 4 報酬(手当)支給制度を設けること。
・「医行為」を行う介護福祉士に対しては、介護報酬上の評価を行うこと。
- 5 利用者が安全・安心に暮らせ、人間らしい生活を送れるような職員体制の整備を図ること。
・施設利用者の重度化が進むなか、現状の看護職員・介護職員の配置基準では利用者の生活は安心とゆとりを持った人間らしい生活はできない。
・早急に利用者の生活を守るため、介護職員、看護職員の配置基準を見直し、職員体制の整備を図ること。

回の整理は、今回検討の対象となっていない他の施設や他の医療的ケアについては、違法性が阻却される余地がなく、ただちに違法とならない趣旨を含むものではなく、あくまで特別養護老人ホームとし、特に介護福祉士が実施する行為について、

のたんの吸引等を実施することに絞って検討し、そこにおいて違法性が阻却されるための条件を整理したものである。

同日、日本介護福祉士会は厚生労働省に対して、特に介護福祉士が実施する行為について、

「一定の条件整備を行った後、介護福祉士が対応できるように」とする要望書を提出した。

なお、3月25日の検討会の意見に基づき3月31日に取りまとめが発表された。当会ホームページにも4月2日付で掲載中。

厚生労働省社会・援護局と老健局の共同主催による 「今後の介護人材養成の在り方に関する 検討会」が開催される

介護福祉士養成の在り方や今後の具体像について検討開始

平成22年3月29日(月)全国都市会館にて、第1回「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」が開催された。本検討会は、「介護福祉士の資格取得方法については、その資質の向上を図る観点から、平成19年に法改正を行い、実務経験ルートに6月(600時間)以上課程を新たに義務付け、平成24年度より施行することとしたところ。しかしながら、これによる資質向上が期待される一方、現在の介護分野においては、離職率が高く、地域によっては人手不足が生じているなどの課題があり、介護人材の量的な確保に向けた見直しが必要との意見がある。以上を踏まえ、資質向上と量的確保が可能な限り両立されるよう、介護分野の現状に即した介護福祉士養成の在り方について検討を行うとともに、介護職員全体のキャリアアップ構築に資するため、介護人材養成の今後の具体像も併せて検討を行う」ことを目的として、厚生労働省社会・援護局と老健局の共同主催で開催された。

本検討会の検討項目は5つ示され、検討項目の(1)から(4)「訪問介護員養成研修等」については7月を目処に中間的な意見のとりまとめを行い、検討項目の(5)については年内を目処に意見の取りまとめを目指している。なお、本検討会の議事は公開とされ、議事録は後日厚生労働省のホームページに掲載される。



「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」の様子

「訪問介護員養成研修等」については7月を目処に中間的な意見のとりまとめを行い、検討項目の(5)については年内を目処に意見の取りまとめを目指している。なお、本検討会の議事は公開とされ、議事録は後日厚生労働省のホームページに掲載される。

「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」の検討項目は、(1)今後の介護人材養成の基本的な方向性、(2)現場における介護職員の現状と介護職員へ期待される役割、(3)実務経験ルートにおける養成課程(600時間課程)について、(4)介護福祉士と他の研修制度との関係、(5)介護人材のキャリアアップの仕組みの具体的な在り方

「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」の検討項目は、(1)今後の介護人材養成の基本的な方向性、(2)現場における介護職員の現状と介護職員へ期待される役割、(3)実務経験ルートにおける養成課程(600時間課程)について、(4)介護福祉士と他の研修制度との関係、(5)介護人材のキャリアアップの仕組みの具体的な在り方

今後の介護人材養成の在り方に関する検討会委員名簿

名前	現職
石橋 真二	社団法人日本介護福祉士会会長
因 利恵	日本ホームヘルパー協会会長
河原 四良	UIセンセン同盟日本介護クラフトユニオン会長
川原 秀夫	全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会理事長
北村 俊幸	一般社団法人日本在宅介護協会研修広報委員会副委員長
駒村 康平	慶応義塾大学経済学部教授
是枝 祥子	大妻女子大学人間関係学部人間福祉学科教授
田中 博一	社団法人日本介護福祉士養成施設協会副会長
中尾 辰代	全国ホームヘルパー協議会会長
馬袋 秀男	民間事業者の質を高める一般社団法人全国介護事業者協議会理事長
樋口 恵子	NPO 法人高齢社会をよくする女性の会理事長
平川 博之	社団法人全国老人保健施設協会常務理事
廣江 研	全国社会福祉施設経営者協議会介護保険事業経営委員長
藤井 賢一郎	日本社会事業大学専門職大学院准教授
堀田 聡子	東京大学社会科学研究所特任准教授
樹田 和平	公益社団法人全国老人福祉施設協議会介護保険委員会委員長
山田 尋志	NPO 法人介護人材キャリア開発機構理事長

冒頭で石橋真二会長は介護を取り巻く状況として、介護報酬の3%の改定、介護報酬上の介護福祉士への評価、介護職員等処遇改善交付金の支給、介護福祉士を目指す学生に對しての就学資金の拡充に言及し、「介護福祉士に追い風が吹いてきている状況だ」と述べた。

さらに、これらの改善を一時的なものとして、介護の仕事自体が本来的に魅力ある仕事となるように介護福祉士を軸としたキャリアアップ体制を築き、介護の将来が見通せるような介護制度改革を目指して、日本介護福祉士会として提言をしていきたいと述べた。



「今後の日本介護福祉士の課題として、生涯研修制度の充実、医療介護連携の方向性の策定などを挙げ、同時に会員数を増やし組織率の向上を目指して団体としての存在感を高めていくことが重要だと述べた。

「今後の日本介護福祉士の課題として、生涯研修制度の充実、医療介護連携の方向性の策定などを挙げ、同時に会員数を増やし組織率の向上を目指して団体としての存在感を高めていくことが重要だと述べた。

「今後の日本介護福祉士の課題として、生涯研修制度の充実、医療介護連携の方向性の策定などを挙げ、同時に会員数を増やし組織率の向上を目指して団体としての存在感を高めていくことが重要だと述べた。

「今後の日本介護福祉士の課題として、生涯研修制度の充実、医療介護連携の方向性の策定などを挙げ、同時に会員数を増やし組織率の向上を目指して団体としての存在感を高めていくことが重要だと述べた。

冒頭で石橋真二会長は介護を取り巻く状況として、介護報酬の3%の改定、介護報酬上の介護福祉士への評価、介護職員等処遇改善交付金の支給、介護福祉士を目指す学生に對しての就学資金の拡充に言及し、「介護福祉士に追い風が吹いてきている状況だ」と述べた。

さらに、これらの改善を一時的なものとして、介護の仕事自体が本来的に魅力ある仕事となるように介護福祉士を軸としたキャリアアップ体制を築き、介護の将来が見通せるような介護制度改革を目指して、日本介護福祉士会として提言をしていきたいと述べた。

「今後の日本介護福祉士の課題として、生涯研修制度の充実、医療介護連携の方向性の策定などを挙げ、同時に会員数を増やし組織率の向上を目指して団体としての存在感を高めていくことが重要だと述べた。

平成21年度第二回都道府県 介護福祉士会会長会を実施

本年度第二回目の都道府県介護福祉士会会長会が、神奈川県横浜市のゆめおおおがオフィスタワーで開催された。

冒頭で石橋真二会長は介護を取り巻く状況として、介護報酬の3%の改定、介護報酬上の介護福祉士への評価、介護職員等処遇改善交付金の支給、介護福祉士を目指す学生に對しての就学資金の拡充に言及し、「介護福祉士に追い風が吹いてきている状況だ」と述べた。

さらに、これらの改善を一時的なものとして、介護の仕事自体が本来的に魅力ある仕事となるように介護福祉士を軸としたキャリアアップ体制を築き、介護の将来が見通せるような介護制度改革を目指して、日本介護福祉士会として提言をしていきたいと述べた。

「今後の日本介護福祉士の課題として、生涯研修制度の充実、医療介護連携の方向性の策定などを挙げ、同時に会員数を増やし組織率の向上を目指して団体としての存在感を高めていくことが重要だと述べた。

ソウエルクラブ(福利厚生センター)ご加入のおすすめ

■職員の健康管理のために

- 生活習慣病予防健診費用助成
- 健康生活用品給付
- スポーツクラブ
- 電話健康医療相談

■職員の万が一の際に

- 会員の死亡弔慰金
- 会員の配偶者の死亡弔慰金
- 会員の入院・手術見舞金
- 災害見舞金

■職員の資質向上のために

- 海外研修
- 広報講習会
- レク・リーダー養成講習会
- 接遇講習会
- パソコン講習会
- メンタルヘルス講習会

■加入できる職員

■社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。

■職員の慶事のお祝いに

- 結婚お祝品贈呈
- 出産お祝品贈呈
- 入学お祝品贈呈
- 資格取得記念品贈呈
- 永年勤続記念品贈呈

■職員の余暇活用のために

- 指定保養所・休暇村他 7種類の宿泊施設、全国289か所
- 海外リフレッシュツアー
- クラブ・サークル活動支援
- テーマパーク
- 国内・海外旅行
- レンタカー
- カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等

■職員の生活サポートのために

- 住宅ローン・特別資金ローン
- クレジットカード
- ソウエル団体生命保険

■各種情報提供

- 会員情報誌、ソウエルクラブニュース
- ホームページ

■地域に密着した事業

- 会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等)

■掛金

■掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。

魅力ある職場づくりに福利厚生センターをご活用ください

加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル
TEL 0120-292-711
FAX 0120-292-722
<http://www.sowel.or.jp/>
 社会福祉法人 福利厚生センター
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-21-17虎ノ門NNビル

連載 ①

介護の現場で輝いています!

訪問介護の仕事

今号からの新連載として、介護現場で活躍中の会員に、介護という仕事の楽しさややりがい、印象に残っている事例等を紹介していただくこととしました。

京都福祉サービス協会西七条事務所 西口 千恵美 (一般社団法人京都府介護福祉士会)

朝、ご利用者宅を訪問する。「オムツの漏れが無かった」「いい顔している」「食欲が戻った」そんなことが嬉しい。昼間訪問して言葉を交わす。「笑顔を見る」「便が出た」「少し歩けた」「痛みが無い」「冗談が言えた」と言って喜ぶ。夜訪問して就寝介助をする。「穏やかに落ち着いてる」「一日無事に過ごせた」「ぐっすり眠れそう」それもやっぱり喜びとなる。

訪問を続けるうちに体調が上向き、生活が改善される、空気が和み表情が和らぐ、体の緊張がほぐれる、それらのことは私に安堵と手応えをくれるが、反対の状況にあるときは辛い。「これが私の仕事」と自分に言い聞かせて、少しばかりの知恵と気力で向かう。

ご利用者を取り巻くいろいろな職種の力が合わさって、状況が大きく改善に向かうことがある。そんな時は皆が同一方向を向いて連携している事の爽快感を覚える。

人生の先輩である幾多のご利用者に関わり、様々な生き方に出会う中で学ぶことがいっぱいある。求められたいある。求められたいある。求められたいある。求められたいある。求められたいある。

一方で、援助するその時々においては一生懸命であっても、省みる。その自負を責任に変えてご利用者の今日を支え、明日へ繋げて行くための努力を続けたいと考えている。



介護という仕事を学んだこと

特別養護老人ホーム 今村 直輝 (一般社団法人宮崎県介護福祉士会)



私は若い頃から祖母と一緒にいる事が多く、おばあちゃん子として育ちました。その祖母が病気で倒れ、介護が必要になり母が在宅で介護していた姿を見ていたことか

ら、将来の仕事として福祉を考えるようになりました。進路は介護福祉士の受験資格を得られる福祉科のある高校へ進学しました。卒業後は、老人保健施設の介護職員として就職し、在職中に介護福祉士を取得、6年間勤めた後、社会福祉法人の経営する複合施設で通所介護事業所、在宅介護支援センターを経て、現在は特別養護老人ホームに勤務しております。

老人保健施設で働き始めた当初、初めて受持ち担当になった方が脳梗塞後遺症で右半身麻痺と言語障害があり、性格的にも頑固な男性の方でした。その方が訴えられる事を私が聞いてみると、怒らせてしまう事が良くありました。私自身は聴いてはいるつもりでも、知らぬ間に業務に追われて、訴えを聴く事が出来ていなかったのです。この時、聴くという事の大切さを感じました。ゆっくりと会

話が出来るようになるまで、生活意欲も向上し、全くと歩ける事ができなかつた歩行が平行棒を使い5・6歩、歩けるようになり、介助のたびに「ありがとう。あなたに任せてよかった」と言葉が掛かっていた事は今でも忘れません。

これまでの試験結果

Table with 5 columns: 第18回, 第19回, 第20回, 第21回, 第22回. Rows: 受験者数, 合格者数, 合格率.

合格者の内訳

(1) 性別

Table with 4 columns: 区分, 男, 女, 計. Rows: 人数 (人), 割合 (%).

(2) 受験資格別

Table with 5 columns: 区分, 受験者数, 合格者数, 合格率, 割合. Rows: 総数, 社会福祉施設の介護職員等, 老人福祉施設の介護職員等, 障害者福祉施設の介護職員等, 保護施設、児童福祉施設の介護職員等, その他の社会福祉施設の介護職員等, 訪問介護員, 介護老人保健施設の介護職員, 医療機関(療養病床等)の看護補助者, 福祉系高等学校(専攻科を含む), その他.

(注)「その他」は、介護等の便宜を供与する事業を行う者に使用される者のうち、その主たる業務が介護等の業務である者等である。

(3) 年齢別

Table with 4 columns: 年齢区分(歳), 人数(人), 割合(%), 備考. Rows: ~20, 21~30, 31~40, 41~50, 51~60, 61~, 計.

(4) 都道府県別

Table with 7 columns: 都道府県, 人数(人), 割合(%), 備考. Rows: 北海道, 青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県, 茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 富山県, 石川県, 福井県, 山梨県, 長野県, 岐阜県, 静岡県, 愛知県, 三重県, 滋賀県, 京都府, 大阪府, 兵庫県, 奈良県, 和歌山県, 鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県, 徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県, 福岡県, 佐賀県, 長崎県, 熊本県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県, 計.

(注)合格者の受験時の住所による。

新たな仲間に加わった7万7千人

国家試験合格者発表

厚生労働省及び財団法人社会福祉振興・試験センターは3月31日、第22回介護福祉士国家試験の合格発表を行った。受験者数は153,811人、合格者数は77,251人、合格率は50.2%であった。また、3月7日に行われた実地試験には、実地試験委員として日本介護福祉士会より112名が協力した。



2010年 3月号 2月22日 発行

特集 利用者の笑顔を引き出そう

施設では、利用者がその人らしく、いきいきと生活できることが生活の質を高めるうえでも重要です。日々ケアにあたっていると職員のペースで物事をすすめ、利用者の気持ちの後回しになってしまうことはありませんか。本特集では、利用者の思いを引き出し、入浴や食事、生きがいや楽しみなど、利用者本人の意向にそったケアの実践やさまざまな工夫を紹介します。

- Part1 座談会 利用者の笑顔を引き出す Part2 実践事例 Part3 モニタリングの重要性

注目連載

誌上セミナー「介護福祉士のためのキャリアアップ講座」

今全国の介護福祉士が自らのキャリアアップに向け、新たな研修にチャレンジしています。各地の介護福祉士会などが開催している「介護福祉士ファーストステップ研修」の内容をシリーズでお伝えします。

定期購読申込み受付中!

【FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい】 お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい(品切れの際はご容赦下さい)。

●お申し込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

全社協出版部受注センター 受注 TEL: 049-257-3111 FAX: 049-257-1080 専用 E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協 社会福祉 全国社会福祉協議会 出版部 〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ 福祉の本出版目録 検索 http://www.fukushinohon.gr.jp

全国大会発表事例募集のご案内

第17回全国大会であなたの研究成果を発表してみませんか!

<事例発表の申込方法>

- 1. 事例発表の希望者は「事例発表申込書」に必要事項を記入し、事務局宛てに FAXまたはEメールで送付してください。(郵送の場合も同日必着)
申込締切は8月3日(火)必着です。
○申込書請求先及び申込先(申込書は本会ホームページよりダウンロードできます。)
FAX. 03-3507-8810 Eメール: webmaster@jaccw.or.jp
2. 発表事例は、第1~第3分科会のテーマより選択してください。
第1分科会: 「高齢者施設・認知症施設における福祉と医療の連携について」
第2分科会: 「障害者施設における福祉と医療の連携について」
第3分科会: 「在宅(高齢者・認知症・障害者)における福祉と医療の連携について」
3. 申込事例は本会で選考のうえ発表事例を決定し、ご本人宛て通知いたします。
4. 選考に際しては、会員を優先させていただきます。
5. 発表事例は抄録原稿を大会資料冊子に掲載し、分科会において決められた時間内で口頭発表していただきます。(発表20分、質疑応答10分程度)
6. 事例発表者は予め申し出てパソコン・プロジェクター等を使用することができます。

<抄録の提出>

- 1. 事例発表者には、事前に発表要旨の抄録を提出していただきます。抄録提出締切りは10月15日(金)必着です。
2. 抄録は必ずパソコンで作成(文章はWord、図表データはExcel)し、Eメール等の電子媒体による提出とします。
3. 原稿量は図表を含め、おおむねA4用紙で4枚程度とします。
注1) 発表者の大会参加費用は全て本人負担とします。
注2) 会員の方が発表された場合の生涯研修制度単位数は、6ポイント加算されます。

第17回全国大会

- 1. 日程 平成22年12月10日(金)~11日(土)
2. 会場 フェニックス シーガイアリゾート ワールドコンベンションセンター サミット
3. テーマ 「福祉と医療の連携 私たちは何ができて、何ができないのか」 ~介護福祉士の現状を、どげんかせんといかん!!~
4. プログラム概要
第1日目
開会式典
基調講演 厚生労働省(予定)
記念講演 鎌田實氏(諏訪中央病院名誉院長) 「がんばらない」けど「あきらめない」~鎌田實の幸せ介護~
特別講演 藤川幸之助氏(詩人・児童文学作家) 「支える側が支えられるとき」~認知症の母が教えてくれたこと~
懇親会
第2日目
分科会
シンポジウム
閉会式典
5. 主催 社団法人日本介護福祉士会
6. 運営事務局 一般社団法人宮崎県介護福祉士会
7. 申し込み方法 詳細は後日お知らせいたします。
8. 問い合わせ先 社団法人日本介護福祉士会事務局 TEL03-3507-0784 FAX03-3507-8810 E-mail: webmaster@jaccw.or.jp

日本介護学会論文募集のご案内

第8回日本介護学会で発表いただく論文を皆様より募集いたします。

<論文申込方法>

- 1. 希望者は「論文申込書」に必要事項を記入し、事務局宛にFAXまたはメールで送付してください(郵送の場合も同日必着)。申込書は本会ホームページよりダウンロードできます。論文は、本学会の投稿規程によりますので詳細につきましては、日本介護福祉士会ホームページをご参照いただくか本会事務局までお問い合わせください。
2. 募集期間 平成22年5月14日~平成22年6月14日(当日消印有効)
3. 申込書請求・問い合わせ先 日本介護学会事務局(社団法人日本介護福祉士会事務局内) TEL.03-3507-0784 FAX.03-3507-8810 E-mail: webmaster@jaccw.or.jp

第8回日本介護学会

- 1. 日程 平成22年10月2日(土)
2. 会場 いわて県民情報交流センター(アイーナ) 岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7-1
3. 対象者 日本介護学会会員/一般/学生
4. 参加費 会員3,000円【学会会員(日本介護福祉士会会員含む)】 一般13,000円、学生1,000円
※学会入会希望の方は、別途申込が必要となりますので、日本介護学会事務局へお問い合わせください。
5. プログラム 10:20 開会式
10:30 記念講演
13:00 研究発表
16:00 研究発表に対する講評
16:30 閉会式
6. 問い合わせ先 日本介護学会事務局(社団法人日本介護福祉士会事務局内) TEL.03-3507-0784 FAX.03-3507-8810 E-mail: webmaster@jaccw.or.jp

平成22年度介護福祉士 海外研修・調査 実施要綱

- 1. 実施主体 財団法人社会福祉振興・試験センター(以下、「センター」という。)
2. 研修・調査のテーマ (ア) 特定施設又は在宅における介護の実態について (イ) その他センター理事長が必要と認めたもの
3. 派遣対象者 次の各号に該当し、介護福祉士の推薦を受けた者とする。ただし、介護福祉士の会員であるか否かは問わないものとする。
ア 現に社会福祉施設等において、介護業務に従事している者 ※病院勤務の場合は、療養病棟で介護業務に従事している者。また、居宅介護支援事業所のケアマネジャーは含まない。
イ 当該年度の12月末日現在において、つぎのいずれかにも該当する者 (ア) 25歳以上55歳未満の者 (イ) 介護福祉士の資格取得後3年以上である者
ウ 研修・調査終了後も引き続き介護業務に従事する意志を有する者
エ 心身ともに健康で、協調性があり、研修期間中団体行動ができる者
オ 過去において、当センターの海外研修に参加したことのない者
4. 研修・調査実施期間 平成22年9月4日(土)~平成22年9月18日(土)の15日間とする。
5. 応募方法 参加希望者は、次に掲げる書類を、介護福祉士会を経由してセンターに提出するものとする。
(1) 「介護福祉士海外研修・調査参加申込書」
(2) 履歴書(写真添付のこと)
(3) 健康診断書(1年以内の定期健康診断書等、コピー可)
(4) 小論文(1,200字程度、横書き、A4サイズたて用紙を使用すること。研修テーマに基づき、海外研修に参加したい目的及び理由を明記すること。)
6. オリエンテーションの実施 派遣する介護福祉士については、平成22年7月23日(金)にオリエンテーションを開催し、研修・調査に関する実施細目等について説明を行うものとする。(派遣決定者はこれに出席することを条件とする。)
7. 研修・調査費の交付等 研修・調査等に要する費用はセンターが負担するものとする。ただし、旅行傷害保険の保険料、その他個人的経費は研修者の負担とする。
8. 報告書等の提出 研修者は、帰国後2か月以内に各自が研修・調査した事項の結果及び考察について、「研修・調査報告書」(8千字程度)に取りまとめ提出するものとする。
9. 申し込み方法 申し込みは、「5. 応募方法」の書類を、日本介護福祉士会事務局に郵送すること。締め切りは5月7日(金)必着とする。
※提出書類は一切返却しないものとする。

支部の研修情報

茨城県支部

- 〔茨城県介護福祉士会総会〕基調講演
日程 平成22年5月23日(日)
場所 茨城県総合福祉会館
内容 基調講演「介護相談」
講師・田辺鶴英講師
問い合わせ先 茨城県介護福祉士会
TEL029-354-5221

静岡県支部

- 〔介護福祉士実習指導者講習会〕
日程 7/4~8/29、10/15~11/23、平成23年1/22~2/26のいずれかの中で各4日
場所 静岡県総合社会福祉会館(シズウェル)他
〔中級リーダー研修〕
日程 10月7日(木)・11月10日(水)・12月8日(水)・平成23年1月20日(木)・2月9日(水)
場所 静岡県総合社会福祉会館(シズウェル)
101会議室
内容 介護保険施設の中間管理職・リーダーに必要な指導力の習得
問い合わせ先 一般社団法人静岡県介護福祉士会
TEL054-253-0818

京都府支部

- 〔平成22年度ファーストステップ研修〕
日程 平成22年6月26日(土)~平成23年1月29日(土)
場所 京都社会福祉会館2階第2会議室
締切 5月31日(月)
問い合わせ先 一般社団法人京都府介護福祉士会
TEL075-801-8060

岡山県支部

- 〔一般公開講座〕笑いと健康のエクササイズ
日程 5月22日(土)13:30~15:00
場所 岡山国際交流センター
地下1階レセプションホール
内容 NPO法人たすけあい・夢創庵代表 田中久江氏による講演
〔必参加〕認知症ケアヘルプマンが岡山にやってくる
日程 7月3日(土)13:30~16:30
場所 (株)ジェイエイ岡山(JA岡山)
内容 NPO法人風の詩副理事長永島徹氏による講演
問い合わせ先 社団法人岡山県介護福祉士会
TEL086-222-3125

介護福祉士向け専門情報誌

介護福祉

- ☆発行回数 年4回/春・夏・秋・冬号
☆購読料(年) 3,440円(4号分・送料含む)
☆申込み先 財団法人社会福祉振興・試験センター
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル
TEL 03-3486-7511 FAX 03-3486-7514
インターネットによる申込 http://www.sssc.or.jp
郵便振替口座 00120-5-138401

専門性が支える介護福祉の充実のために

この『介護福祉』は、介護福祉士の皆様の自己研鑽のため、また、施設等における介護職員の資質向上のための必携の書として大変好評を得ています。本誌は、日常の介護業務において、そこで求められる介護行為・動作等について、論理的根拠を医学・心理学・解剖学・看護学その他の面から、分かりやすく解説するほか、介護福祉士として是非知っておいていただきたい専門知識や技術・福祉機器の活用など、介護に関する最新情報を提供しています。

- 冬号(21年12月発行) 特集「介護する人と利用する人の心のケア」
春号(22年3月発行) 特集「食事ケアの基本」

社団法人 日本介護福祉士会

URL: <http://www.jaccw.or.jp/> E-mail: webmaster@jaccw.or.jp

第17回 全国大会が宮崎で開催されます!!

1. 日程: 12月10日(金)~11日(土)
2. 会場: フェニックス シーガイアリゾート ワールドコンベンションセンター サミット
3. テーマ: 「福祉と医療の連携 私たちは何ができて、何ができないのか」 ~介護福祉士の現状を、どげんかせんといかん!!~

現在申し込み受付中!!

※詳細はホームページをご覧ください。

日本介護福祉士会役員動き

(H22.4/1~H22.5/31・主要なもののみ掲載)

日程	会議名	出席者
4月17日	第1回研修委員会	内田千恵子副会長 木村晴恵副会長
4月22日	取材((株)キャリアブレイン)基本問題検討委員会(日本介護福祉士養成施設協会)	石橋真二会長
4月24日	一般社団法人宮城県介護福祉士会設立総会	石橋真二会長
4月25日	第1回倫理委員会	石橋真二会長
4月26日	第2回今後の介護人材養成の在り方に関する検討会(厚生労働省)	石橋真二会長
4月30日	第1回正副会長会・常任理事会	石橋真二会長 内田千恵子副会長 木村晴恵副会長 羽山政弘副会長
5月11日	第1回理事会	石橋真二会長 内田千恵子副会長 木村晴恵副会長 羽山政弘副会長
5月23日	一般社団法人千葉県介護福祉士会設立総会	石橋真二会長
5月27日	「介護福祉士」座談会	内田千恵子副会長
5月28日	平成22年度第1回福利厚生センター評議員会	石橋真二会長
5月29日	平成22年度通常総会	石橋真二会長 内田千恵子副会長 木村晴恵副会長 羽山政弘副会長

◆◆◆ 座談会開催 ◆◆◆

5月27日、東京都千代田区の日比谷松本楼において、中島紀恵子氏(社団法人日本看護協会 看護研修学校長)、海老根典子氏(社会福祉法人練馬区社会福祉事業団 練馬区立富士見台特別養護老人ホーム 施設長)、藤倉義之氏(社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団 世田谷区立特別養護老人ホーム 芦花ホーム 介護主任)、内田千恵子副会長の4名により、「特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員の連携について」をテーマとした座談会が開催された。

座談会の内容は介護の学術専門誌『介護福祉士』14号に掲載される予定です。



石橋体制が三期目に

平成22年度通常総会



介護福祉士を魅力ある職業として確立するために一丸となって取り組む

全議案を原案通り承認

平成22年度通常総会は、5月29日(土)、株式会社損害保険ジャパン大会議室で開催された。代議員定数は203名に対し出席代議員167名、委任状17名、書面評決4名、欠席15名。総会議事は原案通り承認され可決した。

副会長に内田、木村、三浦の各氏

午前中は、泉潤一氏(厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室長)による行政説明「福祉・介護人材確保対策と介護福祉士の未来」(2面掲載)が行われた。午後からの開会式典において、泉潤一氏、川井一心氏(社会福祉法人全国社会福祉協議会常務理事)、山口保氏(社団法人日本介護福祉士養成施設協会常務理事)、岡田守功氏(社団法人全国老人保健施設協会副会長)が出席し、祝辞をいただいた。

泉氏は、介護福祉士という職業は利用者の生活に寄り添った夢のある職業として、これからも利用者のニーズに応えていくために、日本介護福祉士会での取り組みを高く評価し、今後の連携・協力をしていきたいと述べた。

岡田氏は、全国老人保健施設協会では会員の半数ほどが介護福祉士会員であることに触れ、表裏一体の組織であるとし、今後も処遇改善、地位向上、研修等で協力し頑張りたいと述べた。

山口氏は、介護福祉士の資質向上において、日本介護福祉士会と日本介護福祉士養成施設協会は資格取得を挟んで共通の目的となることに触れ、養成校卒業生に対する情報提供など協力ができることを、今後一層の連携・協力をしていきたいと述べた。

そのために介護福祉士のキャリアアップ体系と併せて、安心して働くことのできる生涯賃金の体系を組み上げる必要性が述べられ、介護福祉士としての専門性の確立に向けて、平成21年度にはチームリーダー養成を目的とするファーストステップ研修の質の向上と拡大、認知症専門介護福祉士を養成する研修体制の検討等に取り組んだことが報告された。

その他、「特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員の連携によるケアの在り方に関する検討会」において検討された、介護職員が行うたんの吸引、胃ろうの医行為について、社会的ニーズに配慮することのできる介護福祉士が対応すべきであるとし、日本介護福祉士会としてはその上で介護福祉士の職務行為として安全性が確保されるよう、厚生



労働省に要望書を提出したことが報告された。

総会議事は、議長に河本由美(山口支部)と藤田智賀子(宮崎支部)を選出した後、議案の審議に入った。

平成22年度通常総会の各議案は以下の通りである。

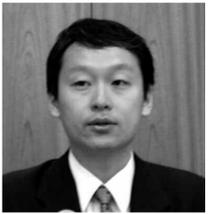
- 1 平成21年度事業報告(案)に関する件(3面・4面掲載)
- 2 平成21年度決算報告(案)並びに監査報告に関する件(6面掲載)
- 3 平成22年度事業計画(案)に関する件(5面掲載)
- 4 平成22年度収支予算(案)に関する件(6面掲載)
- 5 平成22年度役員選任に関する件

以上の各議案はいずれも採決の結果、原案通り承認、成立した。

会明 総説 行政 通行

福祉・介護人材確保対策と 介護福祉士の未来

厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室長 泉 潤一氏



平成22年度社団法人日本介護福祉士会通常総会挨拶 平成21年度の事業総括

社団法人日本介護福祉士会 会長 石橋真二



日本介護福祉士会におかれましては、厚生労働省の補助事業を行って頂いているほか、「介護の日」では都道府県レベルでの活動においてご協力頂きましてありがとうございます。本日は、福祉・介護人材確保や医療連携についてのお話をさせて頂きたいと思いま

す。男女別でみると女性の割合が約78%となっており、非常勤の割合は平成19年度では40.3%となっており、事業所の種類別でも非常勤の割合は施設サービスで増加傾向にあり、逆に在宅サービスでは減少傾向にあります。

介護職員に占める介護福祉士の割合につきましては、平成19年度では28.6%と急激に伸びております。介護等の業務に従事していない、いわゆる潜在的介護福祉士は、推計すると約22.5万人となっており、これは平成19年9月末現在の登録者数約63.9万人の約35%にあたります。

②胃ろうによる経管栄養 介護福祉士の福祉・介護分野の復帰意向については、約半数以上が何らかの形で福祉・介護分野への復帰意向を有しております。そこでこのような方が福祉・介護分野への復帰を促すための環境整備を行っていくことが大切となります。

介護福祉士への期待 介護福祉士への期待や理想のイメージと現状のギャップがあるなか、行政における課題や関連団体としての課題があるのではないかと考えます。

また、認知症専門介護福祉士の研修のあり方などの検討を行い、カリキュラムの見直しを行いました。22年度はより具体的なキャリアアップの仕組みに対応できるように生涯研修への取り組みも行っています。

まず最初に、福祉サービスを取り巻く環境につきましては、わが国の人口の推移に関しては、2004年をピークに減少局面に入り、2055年には9000万人を割り込み、高齢化率は40%を超えることが推計されています。また、社会保障給付費の推移に伴い、年金の給付費の上昇、2000年の介護保険法施行にともなう福祉その他の給付費が上昇しております。

介護福祉士登録者について 介護福祉士登録者については、年々増え続け平成12年の約55万人から平成19年には約124万人に達しております。しかしながら、平成17年度以降の伸びは徐々に鈍化しております。

介護福祉士の現状について 介護福祉士登録者については、着実にその人数は増加しており、その中でも国家試験受験者の登録者の増加がみられます。介護福祉士国家資格受験者数も増加しており、平成22年の合格者数は過去最高でした。

介護福祉士への期待 介護福祉士への期待や理想のイメージと現状のギャップがあるなか、行政における課題や関連団体としての課題があるのではないかと考えます。

また、認知症専門介護福祉士の研修のあり方などの検討を行い、カリキュラムの見直しを行いました。22年度はより具体的なキャリアアップの仕組みに対応できるように生涯研修への取り組みも行っています。

また、関係者や一般の方に対して、「介護福祉士が地域で担うべき役割について」をテーマにした公開シンポジウムを東京で行い、併せて「介護相談マニュアル」を作成し、各支部や関係団体に配布しました。なお、21年度は助成金事業を5つ行うなど数多くの活動を行い、本会としての研究活動、社会貢献にも寄与してまいりました。

介護福祉士会におかれましては、厚生労働省の補助事業を行って頂いているほか、「介護の日」では都道府県レベルでの活動においてご協力頂きましてありがとうございます。本日は、福祉・介護人材確保や医療連携についてのお話をさせて頂きたいと思いま

す。男女別でみると女性の割合が約78%となっており、非常勤の割合は平成19年度では40.3%となっており、事業所の種類別でも非常勤の割合は施設サービスで増加傾向にあり、逆に在宅サービスでは減少傾向にあります。

介護職員に占める介護福祉士の割合につきましては、平成19年度では28.6%と急激に伸びております。介護等の業務に従事していない、いわゆる潜在的介護福祉士は、推計すると約22.5万人となっており、これは平成19年9月末現在の登録者数約63.9万人の約35%にあたります。

②胃ろうによる経管栄養 介護福祉士の福祉・介護分野の復帰意向については、約半数以上が何らかの形で福祉・介護分野への復帰意向を有しております。そこでこのような方が福祉・介護分野への復帰を促すための環境整備を行っていくことが大切となります。

介護福祉士への期待 介護福祉士への期待や理想のイメージと現状のギャップがあるなか、行政における課題や関連団体としての課題があるのではないかと考えます。

また、認知症専門介護福祉士の研修のあり方などの検討を行い、カリキュラムの見直しを行いました。22年度はより具体的なキャリアアップの仕組みに対応できるように生涯研修への取り組みも行っています。

介護福祉士会におかれましては、厚生労働省の補助事業を行って頂いているほか、「介護の日」では都道府県レベルでの活動においてご協力頂きましてありがとうございます。本日は、福祉・介護人材確保や医療連携についてのお話をさせて頂きたいと思いま

す。男女別でみると女性の割合が約78%となっており、非常勤の割合は平成19年度では40.3%となっており、事業所の種類別でも非常勤の割合は施設サービスで増加傾向にあり、逆に在宅サービスでは減少傾向にあります。

介護職員に占める介護福祉士の割合につきましては、平成19年度では28.6%と急激に伸びております。介護等の業務に従事していない、いわゆる潜在的介護福祉士は、推計すると約22.5万人となっており、これは平成19年9月末現在の登録者数約63.9万人の約35%にあたります。

②胃ろうによる経管栄養 介護福祉士の福祉・介護分野の復帰意向については、約半数以上が何らかの形で福祉・介護分野への復帰意向を有しております。そこでこのような方が福祉・介護分野への復帰を促すための環境整備を行っていくことが大切となります。

介護福祉士への期待 介護福祉士への期待や理想のイメージと現状のギャップがあるなか、行政における課題や関連団体としての課題があるのではないかと考えます。

また、認知症専門介護福祉士の研修のあり方などの検討を行い、カリキュラムの見直しを行いました。22年度はより具体的なキャリアアップの仕組みに対応できるように生涯研修への取り組みも行っています。

介護福祉士向け専門情報誌 介護福祉 専門性が支える介護福祉の充実のために この『介護福祉』は、介護福祉士の皆様の自己研鑽のため、また、施設等における介護職員の資質向上のための必携の書として大変好評を得ています。本誌は、日常の介護業務において、そこで求められる介護行為・動作等について、論理的根拠を医学・心理学・解剖学・看護学その他の面から、分かりやすく解説するほか、介護福祉士として是非知っておいていただきたい専門知識や技術・福祉機器の活用など、介護に関する最新情報を提供しています。 ☆発行回数 年4回/春・夏・秋・冬号 ☆購読料(年) 3,440円(4号分・送料含む) ☆申込み先 財団法人 社会福祉振興・試験センター 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル TEL 03-3486-7511 FAX 03-3486-7514 定期購読の申込方法 http://www.sssc.or.jp 郵便振替口座 00120-5-138401 冬号(21年12月発行) 特集「介護する人と利用する人の心のケア」 春号(22年3月発行) 特集「食事ケアの基本」

平成21年度事業報告書

I 法人の概況

1. 設立年月日
平成12年6月26日 (任意団体設立・平成6年2月12日)
2. 定款に定める目的
本会は、介護福祉士の職業倫理及び専門性の確立、介護福祉に関する専門的教育及び研究の推進並びに介護に関する知識の普及を図り、介護福祉士の資質及び社会的地位の向上に資するとともに、国民の福祉の増進に寄与することを目的とする。

職員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
男子 5名	0名	歳	5年2月
女子 2名	1名(増)	歳	4年4月
合計は平均 7名	1名(増)	43歳	5年0月

※他に有期労働契約女子社員2名

8. 職員に関する事項

II 事業の状況

1. 介護福祉士の職業倫理並びに専門的知識及び技術の向上に関する事業

- (1) 専門分野に関する事業
- (2) 生涯研修制度検討委員会

・当年度においては2回の委員会を開催し、生涯研修体系について検討を行った。また、ファーストステップ研修の諸規程を検討した。

・ファーストステップ研修等のレポート評価体制を構築した。

・ファーストステップ研修の講師養成、テキスト作成の検討を行った。

3. 定款に定める事業内容
 - (1) 介護福祉士の職業倫理並びに専門的知識及び技術の向上に関する事業
 - (2) 介護福祉に関する調査研究に関する事業
 - (3) 介護福祉士教育機関その他関係団体との連携及び協力に関する事業
 - (4) 介護福祉の普及啓発に関する事業
 - (5) 介護福祉士の相互福祉に関する事業
 - (6) その他本会の目的を達成するために必要な事業
4. 所管官庁に関する事項
厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課
5. 会員の状況

種類	当期末	前期末比増減
正会員	43、628	548(増)
賛助会員	15	1(増)
名誉会員	1	1

※正会員については、定款第7条及び第8条第4項の規定に従い整理した。

6. 主たる事務所の状況

主たる事務所：東京都港区虎ノ門1丁目22番13号 西勘虎ノ門ビル3階

7. 役員等に関する事項

〈別表1・省略〉

(2) 各種研修に関する事業

①日本介護福祉士会会員が広く参加する研修
○全国大会の開催
全ての介護福祉士の研究意欲を高めるとともに、介護福祉実践場面での知識・技術の向上を図るため次のとおり開催した。

開催年月日	第16回全国大会
開催年月日	21年12月4日(金)～5日(土)
開催場所	大阪国際交流センター
人数	1,000名

○ブロック研修会の実施

介護福祉士としての資質の向上を図るため、介護問題を巡る最新のテーマに基づいた研修会を実施した。

○ブロック研修

開催年月日	北海道・東北ブロック(福島)
開催年月日	21年9月4日(金)～5日(土)
開催場所	ホテル華の湯
人数	254名
開催年月日	関東甲信越ブロック(千葉)
開催年月日	21年9月25日(金)～26日(土)
開催場所	ホテルグリーンタワー千葉
人数	521名
開催年月日	東海北陸ブロック(静岡)
開催年月日	21年8月28日(金)～29日(土)
開催場所	ホテルコンコルド浜松
人数	220名
開催年月日	中国・四国ブロック(岡山)
開催年月日	21年6月25日(木)
開催場所	岡山コンベンションセンター
人数	440名
開催年月日	九州ブロック(熊本)
開催年月日	21年10月10日(土)～11日(日)
開催場所	熊本市民会館
人数	251名

○ブロックリーダー研修

開催年月日	北海道・東北ブロック
開催年月日	21年10月3日(土)～4日(日)
開催場所	秋田県生涯学習センター分館
人数	59名
開催年月日	関東甲信越ブロック
開催年月日	21年5月31日(日)
開催場所	亀戸文化センター
人数	31名
開催年月日	東海北陸ブロック
開催年月日	22年3月20日(土)
開催場所	ターミナルホテルフクイ
人数	25名
開催年月日	近畿ブロック
開催年月日	21年7月11日(土)～12日(日)
開催場所	紀州南部ロイヤルホテル
人数	40名
開催年月日	第2回
開催年月日	22年1月17日(日)
開催場所	キャンパスプラザ京都
人数	60名

○リーダー研修の実施

・初任者研修講師養成研修を実施した。

開催年月日	21年6月13日(土)～14日(日)
開催場所	フューチャーセンター 人数 98名

・ファーストステップ研修の講師養成を実施した。

開催年月日	前期 21年9月19日(土)～21日(月)
人数	16名
開催年月日	後期 21年10月17日(土)～18日(日)
人数	19名

○専門研修

・「(仮称)認定専門介護福祉士(認知症)養成研修」を東西会場において各1回ずつの開催を実施した。

開催年月日	(東)前期 21年7月25日(土)～26日(日)
人数	16名
開催年月日	(東)後期 21年8月28日(金)～30日(日)
人数	16名
開催場所	情報オアシス神田
開催年月日	(西)前期 22年1月16日(土)～17日(日)
人数	40名
開催年月日	(西)後期 22年2月19日(金)～21日(日)
人数	40名
開催場所	大阪ビジネスパーク

○介護福祉士実習指導者講習会の実施

・47都道府県支部(延べ92開催)へ参考資料(省略)において実施した。

○介護福祉士実習指導者講習会講師養成研修の実施

・介護福祉士実習指導者講習会の講師養成を次のとおり実施した。

③職能的研修

開催年月日	21年7月10日(金)～11日(土)
開催場所	TOC有明コンベンションホール
人数	137名

○介護技術講習会指導者・主任指導者養成講習会の実施

・指導者養成講習会を次のとおり6支部で実施した。

開催年月日	21年6月6日(土)～7日(日)
開催場所	兵庫県介護福祉会 人数 39名
開催年月日	21年9月5日(土)～6日(日)
開催場所	富山県介護福祉会 人数 8名
開催年月日	21年12月19日(土)～20日(日)
開催場所	北海道介護福祉会 人数 16名

開催年月日	22年1月16日(土)～17日(日)
開催場所	群馬県介護福祉士会
人数	4名
開催年月日	22年3月20日(土)～21日(日)
開催場所	大阪介護福祉士会
人数	22名
開催年月日	22年3月27日(土)～28日(日)
開催場所	愛知県介護福祉士会
人数	20名

主任指導者養成講習会を次のとおり実施した。

④その他の研修

○海外研修の実施

「介護福祉士海外研修・調査」への会員参加及び募集協力を行った。

主 催：財団法人社会福祉振興・試験センター

派遣国：スウェーデン

実施期間：平成21年9月5日～9月19日

「スウェーデン介護福祉視察旅行」への会員参加及び募集協力等を行った。

主 催：日通旅行

派遣国：スウェーデン

実施期間：平成22年3月21日～3月28日

2. 介護福祉に関する調査研究に関する事業

○第8回介護福祉士の就労実態と専門性の意識に関する調査

・より良い介護サービスの提供に資すること等を目的として、時代の変遷とともに介護福祉士に求められているものおよび就労実態に関する調査結果をまとめた報告書を配布した。

○介護報酬改定に伴う介護従事者の処遇改善に関する調査を実施した。

3. 介護福祉士教育機関その他関係団体との連携及び協力に関する事業

○当年度は、各団体と連携し、「別表2・省略」のとおり連携強化を図った。

○第22回介護福祉士国家試験(実技試験)の実地試験委員として、112名を社会福祉振興・試験センターに派遣した。

○厚生労働省「介護職員のキャリアパスに関する懇談会」に参画し意見を述べた。

4. 介護福祉の普及啓発に関する事業

○「介護の日」に関する事業を実施

・「介護の日」ひろめ隊の活動等に積極的に取り組んだ。

啓発・広報のためのシンポジウムを開催した。

・敬老の日・老人保健福祉週間や介護の日に合わせて、介護相談などを支部において実施した。(参考資料2・省略)

○「介護の日」のイベント事業において、長寿社会開発センターの行った「明日の介護」わたしの提言〜コンクルールの優秀作品に、日本介護福祉士会会長賞も設け、表彰した。

○日本介護福祉士会ニュースの発行

・当年度は通巻No.91号からNo.96号を偶数月15日に発行した。支部を通じて全会員に送付するほか、有償購読者94(介護福祉士養成施設、その他団体・個人)に送付した。

○リーフレットの作成

・入会を促進するためリーフレットを作成し、適宜配布した。

○ホームページによる情報提供

・昨年度に引き続き、速やかな情報更新を行った。

○調査研究事業の情報提供

○介護福祉士国家試験受験対策事業の実施(模擬試験等)

・介護福祉士国家試験受験支援のための、全国一斉模擬試験を実施した。(参考資料2・省略)

・「受験せみなる」の福祉新聞への掲載をした。

○介護支援専門員全国一斉模擬試験を実施した。(参考資料2・省略)

5. 介護福祉士の相互福祉に関する事業

○会員専用福利厚生制度(安心三重奏)の団体加入促進に取り組んだ。

○昨年度に引き続き、会員証付帯福利厚生制度の充実に取り組んだ。

6. その他本会の目的を達成するために必要な事業

○制度・政策検討委員会

・当年度においては委員会を3回開催し、政策提言事項、要望事項等の内容を検討し、それぞれ対応した。

・介護報酬改定に伴う介護従事者の処遇改善に関する調査を実施した。

・特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員との連携によるケアのあり方について介護福祉士が実施する行為について一検討し、要望を取りまとめて厚生

労働省老健局長へ提出した。

「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」(厚生労働省)における提言事項等について検討した。

○(仮称)キャリアパス検討会

・介護職員処遇改善交付金申請の際に要件となるキャリアパスについて検討した。

○倫理委員会

・日本介護福祉士会倫理綱領に基づく倫理規定等の作成について検討した。

○災害救援事業

・委員会を3回開催し、「災害時における介護福祉支援ボランティア・マニユアル」のうち、生活7領域【食】について検討するとともに、災害救援事業の普及を図った。

○学術研究活動

・介護福祉にかかわる学術的な研究を推進し、介護福祉の専門的な技術、知識の向上を図るため、次のとおり開催した。

開催年月日	第7回日本介護学会
開催場所	21年10月31日(土)
人数	佐久勤労者福祉センター(長野県) 360人

・学術専門誌「介護福祉士」No.12号及びNo.13号を刊行した。

○組織財政運営

(諸会議の開催)

・通常総会1回
・理事会2回
・常任理事会8回
・正会員理事懇談会2回
・都道府県会長会2回
・組織強化委員会1回
・研修委員会1回
・広報委員会1回
・倫理委員会1回
・全国大会実行委員会3回
・ブロック会議(各ブロックで4回)(会員の加入促進)

・都道府県会長会において提言を行い、具体的な目標数を決定し、各支部はその達成の取り組みを行った。

・本会活動の積極的な周知に努め、賛助会員の獲得を図るなどして組織基盤を整備した。

・都道府県介護福祉士会の健全な発展のため、社団法人化及び一般社団法人化を支援した。一般社団法人化支部は6支部(宮城県、埼玉県、愛知県、滋賀県、佐賀県、長崎県)

○補助金事業

(公的助成の確保を図り、事業の充実に図った)

・厚生労働省「介護福祉士実習指導者講習会」の実施

(介護福祉士養成カリキュラムの見直しにともない、実習施設・事業等(Ⅱ)における実習指導者が修了しなければならぬ講習会を47都道府県支部において実施した。)

・厚生労働省「介護職員のキャリアアップ研修体系の開発と支援に関する調査研究事業」の実施

(4回の親委員会及び7回の作業委員会を実施し、介護福祉士のキャリアアップシステムの1つであるファーストステップ研修の『指導の要領』や『事例教材』について検討・作成するとともに、報告書を作成し、配布することでファーストステップ研修の更なる普及を図った。)

・厚生労働省「介護の日」に関する国民への周知および介護現場に関する国民の認識に関する調査研究事業の実施(委員会を設置して調査内容等を検討するとともに、「介護の日」の周知を目的として、全国において関連団体等と協力してイベントを実施した。また、北海道においてシンポジウムを開催し、その後行ったアンケート調査の結果とあわせて報告書にまとめ、広く配布した。)

・独立行政法人福祉医療機構「介護相談マニュアル作成等事業」の実施

(全国一斉介護相談及びシンポジウム「介護福祉士が地域で担うべき役割について」を実施した。また「介護福祉士のための介護相談マニュアル」を作成した。)

・財団法人社会福祉振興・試験センター「リーダー研修会」の実施

(介護福祉士初任者を指導するリーダーを養成するために、研修会を実施した。)

○第三者評価事業

・東京都福祉サービス評価推進機構より認証を受けた。

・評価者の新規養成1名、継続研修9名

・各支部の実施状況

・都府、福岡県で実施した。

○介護サービス情報の公表事業

・各支部の実施状況

・新潟県、富山県、長野県、静岡県、京都府、福岡県で実施した。

ソウエルクラブ(福利厚生センター)ご加入のおすすめ

■職員の健康管理のために

- 生活習慣病予防健診費用助成
- 健康生活用品給付
- スポーツクラブ
- 電話健康医療相談

■職員の万が一の際に

- 会員の死亡弔慰金
- 会員の配偶者の死亡弔慰金
- 会員の入院・手術見舞金
- 災害見舞金

■職員の資質向上のために

- 海外研修
- 広報講習会
- レク・リーダー養成講習会
- 接遇講習会
- パソコン講習会
- メンタルヘルス講習会

■加入できる職員

■社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。

■掛金

■掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。

■職員の余暇活用のために

- 指定保養所・休暇村他 7種類の宿泊施設、全国289か所
- 海外リフレッシュツアー
- クラブ・サークル活動支援
- テーマパーク
- 国内・海外旅行
- レンタカー
- カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等

■職員の生活サポートのために

- 住宅ローン・特別資金ローン
- クレジットカード
- ソウエル団体生命保険

■各種情報提供

- 会員情報誌、ソウエルクラブニュース
- ホームページ

魅力ある職場づくりに福利厚生センターをご活用ください

加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル

TEL ☎0120-292-711

FAX ☎0120-292-722

<http://www.sowel.or.jp/>

社会福祉法人 福利厚生センター
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-21-17虎ノ門NNビル

平成22年度事業計画

1. 介護福祉士の職業倫理並びに専門的知識及び技術の向上に関する事業

―介護福祉士の資質向上等を目的として研修を実施する。

(1) 専門分野に関する事業

○生涯研修制度検討委員会

―生涯研修システムを運営し、認証制度を更に継続してシステムの普及・推進について検討を行う。

―ファーストステップ研修を充実させるために、引き続き授業内容の充実

- ・テキスト作成に向けての検討を行い、全国水準のアップを図る。

―シラバスの作成への支援、リーダー研修による講師養成研修の実施など各支部での事業運営に必要なサポート体制を充実する。

―ファーストステップ研修の充実に伴い、初任者研修のシラバス・カリキュラムの見直しを行う。

―セカンドステップ研修の内容について検討を行う。

―サービス提供者研修の標準カリキュラムを作成し、認証制度を確立する。

○介護の専門性の向上に関する事業内容の充実に向けた取り組みを行う。

―専門介護福祉士の養成・認定に向けて、生涯研修体系等を検討し、「認定専門介護福祉士（認知症）」も含めた全体のカリキュラム等の作成・見直しを行いモデル研修を実施する。

―介護職のための事例研究、研究方法及び発表の仕方などについてのモデル研修を行い、全国大会における研究発表、学会発表を促進するとともにレベルの高いものとし、専門性の向上・確立を目指す。

(2) 各種研修に関する事業

○日本介護福祉士会会員が広く参加する研修

○全国大会の開催

―全ての介護福祉士の研究意欲を高めるとともに、介護福祉実践場面での知識・技術の向上を図るため時宜に合ったテーマに沿って、講演、分科会等開催を全支部が支援し、実施する。（開催県：宮崎県、12月10～11日）

○ブロック研修会の開催

―介護福祉士としての資質の向上を図るため、介護問題を巡る最新のテーマに基づいた研修会を実施する。

②総合的なキャリアアップを目的とする研修（生涯研修プログラムに則って実施）

○初任者研修（各支部実施）

―初任者を対象とした研修を全支部で実施する。

○ファーストステップ研修

―21年度に検討した授業内容等の改善後のシラバス・教材を参考にしながら本会のモデルカリキュラムを参考に各支部で実施する。

○リーダー研修の実施

―ファーストステップ研修・初任者研修などの講師養成をさらに充実させる目的として実施する。（受講要件の見直しを行う）。

○専門研修

―「認定専門介護福祉士（認知症）」養成研修の事業

○介護福祉士実習指導者講習会の実施

―施設及び養成校における実習の指導に当たる者に必要な知識・技術を付与することを目的として講習会を実施する。

③ 職能的研修

○サービスマニエール研修（各ブロック又は支部において実施）

―介護保険制度で多くの介護福祉士がその責務を担うサービスマニエール研修に必要知識を付与することを目的として実施する。

○介護支援専門員現任研修（各ブロック又は支部において実施）

―「日本介護福祉士会方式アセスメント・ケアプラン」を活用するなどして介護支援専門員の現任研修を行う。

○介護技術講習会主任指導者・指導者養成研修

―主任指導者・指導者養成研修は中央実施、指導者養成研修は支部実施

④ その他の研修

○海外研修の実施

―社会福祉振興・試験センター実施の海外研修への会員参加

○その他の研修

―就労実態と専門性の意識に関する調査研究

―より良い介護サービスの提供に資すること等を目的として、時代の変遷とともに介護福祉士に求められているものおよび就労実態に関する調査を実施し、介護福祉士の現況と今後の方向性について研究する。

○介護報酬改定の取組み状況の検証と評価に関する調査研究

―今般の介護報酬改定で位置づけられた介護従事者の専門性等のキャリアに着目した改定項目等に対する取組み状況の検証等に関する調査を実施し、今後の介護報酬改定に向けての対応について研究する。

2. 介護福祉に関する調査研究に関する事業

○就労実態と専門性の意識に関する調査研究

○介護報酬改定の取組み状況の検証と評価に関する調査研究

○より良い介護サービスの提供に資すること等を目的として、時代の変遷とともに介護福祉士に求められているものおよび就労実態に関する調査を実施し、介護福祉士の現況と今後の方向性について研究する。

育成を図る。

○各支部事業への支援協力

○介護福祉士国家試験（実技試験）の実地試験委員派遣協力

4. 介護福祉の普及啓発に関する事業

―介護福祉士に対する国民の要望に応え、本会の役割を普及させるため、各種事業を展開する。

○介護の日に関する事業の実施

―「介護の日」ひろめ隊の活動等の実施

11月11日の「介護の日」の普及啓発を図るとともに地域における支え合いの重要性等の理解と認識をひろめ、「介護の日」の意義を促す。

○シンポジウムの開催

―シンポジウムの開催

―国民が介護について理解と認識を深め、介護を取り巻く地域社会における支え合いや交流を促進する観点から公開シンポジウムを行う。

―介護相談事業などの実施

―敬老の日・老人保健福祉週間や、「介護の日」を中心とした福祉人材確保重点実施期間に合わせて47都道府県において介護相談など各支部の企画による事業を実施する。

○日本介護福祉士会ニュースの充実・発行（年6回）

○ポスター及びパンフレットの作成

―内容の一層の充実を図るとともに各支部のホームページによる情報提供

○調査研究事業の情報提供

○介護福祉士国家試験受験対策事業の実施（模範試験等）

―「受験せみなる」の福祉新聞への掲載

○介護支援専門員実務研修受講試験受験対策事業の実施（模範試験等）

○介護に関する出版物の発行及び協力

6. その他本会の目的を達成するために必要な事業

○制度政策検討に関する事業

―介護福祉士の労働条件の改善・社会的評価の向上に対する取り組みを図る。

○介護保険制度とサービスの質の評価に関する指標、障害者自立支援法・医療行為・国家試験・介護福祉教育・外国人労働者などの介護福祉士制度に関する政策・提言については、調査研究、研修部門と連携して検討する。

―行政を始めとする各委員会等に参画し提言していく。なお、国民、市民に向けての情報発信を積極的に行う。

○キャリアパスに関する提言を行う。

○倫理委員会において、会員の倫理規定や倫理綱領を見直す。

○組織財政運営

―諸会議を開催し、健全な本会運営を図る。

○総会、理事会及び常任理事会の開催

―各支部策定の「会員加入促進計画」に基づいて介護福祉士登録者の本会への加入を促進し、組織基盤を確立する。

―本会活動の積極的な周知に努め、賛助会員の獲得を図るなどとして組織基盤を整備する。

○日本介護福祉士会及び都道府県介護福祉士会の健全な発展のため、公益社団法人認定を目指す。なお各支部の社団法人化を促進する。

○公的助成の確保を図り、事業の充実を目指す。

○災害救援事業の充実

―災害救援実践マニュアルの作成・充実を図る。

○学術研究活動

―日本介護学会の運営と第7回学術集会の開催（開催県：岩手県10月2日）

―会員の実践・研究業績を広く周知し、生かすために専門誌「介護福祉士」（年2回）を発行する。

○第三者評価事業の実施・介護サービスの情報公表事業の推進

―日本介護福祉士会による事業の実施ならびに各支部が実施する場合の支援を行う。

平成22年度 一般会計収支計算書 平成21年度

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
(単位：円)			
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
(1)会費収入	241,500,000	236,000,000	5,500,000
①入会金収入	15,000,000	15,000,000	0
②年会費収入	225,000,000	219,000,000	6,000,000
年会費収入	222,000,000	216,000,000	6,000,000
過年度年会費収入	3,000,000	3,000,000	0
③賛助会費収入	1,500,000	2,000,000	△ 500,000
(2)事業収入	117,200,000	88,100,000	29,100,000
①研修会費収入	100,000,000	60,000,000	40,000,000
②研修手数料収入	1,500,000	10,000,000	△ 8,500,000
③協賛金収入	2,000,000	2,000,000	0
④購読料収入	200,000	200,000	0
⑤手数料収入	13,000,000	15,000,000	△ 2,000,000
⑥委託料収入	500,000	900,000	△ 400,000
第三者評価事業収入	500,000	900,000	△ 400,000
(3)補助金等収入	25,793,000	31,241,000	△ 5,448,000
①国庫補助金収入	21,793,000	27,241,000	△ 5,448,000
②民間助成金収入	4,000,000	4,000,000	0
(4)災害活動費収入	0	0	0
①災害活動費預り金受入収入	0	0	0
(5)雑収入	150,000	150,000	0
①雑収入	150,000	150,000	0
受取利息収入	100,000	100,000	0
雑収入	50,000	50,000	0
事業活動収入計	384,643,000	355,491,000	29,152,000
2. 事業活動支出			
(1)事業費支出	282,800,000	256,741,000	26,059,000
①研修費支出	116,500,000	97,241,000	19,259,000
②調査研究費支出	1,500,000	1,500,000	0
③広報費支出	10,400,000	8,500,000	1,900,000
④組織費支出	7,300,000	7,800,000	△ 500,000
⑤専門研究費支出	1,700,000	1,400,000	300,000
⑥その他事業費支出	30,850,000	29,250,000	1,600,000
⑦会員証作成費支出	50,000	50,000	0
⑧支部活動費支出	111,000,000	108,000,000	3,000,000
⑨学術研究活動費支出	3,500,000	3,000,000	500,000
(2)管理費支出	100,000,000	97,100,000	2,900,000
①人件費支出	50,000,000	50,000,000	0
②顧問料支出	1,500,000	900,000	600,000
③事務所費支出	6,500,000	6,500,000	0
④通信運搬費支出	2,500,000	2,500,000	0
⑤事務費支出	11,000,000	11,000,000	0
⑥渉外費支出	1,800,000	1,800,000	0
⑦租税公課支出	2,000,000	1,200,000	800,000
⑧会議費支出	24,700,000	23,200,000	1,500,000
(3)他会計への繰入金支出	122,000	0	122,000
①特別会計(医療機構)への繰入金支出	0	0	0
②特別会計(学会)への繰入金支出	122,000	0	122,000
事業活動支出計	382,922,000	353,841,000	29,081,000
事業活動収支差額	1,721,000	1,650,000	71,000
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
①基本財産取得支出	0	1,000,000	△ 1,000,000
②固定資産取得支出	0	0	0
投資活動支出計	0	1,000,000	△ 1,000,000
投資活動収支差額	0	△ 1,000,000	1,000,000
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出	1,300,000	300,000	1,000,000
当期収支差額	421,000	350,000	71,000
前期繰越収支差額	48,973,239	46,511,464	2,461,775
次期繰越収支差額	49,394,239	46,861,464	2,532,775

(注) 1. 借入金限度額 なし 2. 債務負担額 なし

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
(単位：円)			
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
(1)会費収入	236,000,000	228,792,000	7,208,000
①入会金収入	15,000,000	16,620,000	△ 1,620,000
②年会費収入	219,000,000	210,372,000	8,628,000
年会費収入	216,000,000	205,196,000	10,804,000
過年度年会費収入	3,000,000	5,176,000	△ 2,176,000
③賛助会費収入(注1)	2,000,000	1,800,000	200,000
(2)事業収入	88,100,000	155,432,899	△ 67,332,899
①研修会費収入	60,000,000	138,065,000	△ 78,065,000
②研修手数料収入	10,000,000	236,000	9,764,000
③協賛金収入	2,000,000	1,670,000	330,000
④購読料収入	200,000	174,000	26,000
⑤手数料収入	15,000,000	15,287,899	△ 287,899
⑥委託料収入	900,000	0	900,000
第三者評価事業収入	900,000	0	900,000
(3)補助金等収入	31,241,000	58,318,000	△ 27,077,000
①国庫補助金収入	27,241,000	41,141,000	△ 13,900,000
②民間助成金収入	4,000,000	4,000,000	0
③老人保健健康増進等補助金収入	0	13,177,000	△ 13,177,000
(4)災害活動費収入	0	0	0
①災害活動費預り金受入収入	0	0	0
(5)雑収入	150,000	147,451	2,549
①雑収入	150,000	147,451	2,549
受取利息収入	100,000	100,706	△ 706
雑収入	50,000	46,745	3,255
事業活動収入計	355,491,000	442,690,350	△ 87,199,350
2. 事業活動支出			
(1)事業費支出	256,741,000	329,953,321	△ 73,212,321
①研修費支出	97,241,000	165,812,322	△ 68,571,322
②調査研究費支出	1,500,000	27,327,060	△ 25,827,060
③広報費支出	8,500,000	5,710,740	2,789,260
④組織費支出	7,800,000	7,570,319	229,681
⑤専門研究費支出	1,400,000	1,308,220	91,780
⑥その他事業費支出	29,250,000	25,300,087	3,949,913
⑦会員証作成費支出	50,000	95,445	△ 45,445
⑧支部活動費支出	108,000,000	93,774,000	14,226,000
⑨学術研究活動費支出	3,000,000	3,055,128	△ 55,128
(2)管理費支出	97,100,000	90,275,254	6,824,746
①人件費支出	50,000,000	46,461,715	3,538,285
②顧問料支出	900,000	789,600	110,400
③事務所費支出	6,500,000	6,425,916	74,084
④通信運搬費支出	2,500,000	2,645,697	△ 145,697
⑤事務費支出	11,000,000	6,761,744	4,238,256
⑥渉外費支出	1,800,000	1,581,735	218,265
⑦租税公課支出	1,200,000	3,652,300	△ 2,452,300
⑧会議費支出	23,200,000	21,956,547	1,243,453
(3)他会計への繰入金支出	0	0	0
①特別会計(医療機構)への繰入金支出	0	0	0
②特別会計(学会)への繰入金支出	0	0	0
事業活動支出計	353,841,000	420,228,575	△ 66,387,575
事業活動収支差額	1,650,000	22,461,775	△ 20,811,775
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
①基本財産取得支出	1,000,000	20,000,000	△ 19,000,000
②固定資産取得支出	0	0	0
投資活動支出計	1,000,000	20,000,000	△ 19,000,000
投資活動収支差額	△ 1,000,000	△ 20,000,000	19,000,000
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出	300,000	0	300,000
当期収支差額	350,000	2,461,775	△ 2,111,775
前期繰越収支差額	46,511,464	46,511,464	0
次期繰越収支差額	46,861,464	48,973,239	△ 2,111,775

(注1) 株式会社損害保険ジャパン(20)、中央法規出版株式会社(20)、株式会社ピュアスピリッツ(20)、株式会社アイ・ジー・オー、株式会社社会保険研究所、株式会社ジャパン保険サービス、株式会社トータル保険サービス、株式会社ニチイ学館、株式会社まほろば、学校法人読売理工学院、公益社団法人全国老人福祉施設協議会、社団法人日本介護福祉士養成施設協会、新日本法規出版株式会社、東洋羽毛工業株式会社、日本通運株式会社首都圏旅行支店(敬称略)(15団体)

平成21年度特別会計決算、平成22年度特別会計予算についてはホームページをご覧ください。

福岡支部海外研修記 スウェーデン・ストックホルムの介護福祉を視察して

社団法人福岡県介護福祉士会 副会長 賀戸麻里子

福岡県介護福祉士会第10回海外研修としてスウェーデン・ストックホルムへ2月末から3泊5日という短期間だったが、37名の参加があった。

スウェーデンは、社会サービス法によって大規模収容施設であったナーシングホームがノーマライゼーション理念に基づいて、少人数のグループホームやケア付き住宅の高齢者ホーム、サービスハウ

スへと形態を変え、「住宅化」している。10年前から入居者を「住人」と呼んでいる。訪問したグループホームは4階建築の1・2階がグループホームで3・4階は一般住宅であっ

た。2階は認知症のないう9人、1階2ユニットは認知症の人16人が生活をしていて。居室以外に食堂や居間があり、家庭的な雰囲気があった。各部屋は34㎡

37㎡の広さで、トイレ・シャワー・洗面所がついている。絵や写真が飾られ、家具、思いつきの品々がたくさん置かれ、さらに天井にはリフト、床にはベッドやイスから移乗する時に使う福祉用具がさりげなく置かれ、それでもまだ広いという感じがした。利用料はコミュニティが設定し、利用者は介護費・食費・家賃を支払う。年金額やその他の収入を見て、軽減することがあ

り、年金の一部が手元に残るようにしている。1980年後半から人口の高齢化と低経済成長に伴う財政赤字のなかで1992年エーデル改革が導入され、保健医療は県(ランスティング)、社会サービス(介護を含む)は市(コミュニティ)へと大きく分けられ、高齢者の医療保健サービスは市に移し、施設介護・看護は在宅介護・看護へと比重を移した。そのねらいは高齢者には医療費の抑制を図っているのである。在宅であるいは高齢者住宅で生活援助を中心にしてサービスを提供し、介護士、または准看護

師がそれを担い、医療面はベテランの正看護師が担うということを徹底していた。1年前、「選択の自由に関する法」が制定され、ホームヘルプサービスや高齢者住宅の選択が可能になった。民間事業者は入札によって市が委託するが、最初の3年間は試行期間で質の良さが認められると、さらに5年間サービスを提供することができると。人口63000人のソレンチューナ市の高齢化率は15%で、住宅入居500人、ヘルパー利用が1200人で、サービス提供者は23事業者あり、民間事業者の中には国境を越えて展開し

ている大手の事業所もある。福祉大国スウェーデンも国の経済・財政的、政治的事情を背景として、また、当事者自身によるサービス選択の自由の観点からサービス提供主体が多様化している。ホームヘルプサービスを受けるためには審査がある。市のケアニーズ査定員(ベテラン正看護師)が自宅を訪問してサービスの必要性を見て決定する。ホームヘルプサービスを16時間無料(国の助成による市の負担)で介護が受けられる。まだ

とを目的として運動や音楽の部屋、白い部屋、ボートの部屋、タクトの部屋の部屋をつくっていた。私にとっては、どの部屋も初めて見るものばかりだった。廊下や廊下の壁のあちこちにカラフルで楽しそうな遊ぶものが設置されている。子どもが利用する「訪問者」と呼んでいる。知的障害児施設は、A(0歳~2・5歳)、B(6歳まで)、C(12歳まで)の3段階の発達レベルで分けているが、「機能障害者を対象とする援助およびサービスに関する法律(LSS法)」によって65歳まで利用できる。

訪問した施設はA段階でアメリカの教育方法(メソッド)を取り入れてコミュニケーションを重視し、小学校就学前のレベルに上げることが目標としている。五感を刺激するこ

を目的として運動や音楽の部屋、白い部屋、ボートの部屋、タクトの部屋の部屋をつくっていた。私にとっては、どの部屋も初めて見るものばかりだった。廊下や廊下の壁のあちこちにカラフルで楽しそうな遊ぶものが設置されている。子どもが利用する「訪問者」と呼んでいる。知的障害児施設は、A(0歳~2・5歳)、B(6歳まで)、C(12歳まで)の3段階の発達レベルで分けているが、「機能障害者を対象とする援助およびサービスに関する法律(LSS法)」によって65歳まで利用できる。

サービスを受けていない80歳以上の人に市の啓発プロジェクトの人が市のサービスを知らせ、家族の負担軽減を積極的に進めている。重度心身障害者デイケアセンターも訪問した。利用者は自宅、グループホーム、集合住宅から通ってくるので利用者を「訪問者」と呼んでいる。知的障害児施設は、A(0歳~2・5歳)、B(6歳まで)、C(12歳まで)の3段階の発達レベルで分けているが、「機能障害者を対象とする援助およびサービスに関する法律(LSS法)」によって65歳まで利用できる。

その他に知的障害者は芸術作品・手工芸作品の制作や販売、喫茶店や警察署の食堂での勤務、雪かきや庭の手入れ等のサービス提供、スポーツ大会への参加等、社会と大いに繋がって社会の一員として暮らしている。

訪問した施設はA段階でアメリカの教育方法(メソッド)を取り入れてコミュニケーションを重視し、小学校就学前のレベルに上げることが目標としている。五感を刺激するこ

訪問した施設はA段階でアメリカの教育方法(メソッド)を取り入れてコミュニケーションを重視し、小学校就学前のレベルに上げることが目標としている。五感を刺激するこ

訪問した施設はA段階でアメリカの教育方法(メソッド)を取り入れてコミュニケーションを重視し、小学校就学前のレベルに上げることが目標としている。五感を刺激するこ

訪問した施設はA段階でアメリカの教育方法(メソッド)を取り入れてコミュニケーションを重視し、小学校就学前のレベルに上げることが目標としている。五感を刺激するこ

訪問した施設はA段階でアメリカの教育方法(メソッド)を取り入れてコミュニケーションを重視し、小学校就学前のレベルに上げることが目標としている。五感を刺激するこ

訪問した施設はA段階でアメリカの教育方法(メソッド)を取り入れてコミュニケーションを重視し、小学校就学前のレベルに上げることが目標としている。五感を刺激するこ

訪問した施設はA段階でアメリカの教育方法(メソッド)を取り入れてコミュニケーションを重視し、小学校就学前のレベルに上げることが目標としている。五感を刺激するこ

訪問した施設はA段階でアメリカの教育方法(メソッド)を取り入れてコミュニケーションを重視し、小学校就学前のレベルに上げることが目標としている。五感を刺激するこ

訪問した施設はA段階でアメリカの教育方法(メソッド)を取り入れてコミュニケーションを重視し、小学校就学前のレベルに上げることが目標としている。五感を刺激するこ

平成23年度 (第39回) 民間社会福祉施設職員海外研修助成金交付要綱

- 対象職員
 - 職種
 - 生活指導員②職業指導員③児童指導員④心理・職能判定員⑤理学療法士⑥作業療法士⑦看護師⑧介護職員⑨保育士⑩その他特に必要と認める者
 - 年齢 27歳以上45歳以下の者
 - 経験年数5年以上の者
 - 研修・研究する具体的なテーマを有する者
 - 英語の日常会話及び研修科目の専門用語の知識を有する者
- 人員 5人程度
- 研修時期及び期間 平成23年4月初旬から8月初旬までの承認された期間
- 研修方法
 - 合同研修

海外研修に対する適応力、語学力及び当該国の社会福祉全般に対する知識を習得するため、アメリカ又はデンマークにおいて2週間の合同研修を実施する。
 - 個別研修

合同研修終了後、研修生が希望する欧米等のいずれかの国に所在する施設において実地研修を実施する。この場合、研修実施の中核的施設等を設定するとともに、研修国は原則として3か国以内とする。なお、個別研修を実施する施設については、研修受入れの可否を研修生側において直接交渉できるものに限る。
 - 研修報告書

研修生は、帰国後2か月以内に研修報告書を本財団に提出しなければならない。
- 応募方法

応募の申請は、本人の希望に基づき、次の応募書類を添付のうえ、その者が勤務している施設の長が都道府県(政令指定都市、中核市)を経由して、本財団に対して行う。

 - 平成23年度 (第39回) 海外研修助成応募者調書 (様式1)
 - 履歴書(身上書つき市販用紙により必ず写真を貼付すること。)
- 推薦方法
 - 推薦方法

都道府県(政令指定都市・中核市)は、管下の社会福祉施設の長より申請のあった者の中から1名ないし2名を選定し、次の推薦書類を添付のうえ、本財団に推薦する。
 - 推薦書類
 - 所属施設長の意見書
 - 都道府県知事(政令指定都市市長・中核市市長)の推薦書
 - 推薦期日

平成22年8月31日
- 選考方法
 - 書類審査
 - 実地試験

書類審査の合格者に対し、別途通知して次により試験を実施する。

 - 試験科目
 - 筆記試験 (ア)英語 ・英文和訳 ・和文英訳 (イ)日本語による作文
 - 面接試験 口頭試問 (日本語及び英会話による。)
 - 試験期日

平成22年9月16日(木)及び17日(金)の2日間
- 合格発表

平成22年9月下旬、都道府県知事(政令指定都市市長・中核市市長)あて及び所属施設長あてに文書で通知する。
- 研修費の助成

海外研修に必要とする経費として、研修生の勤務する施設の長を通じ、本財団が認めた研修期間に応じて、1人当たり次の額以内を助成する。

研修期間が2か月の場合	130万円
研修期間が3か月以内の場合	160万円以内
- その他
 - 提出された申請書類は、結果のいかんにかかわらず返却しない。
 - 研修生は、研修の成果を普及するため、本財団からの要請があったときは、海外研修報告会・シンポジウム等に出席するとともに、研修結果の報告等を行わなければならない。
- 問い合わせ先

(財)中央競馬馬主社会福祉財団 企画・管理部
TEL.03-5472-5581



ふれあいケア

介護に携わるプロフェッショナルのための応援誌。毎日の介護実践に役立つ専門知識や技術についての情報を満載。高齢者ケアに関わる施設福祉や在宅福祉の最新情報や、先駆的な実践事例も紹介。

●定価1,020円(本体971円) ●毎月20日発行 ●B5判/80頁 ●送料300円(10冊以上・定期購読の場合は送料サービス)

2010年
7月号
6月21日
発行

特集 日々の業務を見直そう

施設では、利用者一人ひとりに最善の介護サービスを提供することが求められています。そのためには、日々行っている介護サービスや施設の職場環境などの現状を分析し、課題がみつければ、改善していく必要があります。そこで、本特集では、利用者と向き合う時間を確保するために業務などの見直しに取り組んだ事例を紹介するとともに、業務を見直す意義について考えます。

Part1 介護職員の業務時間

Part2 実践事例

Part3 業務を見直す意義と方法

好評連載企画

- 介護とわたし ●実践から学ぶ!介護技術 ●実践から学ぶ!認知症ケア ●かけがえないひとこと
- 地域で支える実践レポート ●ふれあい訪問介護センター物語 ●介護現場のリスクマネジメント
- 介護職員マキコさんのスローライフ日記 ●からだがよるこぶ養生ごはん ●ふるさと写真館

定期購読申込み受付中! [FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい] お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい(品切れの際はご容赦下さい)。

●お申し込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

全社協出版部受注センター

TEL:049-257-3111 FAX:049-257-1080

E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協 全国社会福祉協議会 出版部

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ

福祉の本出版目録

検索

▶▶ http://www.fukushinohon.gr.jp

北海道・東北ブロック研修会

- 1. テーマ 夢をあきらめない
- 2. 日時 8月27日(金) 13:00~18:00、
28日(土) 9:00~12:00
- 3. 会場 札幌市南区定山溪温泉 ホテルミリオーネ
- 4. 参加費 会員3,000円、一般8,000円、学生1,000円
- 5. プログラム 8月27日(金)
12:00 受付開始
13:00 開会式
13:30 基調講演 厚生労働省(予定)
15:15 記念講演
17:00 「介護福祉士としての現状と課題」
18:00 第一日目終了
8月28日(土)
9:00 記念講演
10:00 座談会
11:45 閉会式
- 7. 申し込み・問い合わせ先 北海道介護福祉士会事務局
TEL/FAX.011-707-4700

関東甲信越ブロック大会

- 1. テーマ “生きる”～あなたと出会えてよかった～
- 2. 日時 9月4日(土) 9:00~16:30
- 3. 会場 大宮ソニックシティ 小ホール
- 4. 定員 500名
- 5. 参加費 会員3,000円、一般5,000円、学生1,000円
- 6. プログラム 午前の部10:00~12:50(開会式 基調講演 シンポジウム)
午後の部(分科会) 13:40~15:10
第1分科会 私のそのままを受け止めて(認知症 在宅)
第2分科会 私のそのままを受け止めて(認知症 施設)
第3分科会 心でふれあう施設のくらし
第4分科会 いつまでも元気で生き生きと(介護予防)
第5分科会 障がいと共に地域で生きる
午後の部(全体会) 15:20~16:30
- 7. 申し込み先 名鉄観光サービス株式会社 埼玉支店(担当:高岡 昭徳)
TEL.048-641-5388 FAX.048-641-5287
- 8. 問い合わせ先 一般社団法人埼玉県介護福祉士会
TEL./FAX.048-871-2504

中国・四国ブロック研修会

- 1. テーマ 求められる介護福祉士とは
- 2. 日時 8月21日(土) 12:45~17:10
22日(日) 9:00~12:00
- 3. 会場 高知RKCホール
- 4. 定員 300名
- 5. 参加費 会員3,000円、一般10,000円、学生1,000円
- 6. プログラム 8月21日(土)
12:00~12:45 受付
12:45~13:00 開会式
13:00~14:00 基調報告「介護保険制度の課題と展望(仮題)」厚生労働省老健局(予定)
14:00~15:20 記念講演
15:30~17:30 実践研究発表
第1分科会 居宅系介護実践研究発表(20分×5事例)
第2分科会 施設系介護実践研究発表(20分×5事例)
18:30~20:30 懇親会(高知新阪急ホテル)
8月22日(日)
9:00~9:30 分科会報告(15分×2分科会)
9:30~12:00 シンポジウム「求められる介護福祉士とは(仮題)」
12:00~12:15 閉会式
- 6. 申し込み・問い合わせ先 高知県介護福祉士会事務局(担当:松浦)
TEL.088-844-9271 FAX.088-844-9443

第8回日本介護学会

- 1. 日程 平成22年10月2日(土) 10:20~16:40
- 2. 会場 いわて県民情報交流センター(アイーナ)
岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号
TEL.019-606-1717(総合案内)
- 3. プログラム 10:20 開会式
10:30 記念講演
熊坂義裕氏(盛岡大学栄養科学部)
(仮題)「医療と福祉の連携」
13:00 研究発表
調査研究(文献研究含む)
実践研究
16:00 研究発表に対する評価
16:30 閉会式
- 4. 参加対象 日本介護学会会員/一般/学生
- 5. 参加費用 会員3,000円(日本介護福祉士会会員、一般会員)
一般13,000円、学生1,000円
※学会入会希望の方は、別途申込が必要となりますので、日本介護学会事務局へお問い合わせください。
- 6. 定員 300名(定員に達しだい締切)
- 7. 申込方法 申込書に必要事項をご記入の上、下記名鉄観光サービス(株)盛岡支店へお申し込み下さい。
TEL.019-654-1058 FAX.019-654-1044
(名鉄観光盛岡支店)
※申込書につきましては、上記名鉄観光及び各都道府県介護福祉士会事務局、本会事務局へお問い合わせください。
また、本会ホームページからもダウンロードできます。
- 8. 申込締切 9月17日(金)
- 9. 問い合わせ先 日本介護学会事務局(社団法人日本介護福祉士会事務局内)
TEL.03-3507-0784 FAX.03-3507-8810

第17回 全国大会発表事例募集のご案内

第17回全国大会であなたの研究成果を発表してみませんか!

<事例発表の申込方法>

- 1. 事例発表の希望者は「事例発表申込書」に必要事項を記入し、事務局宛てにFAXまたはEメールで送付してください。(郵送の場合も同日必着)
申込締切は8月3日(火)必着です。
○申込書請求先及び申込先
(申込書は本会ホームページよりダウンロードできます)
FAX. 03-3507-8810 Eメール: webmaster@jaccw.or.jp
- 2. 発表事例は、第1~第3分科会のテーマより選択してください。
第1分科会: 「高齢者施設・認知症施設における福祉と医療の連携について」
第2分科会: 「障害者施設における福祉と医療の連携について」
第3分科会: 「在宅(高齢者・認知症・障害者)における福祉と医療の連携について」
- 3. 申込事例は本会で選考のうえ発表事例を決定し、ご本人宛て通知いたします。
- 4. 選考に際しては、会員を優先させていただきます。
- 5. 発表事例は抄録原稿を大会資料冊子に掲載し、分科会において決められた時間内で口頭発表していただきます。(発表20分、質疑応答10分程度)
- 6. 事例発表者は予め申し出てパソコン・プロジェクター等を使用することができます。

<抄録の提出>

- 1. 事例発表者には、事前に発表要旨の抄録を提出していただきます。
抄録提出締切りは10月15日(金)必着です。
- 2. 抄録は必ずパソコンで作成(文章はWord、図表データはExcel)し、Eメール等の電子媒体による提出とします。
- 3. 原稿量は図表を含め、おおよそA4用紙で4枚程度とします。
注1) 発表者の大会参加費用は全て本人負担とします。
注2) 会員の方が発表された場合の生涯研修制度単位数は、6ポイント加算されます。

支部の研修情報

京都府支部

- 〔第2回全体研修会〕
- 日程 平成22年7月31日(土) 開始時間未定
- 場所 京都社会福祉会館1階 第1会議室
- 内容 コーデュレーション 講師 けら典子氏
- 問い合わせ先 一般社団法人京都府介護福祉士会
TEL 075-8001-8060

兵庫県支部

- 〔介護福祉士実習指導者講習会〕
- 日程 1日目 8月6日(金) 10:00
2日目 8月13日(金) 10:00
3日目 8月20日(金) 10:00
4日目 8月27日(金) 9:00
5日目 8月27日(金) 15:00
- 場所 兵庫県福祉センター
- 対象者 介護福祉士として3年以上実務に従事した経験のある者であって、実習施設において実習指導者となる者及び現に実習指導者を担っている者
- 定員 90名
- 〔平成22年度 サービス提供責任者研修〕
- 日程 平成22年8月20日(金)・27日(金)
- 場所 兵庫県福祉センター 福祉研修室
- 対象者 サービス提供責任者になっている方、今後サービス提供責任者になる予定の方
- 問い合わせ先 一般社団法人兵庫県介護福祉士会
TEL 078-232-4590

岡山県支部

- 〔一般研修会〕
- 日程 9月4日(土) 10:10~16:00
- 場所 きらめきプラザゆうあいセンター
2階 大会議室
- 内容 口腔ケアのQ&A(歯科衛生士との連携)
歯科衛生士 松尾敬子氏
リハビリテーションからみた介護技術
万成病院 リハビリテーション部長
梅原伸二氏
- 問い合わせ先 社団法人岡山県介護福祉士会
TEL 086-222-3125

愛媛県支部

- 〔平成22年度介護福祉士初任者研修会〕
- 日程 平成22年8月9日(月)、10日(火)、
25日(水)、26日(木)
- 場所 愛媛県総合社会福祉会館3階「研修室」
- 対象者 介護福祉士資格取得後3年未満の者(3年以上の者の研修参加も可)
- 申込締切 平成22年7月26日(月)必着
- 参加費 会員 8,500円 非会員 12,500円
(※テキスト代2,520円を含む)
- 問い合わせ先 愛媛県介護福祉士会
TEL 089-9987-8123



社団法人 日本介護福祉士会

URL : <http://www.jaccw.or.jp/> E-mail : webmaster@jaccw.or.jp

現在申し込み受付中!!

第8回日本介護学会が岩手で開催されます!!

1. 日程：10月2日(土)
2. 会場：いわて県民情報交流センター (アイーナ)

第17回 全国大会が宮崎で開催されます!!

1. 日程：12月10日(金)～11日(土)
2. 会場：フェニックス シーガイアリゾート ワールドコンベンションセンター サミット
3. テーマ：「福祉と医療の連携
私たちは何ができて、何ができないのか」
～介護福祉士の現状を、どげんかせんといかん!!～

※詳細はホームページをご覧ください。

日本介護福祉士会役員の動き

(H22.6/1～H22.7/31・主要なもののみ掲載)

日程	会議名	出席者
6月6日	専門介護福祉士認定に関する研究会 (日本介護福祉士養成施設協会)	内田副会長
6月10日	介護職の離職後の職場復帰に関する調査検討委員会 (全国老人保健施設協会)	内田副会長
6月17日	第1回制度・政策検討委員会	石橋会長 内田副会長 三浦副会長
6月17日	評議員委員会 (社会福祉振興・試験センター)	石橋会長
6月19日	「リーダー研修会 (初任者研修講師養成研修会)」にて講師を担当	内田副会長
6月21日	第26回社会保障審議会介護保険部会 (厚生労働省)	田中名誉会長
6月25日	第2回倫理委員会	三浦副会長
6月28日	第3回今後の介護人材養成の在り方に関する検討会 (厚生労働省)	石橋会長
6月30日	正会員理事懇談会及び第2回常任理事会	石橋会長 内田副会長 三浦副会長
7月5日	第1回介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の在り方に関する検討会 (厚生労働省)	内田副会長
7月16日	評議員選定委員会(テクノエイド協会)	石橋会長
7月17日～18日	東海・北陸ブロック研修会	石橋会長
7月22日	第2回介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の在り方に関する検討会 (厚生労働省)	内田副会長
7月23日～24日	平成22年度第1回都道府県介護福祉士会会長会	石橋会長 内田副会長 木村副会長 三浦副会長
7月26日	障害種別に対応した介護の在り方に関する調査研究事業委員会	三浦副会長
	第27回社会保障審議会介護保険部会 (厚生労働省)	田中名誉会長
7月28日	第2回制度・政策検討委員会	石橋会長 三浦副会長
7月29日	第66回社会保障審議会介護給付費分科会 (厚生労働省)	田中名誉会長
	第3回介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の在り方に関する検討会 (厚生労働省)	内田副会長
	第4回今後の介護人材養成の在り方に関する検討会 (厚生労働省)	石橋会長
7月30日	第28回社会保障審議会介護保険部会 (厚生労働省)	田中名誉会長

初のグループ討議が行われ医行為や介護人材の在り方について活発な議論



冒頭で石橋真二会長は、介護報酬の3%アップ、介護福祉士資格として初の報酬上の評価があったこと、処遇改善交付金の交付など、待遇面で一定の前進が見られたとし、介護福祉士に追い風が吹いてきているのではないかと述べ、こうした成果も介護福祉士の活動の賜と位置づけた。

また、介護職による医行為の検討が進んでおり、特別養護老人ホームにおける一定の条件下で介護職がたんの吸引と経管栄養を行うことが認められ、今後、医行為の実行可能な範囲と場所の範囲の検討が始まっていることが報告された。

さらに、介護福祉士資格取得に関する実務経験3年後の600時間研修について、入学金・研修費の支援や研修中の代替職員など学びやすい環境づくりを国からの支援を得る形で検討している旨が報告され、医行為の研修についても関連させて検討を行うことが報告された。

続いて、消費者庁消費者情報課課長補佐・高橋敏明氏が「高齢消費者・障害消費者見守りネットワーク」についてと題して講演を行った。(詳細は2面)

講演の中で高橋氏は、「高齢者および障害者の消費者トラブルの防止等

を図るためには、高齢者及び障害者の周りの方々の協力が特に重要だ」と述べ、高齢消費者・障害消費者の特徴として、「消費者被害にあったときに本人が気づきにくい」「消費者被害を誰にも相談しない・できない」点を挙げ、高齢者の生活に深く関わる介護福祉士に、高齢者の身近な変化に気づき「消費者ホットライン」などの相談機関へ連絡するなどの協力を呼びかけた。

その後、日本社会事業大学専門職大学院准教授・藤井賢一郎氏が「介護職員の処遇改善交付金とキャリアパス」についてと題して講演を行った。(詳細は2面)

行った。(詳細は2面)講演の中で藤井氏は「介護職員の処遇において、今後望まれる介護職員のキャリアアップの仕組みについては、経営側、資格制度、従事者のそれぞれの観点から問題を捉え、介護サービスの質に基づいた介護福祉士としての専門性を確立していく事が重要だ」と述べ、さらに日本介護福祉士会、大学・研究機関が協力し、介護サービスの適切な評価による「根拠に基づいた介護」の確立、「根拠に基づいた介護」に応じた資格・研修体系の再構築を訴えた。

全体会では、新規就任の支部会長挨拶の後、事務局から「平成22年度事業等」について報告が行われ、「組織運営・組織強化関係」について説明が行われた。

全国大会と日本介護学会の共同開催について、平成23年度について各グループにより、医行為についての研修の充

「組織運営・組織強化関係」について、各支部の尽力と、新卒者に対する試験センターの協力などもあり、会員数・継続率・組織率は増加傾向にあることが報告された。

日本介護福祉士会の公益法人化については、本部の公益社団体化に伴い、また法人格を取得していない支部に対して早急な法人格の取得を求め、定款の修正や設立の準備などの各支部に必要な手続について、今年度内を目標に本部が支援をする旨が伝えられた。

グループ討議では、介護職員の医行為と、介護人材の在り方を論点として、北海道・東北ブロックと中国・四国ブロック、関東甲信越ブロックと近畿ブロック、東海・北陸ブロックと九州ブロックの3グループに分かれて、討議が行われた。

実、認定制度、600時間課程について就業と両立できる受講環境の構築の必要性などの検討結果が発表された。

最後に木村副会長より、平成24年度の制度改正に向けて介護福祉士の置かれている状況の変化はめまぐるしく、今後介護福祉士からのさらなる行動が求められていく中、会長会での初の試みとなるグループディスカッションなど、介護福祉士会として意見交換を活発にしていきたいことが望まれるとし、また支部の意見に迅速に対応できる機敏な事務局を目指していくことが述べられた。

平成22年度第一回都道府県介護福祉士会会長会を開催



本年度第一回目の都道府県介護福祉士会会長会が、神奈川県ウイリング横浜で開催された。

会長会講演①

「高齢消費者・障害消費者 見守りネットワーク」について

消費者庁消費者情報課 課長補佐 高橋 敏明 氏

高齢消費者・障害消費者見守りネットワークについて

消費者庁は平成21年に設立された新たな官庁で、消費者の利益の擁護及び増進などを任務とする庁です。消費生活相談の状況として

高齢者の消費者トラブルにおける特徴

高齢消費者被害の特徴として、だまされたことに気づきにくいという点と、被害にあっても誰にも相談しないという点が挙げられます。

「私はだまされたことがない」という方も、話をしていくと高額な契約をさせられている場合があります。悪質業者は優しい言葉で近寄ってきて、高齢者の話し相手になってくれます。親しくなった若い販売員を慕って契約するケースもありま

す。疑うことを前提としない高齢者の中には、まさか自分がだまされているとは思わなことも多いのです。また、被害にあったと自覚している方でも、誰にも相談しない場合が少なくありません。被害にあったことを恥ずかしく思い、迷惑をかけたくない、だまされた自分が悪いと

自らを責める方もいます。また、悪質業者の中には、巧みなセールストークで不安をおおったり、「誰にも言っはいけない」と口止めするケースもあります。加えて、高齢者の場合には認知症のリスクがあります。本人の判断力が不足していることに乗じて、特に一人暮らしや日中一人で留守番している場合、周りが気づかないうちにセールスマンが訪れ、大きな被害にあってしまう危険性があります。



会長会講演②

「介護職員の処遇改善交付金とキャリアパス」について

日本社会事業大学専門職大学院 准教授 藤井 賢一郎 氏

介護人材確保難におけるさまざまな仮説

昨今の介護人材労働力不足を引き起こしている、労働力人口不足や職場イメージの低下、キャリア・給与の将来性や賃金の低さ、人間関係・情緒面の課題などの要因について、さまざまな仮説が考えられます。景気の回復や少子高齢化、メディアのネガティブキャンペーン、雇用・経営の問題、介護報酬・自立支援給付の水準の問題、介護職員要件(資格不要)、仕事の特性、サービスの急拡大などの仮説が複合的に作用していると考えられます。

介護従事者のキャリアパスの3側面

キャリアパスとは、経験や教育・資格を得ることにより、能力・地位が高まり、それに応じた処遇がなされることです。日本においては職場内で、長期にわたって教育していくものと考えられる傾向があります。

介護分野における人材確保の状況と労働市場の動向

介護分野については基本的に人材が確保しにくい傾向にあります。経済状況が好転すると人材確保がより困難になり、悪化すると人材確保がより容易になるという傾向があります。昨今の経済情勢から人材確保が徐々に落ち着いてくるのでは

介護職員処遇改善交付金交付基準について

介護職員処遇改善交付金については2つの交付金基準が用意されています。現在の「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」において

ており、ひとつは職務内容等に応じた任用等の要件と賃金体系、そしてそれらを書面化して整備・周知することを求めています。もうひとつは上記の基準が無理な場合という条件下で、職員との意見交換と取り決めを用件にしているものの、書面での整備を定めていないため、総体としては極めて緩いものになっています。

加えて、介護分野では専門職労働であるために労働移動が起り易いこと、出産・育児などに伴う離職が見られる女性労働者の多い分野であることなどから、従来の日本社会におけるキャリアアップの仕組みがうまく働かない現状があります。

このように、今後の介護分野においては、交付金基準に限らず、サービスの質を重視した新たなキャリアアップの仕組みと報酬体系を用意する必要があります。

介護職員のキャリアアップの仕組みが検討されています。従来のキャリアアップにおいて重要な各段階における専門性の養成であり、またこの専門性をサイエンスの分野を重視して確立していくことが重要と言えます。そのためには論理性、科学的な事実、再現性のある「根拠に基づいた介護」を、日本介護福祉士会、学会、研究機関・大学が一致団結して確立を目指し、この「根拠に基づいた介護」を習得できるような資格・研修体系の再構築が課題といえます。

ソウエルクラブ(福利厚生センター)ご加入のおすすめ

加入できる職員
社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。

掛金
掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。

加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル
TEL ☎0120-292-711
FAX ☎0120-292-722
http://www.sowel.or.jp/
社会福祉法人 福利厚生センター
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-21-17虎ノ門NNビル

ソウエルクラブ

- 生活習慣病予防健診費用助成
 - 健康生活用品給付
 - スポーツクラブ
 - 電話健康医療相談
- 職員の健康管理のために**
- 結婚お祝品贈呈
 - 出産お祝品贈呈
 - 入学お祝品贈呈
 - 資格取得記念品贈呈
 - 永年勤続記念品贈呈
- 職員の慶事のお祝いに**
- 会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等)
- 地域に密着した事業**

- 会員の死亡弔慰金
 - 会員の配偶者の死亡弔慰金
 - 会員の入院・手術見舞金
 - 災害見舞金
- 職員の万が一の際に**
- 指定保養所・休暇村他 7種類の宿泊施設、全国289か所
 - 海外リフレッシュツアー
 - クラブ・サークル活動支援
 - テーマパーク
 - 国内・海外旅行
 - レンタカー
 - カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等
- 職員の余暇活用のために**

- 海外研修
 - 広報講習会
 - レク・リーダー養成講習会
 - 接遇講習会
 - パソコン講習会
 - メンタルヘルス講習会
- 職員の資質向上のために**
- 住宅ローン・特別資金ローン
 - クレジットカード
 - ソウエル団体生命保険
- 職員の生活サポートのために**
- 会員情報誌、ソウエルクラブニュース
 - ホームページ
- 各種情報提供**

魅力ある職場づくりに福利厚生センターをご活用ください

第17回全国大会

- 1. 日程 平成22年12月10日(金)～11日(土)
- 2. 会場 フェニックスシーガイアリゾート
ワールドコンベンションセンター サミット
- 3. テーマ 「福祉と医療の連携 私たちは何ができて、何ができないのか」
～介護福祉士の現状を、どげんかせんといかん!!～
- 4. プログラム概要
 - 第1日目
 - 開会式典
 - 基調講演 厚生労働省(調整中)
 - 記念講演 鎌田 實 氏(諏訪中央病院名誉院長)
「がんばらない」けど「あきらめない」
～鎌田實の幸せ介護～
 - 特別講演 藤川 幸之助 氏(詩人・児童文学作家)
「支える側が支えられるとき」
～認知症の母が教えてくれたこと～
 - 第2日目
 - 第1分科会「高齢者施設・認知症施設における福祉と医療の連携について」
 - 第2分科会「障がい者施設における福祉と医療の連携について」
 - 第3分科会「在宅(高齢者・認知症・障がい者)における福祉と医療の連携について」
 - シンポジウム「福祉と医療の連携 私たちは何ができて、何ができないのか」
 - 閉会式典
- 5. 主催 社団法人日本介護福祉士会
- 6. 運営事務局 一般社団法人宮崎県介護福祉士会
- 7. 申込先 名鉄観光サービス株式会社宮崎支店(担当:鹿島)
TEL.0985-26-1414 090-7397-2356
- 8. 問い合わせ先 社団法人日本介護福祉士会事務局
TEL.03-3507-0784 Mail webmaster@jaccw.or.jp

第8回日本介護学会

- 1. 日程 平成22年10月2日(土) 10:20～16:40
- 2. 会場 いわて県民情報交流センター(アイーナ)
岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号
TEL.019-606-1717(総合案内)
- 3. プログラム
 - 10:20 開会式
 - 10:30 記念講演
熊坂義裕氏(盛岡大学栄養科学部)
(仮題)「医療と福祉の連携」
 - 13:00 研究発表
調査研究(文献研究含む)
実践研究
 - 16:00 研究発表に対する講評
 - 16:30 閉会式
- 4. 参加対象 日本介護福祉士会会員/日本介護学会会員/一般/学生
- 5. 参加費用 会員3,000円(日本介護福祉士会会員、日本介護学会会員)
一般13,000円、学生1,000円
※学会入会希望の方は、別途申込が必要となりますので、日本介護学会事務局へお問い合わせください。
- 6. 定員 300名(定員になり次第締切)
- 7. 申込方法 申込書に必要事項をご記入の上、下記名鉄観光サービス(株)盛岡支店へお申し込み下さい。
TEL.019-654-1058 FAX.019-654-1044
(名鉄観光盛岡支店)
※申込書につきましては、上記名鉄観光及び各都道府県介護福祉士会事務局、本会事務局へお問い合わせください。
また、本会ホームページからもダウンロードできます。
- 8. 申込締切 9月17日(金)
- 9. 問い合わせ先 日本介護学会事務局(社団法人日本介護福祉士会事務局内)
TEL.03-3507-0784 FAX.03-3507-8810

平成22年度リーダー研修会 (ファーストステップ研修講師養成研修会)

- 1. 期日 【前期】平成22年10月9日(土)～11日(月)
【後期】平成22年11月20日(土)～21日(日)
- 2. 会場 大阪ビジネスパーク 松下IMPビル 5階H会議室
TEL 06-6941-0941
- 3. 対象者 以下の①及び③を満たす者、又は②及び③を満たす者とする。
①過去にファーストステップ研修を1領域でも受講した経験を持つ者、又は現在受講している者。
②過去にファーストステップ研修の講師又は助言者として1科目以上教授した経験を持つ者。
③所属支部より推薦のある者。
- 4. 定員 80名
- 5. 参加費 50,000円
- 6. 問い合わせ先 社団法人日本介護福祉士会事務局 TEL 03-3507-0784
http://www.jaccw.or.jp

実習指導者講習会の講師を養成

7月10日から11日の2日間、東京都のTOC有明コンベンションホールにおいて、介護福祉士実習指導者講習会講師養成研修が行われた。実習指導者講習会を実施している各都道府県支部からの推薦によって参加した受講者は122名であった。プログラム及び講師は次のとおり。
「介護福祉士実習指導者講習会の概要について」石橋真二(日本介護福祉士会 会長)、「介護の基本と実習指導者に対する期待」川井太加子氏(桃山学院大学社会学部 准教授)、「実習指導の方法と展開」足立昌紀氏(特別養護老人ホームなぎさ和楽苑 実習担当)、「実習指導の理論と実際」小櫃芳江氏(聖徳大学短期大学部 教授)、「スーパービジョンの意義と活用及び学生理解」西原香保里氏(愛知みずほ大学人間科学部 教授)、「介護過程の理論と指導方法」白井孝子氏(東京福祉専門学校介護福祉科 教務主任)。



<p>岡山支部研修情報</p> <p>【介護支援専門員全国模擬試験】</p> <p>日時 9月20日(月・祝) 9:45～11:45</p> <p>場所 岡山県総合福祉会館 5階</p> <p>【中堅職員研修】</p> <p>日時 10月18日(月) 10:00～15:00</p> <p>場所 岡山県総合福祉会館 4階</p> <p>問い合わせ先 社団法人岡山県介護福祉士会 TEL 086-222-3125</p>	<p>岐阜支部研修情報</p> <p>【東海北陸ブロックリーダー研修】今期待されるリーダーとは</p> <p>日時 11月6日(土) 13:30～16:40</p> <p>場所 岐阜県羽島市文化センター</p> <p>401大会議室</p> <p>講師 京都花園大学教授 山崎イチ子氏</p> <p>問い合わせ先 岐阜県介護福祉士会 TEL 090-7695-8903</p>	<p>茨城支部研修情報</p> <p>【介護予防体操くみん元気】</p> <p>日時 11月6日(土) 13:00～15:30</p> <p>場所 茨城県総合福祉会館 大研修室</p> <p>講師 茨城県立健康プラザ管理者 大田仁史氏</p> <p>問い合わせ先 茨城県介護福祉士会 TEL 029-354-4170</p>	<p>大阪支部研修情報</p> <p>【福祉用具を活用した移動介助の技術を学ぶ】</p> <p>日時 9月4日(土) 10:00～16:00</p> <p>場所 (株)ウイズ 8階展示ホール・9階研修室</p> <p>内容 移乗・移動用具を利用した実技中心の移乗・移動介助研修、参加無料</p> <p>【接遇研修】介護福祉士に求められる「マナー」</p> <p>日時 9月26日(日) 10:00～16:00</p> <p>場所 大阪府社会福祉会館</p> <p>内容 接遇マナー講師 黒岩昭子氏 参加無料</p> <p>【自助具の理解とアイデアを学ぶ・排泄の基本と理解と紙おむつの効果的な活用法】</p> <p>日時 10月2日(土) 10:00～16:30</p> <p>場所 大阪府社会福祉会館</p> <p>内容 「自助具の理解とアイデア」講師 細本愛子氏、参加無料</p> <p>問い合わせ先 社団法人大阪介護福祉士会 TEL 06-6766-3633</p>
--	---	---	--

日本介護福祉士会ニュースが変わります！ 次号Vol.100(10月15日号)より、装い新たにA4版として発行します。

ふれあいケア

介護に携わるプロフェッショナルのための応援誌。毎日の介護実践に役立つ専門知識や技術についての情報を満載。高齢者ケアに関わる施設福祉や在宅福祉の最新情報や、先駆的な実践事例も紹介。

●定価1,020円(本体971円) ●毎月20日発行 ●B5判/80頁 ●送料300円(10冊以上・定期購読の場合は送料サービス)

2010年 9月号 8月20日 発行

特集 介護現場と法律

介護にかかわる「法律」にはどのようなものがあり、また「法律」は介護にどのようにかかわっているのでしょうか。本特集では、個人情報保護法や成年後見制度など、介護職員が、普段意識する機会の少ない「法律」について、日々のケアに照らし合わせながら取り上げます。施設全体でのリスクマネジメントの意識づけの大切さを考えるとともに、今知っておきたい法律知識などについてもわかりやすく解説します。

Part1 利用者の尊厳と法律
Part2 介護サービスと法律
Part3 医療と介護

好評連載企画

- 介護とわたし
- 実践から学ぶ!介護技術
- 実践から学ぶ!認知症ケア
- かけがえのないひとこと
- 地域で支える実践レポート
- ふれあい訪問介護センター物語
- 介護現場のリスクマネジメント
- 介護職員マキコさんのスローライフ日記
- からだがよるこぶ養生ごはん
- ふるさと写真館

定期購読申込み受付中! [FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい] お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい(品切れの際はご容赦下さい)。

●お申し込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

全社協出版部受注センター
TEL: 049-257-3111 FAX: 049-257-1080
E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協 社会福祉士会 **全国社会福祉協議会** 出版部
〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ **福祉の本出版目録**

▶▶ <http://www.fukushinohon.gr.jp>

ニュース



The Japan Association of Certified Care Workers

Vol.100
10月15日号
 平成22年(2010年)

社団法人 日本介護福祉士会

URL : <http://www.jaccw.or.jp/>E-mail : webmaster@jaccw.or.jp

日本介護福祉士会ニュース100号を記念して



平成6年2月に介護福祉士の職能団体として日本介護福祉士会が創設され、今年で17年が経過し、年6回発行している本会の広報誌である「日本介護福祉士会ニュース」も100号を迎えることが出来ました。そこで、会員の皆様のニーズに応えるような紙面の構成、体裁の見直し等を行い、今回の100号を記念号として発行させていただくことになりました。

この間、介護保険法や障害者自立支援法などが施行される等、日本の介護・福祉を取り巻く状況は大きく変わりました。平成19年には「社会福祉士及び介護福祉士法等の一部を改正する法律」が施行され、介護福祉士の定義規定、義務規定の見直し及び資格取得方法の一元化、それに伴う介護福祉士教育内容の見直しなどによって、介護福祉士は質の高い介護が求められるようになり、介護を提供する介護福祉士の役割、介護福祉士制度も大きく変わりつつあります。

このような状況の変化に応じて、私たち日本介護福祉士会は、制度の変わり目で、介護現場の立場から積極的に、よりよい制度に資するための情報発信や提言などを行ってまいりました。

今日では、国の審議会や様々な委員会の委員として本会の代表を出すことが出来るようになり、職能団体としての地位が確立し、より情報発信力を増すことが出来るようになりました。

最近では、介護現場における待遇面の処遇の低さなどから介護現場での人材不足が課題となりましたが、本会としても人材確保対策のために、国や行政に対して積極的に働きかけたところ、介護職員処遇改善交付金の支給を始めとする様々な人材確保対策が図られてくるようになり、介護の分野は追い風が吹くようになってきたところでもあります。

このように本会の役割はますます重要になり、責任ある団体として成長してきましたが、現在では、介護福祉士の受験資格取得時の実務経験コースにおける600時間の課題、「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の在り方に関する検討会」において介護職が行なえる医行為についての課題、次期介護報酬改定への対応、キャリアアップの仕組みに応じた生涯研修体系の構築、発言力を増すために組織力の強化など、私たちに求められている課題は山積している状況でもあります。

今後も様々な課題が立ちはだかると思いますが、私たちの使命として、介護福祉士を魅力ある職業として確立するため、介護福祉士制度の発展や「利用者本位の介護の提供」など日本介護福祉士会の職業倫理に照らし合わせながら、これらの課題を解決していくことが必要であると思います。

介護の仕事に誇りと生きがい、働きがいを持ち、長期にわたって就業し十分にその能力を発揮できるよう適切な賃金、労働時間、福利厚生、やりがいを持てるような評価とキャリアアップの仕組みなどを保証し、介護を魅力ある職業として確立することを目指し、さらなる介護福祉士制度の発展と会員の皆様の今後のご活躍とご多幸を祈念し挨拶とさせていただきます。

「日本介護福祉士会ニュース」100号記念座談会 設立より十七年間を振り返って 職能団体のあり方、今後の展望

2010年9月6日 (月)、東京日比谷にて、日本介護福祉士会ニュース100号を記念して座談会が行われました。座談会では、石橋真二会長、栃本一三郎氏 (上智大学大学院総合人間科学部学部長)、田中雅子名誉会長に、日本介護福祉士会設立からの17年間を振り返り、職能団体のあり方、今後の展望などを語っていただきました。



石橋 真二
(日本介護福祉士会 会長)

石橋 本日は、設立17年、本誌100号を記念いたしました。当会の設立にも多大なご尽力をいただいたお二人に、これまでを振り返りつつ、今後の展望などについてお話いただきたいと思えます。

田中 一番記憶に残っているのは、平成5年9月に行われた第2回設立準備幹事会です。当時厚生省社会福祉専門官だった栃本先生のお声かけで、石橋会長と私を含む計7名*が集まり、会の存在意義や目的などについて、さまざまな議論を交わしました。確か、すごい台風の日で…。

栃本 ちょうどその前年に「保健医療・福祉マンパワー対策本部中間報告」が出されました。

当時は、「介護の科学化」などと叫んでも、介護に学術研究はそもそもあり得ないと言われてたり、「介護福祉士の職能団体の必要性」を説いても、介護福祉士自体の社会的認知度がまだ低く、その職能団体といっても、どうせ労働組合的なものだろうなどと敬遠されたりしたものでした。社会福祉や看護の有識者ですら、介護福祉士を“介護技術士”のようにしか捉えていなかった頃です。でも、そんなお世辞にもよい状況とはいえない中で、来たる将来を見据えて、あの時点から動き出したことは、今考えてみても間違っていないと思いますね。

介護保険制度がスタートする前に、一定の質で介護というサービスを提供する介護福祉士の定着と、



*設立準備幹事会のメンバー：石井 綾子 (滋賀)、石橋 真二 (香川)、因 利恵 (福岡)、荻田 栄治 (岩手)、小島 つる江 (長野)、田中 雅子 (富山)、渡辺 武子 (山口)

そのような専門職の人たちが社会に向けて意見を発することのできる職能団体が成立していることは、介護保険制度が順調に進んでいくための必須条件だと思っていました。

田中 私も、あのタイミングであの準備会があったからこそ今があるという、非常に有意義で重要な会合だったと思っています。たとえば会則の原案にしても、職能団体の存在意義についても、あのときの議論がすべて今につながっていますから。

石橋 あの頃は、介護福祉士の資格を取ったはいいいけれど、これからどうなっていくのだろうという不安の声が多く、各地で介護福祉士が自ら率先して勉強会などを開催していました。私のいる香川県でもそうでした。

栃本 その動きには私も本当に感心しました。当時は皆、それこそ手弁当で、自発的な取り組みを行っていましたよね。そういう時代を経て、今の地位を獲得したというのは、職能団体としての評価が定まってきた証拠だと思います。



栃本 一三郎氏
(上智大学 大学院
総合人間科学部 学部長)

しかし、一方では、資格制度開始から22年が経ち、資格取得者も年々増

えていく中で、介護福祉士の質が劣化しているのではないか、という声もあります。資格取得の経緯が養成課程か国家試験かで、その質に隔たりがある、というのです。

このようなことに対して、介護福祉士の職能団体としては、危機意識を抱き、養成課程や国家試験の教育内容を厳しく自己点検したり、一定の条件の研修を課したりと、責任をもって厳しく対応をしていくべきだと思います。

そのためにも、重要なのは団体としての独立性ですね。役所の紐つきなどではなく、社会的に独立した立場で、責任をもった発言ができることが重要です。当時、全国社会福祉協議会や長寿社会開発センターなどの中に机を一つ置けばよいだろうといった声もあった中、最初から、「たとえ資金的にきつくとも、独立した事務所を構えるべきだ」とこだわったのは、そういう考えがあったからです。

また、そもそも日本介護福祉士会の強みというのは、大学教授や施設経営者の声と違い、実際に現場で働いている者の意見であるということ。仕事をしな



田中 雅子
(日本介護福祉士会 名誉
会長)

ソウェルクラブ(福利厚生センター) ご加入のおすすめ

■職員の健康管理のために

- 生活習慣病予防健診費用助成
- 健康生活用品給付
- スポーツクラブ
- 電話健康相談

■職員の慶事のお祝いに

- 結婚お祝品贈呈
- 出産お祝品贈呈
- 入学お祝品贈呈
- 資格取得記念品贈呈
- 永年勤続記念品贈呈

■地域に密着した事業

- 会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等)

■職員の万一の際に

- 会員の死亡弔慰金
- 会員の配偶者の死亡弔慰金
- 会員の入院・手術見舞金
- 災害見舞金

■職員の余暇活用のために

- 指定保養所・休暇村他 全国115カ所
- 会員制リゾート施設・ラフォーレ倶楽部他 全国239カ所
- 海外リフレッシュツアー
- クラブ・サークル活動助成
- テーマパーク
- 国内・海外旅行
- レンタカー
- カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等

■職員の資質向上のために

- 海外研修
- 広報講習会
- レク・リーダー養成講習会
- 接遇講習会
- パソコン講習会
- メンタルヘルス講習会

■職員の生活サポートのために

- 住宅ローン・特別資金ローン
- ソウェル団体生命保険 損害保険

■各種情報提供

- 会員情報誌
- ホームページ

■加入できる職員

社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。

■掛金

掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。

加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル



TEL ☎0120-292-711
FAX ☎0120-292-722
http://www.sowel.or.jp/

社会福祉法人 福利厚生センター
〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-21-17虎ノ門NNビル

福祉が働く人の福利厚生を支援しています。

がらこういった活動をする事は、言うのは簡単ですが、本当に大変なことだと思います。しかし、その姿勢はこれからも忘れないでほしいと思います。

石橋 職能団体として認められ、国の審議会や委員会にも出席できるようになったことは、素晴らしいことだと思います。しかし、もっと内側にも目を向けて、会員だけでなく全国の介護福祉士資格取得者全体に対しても、情報を発信し、必要なら意見を述べるという姿勢が大事なのかもしれません。

田中 介護福祉士会では、介護保険制度導入前の平成7年に、「ケアマネジメント研究会」を立ち上げ、「新介護システムにおける高齢者ケアマネジメントのあり方について」や、「介護福祉士の専門性を活かしたケアマネジメントのあり方について」といったテーマでの独自の研究発表を、新聞紙上でしています。あれを受けて「生活7領域」という考え方が生まれ、『自立支援ケアアセスメント・ケアプラン作成マニュアル』発刊へ、という流れになったのだと思います。

栃本 あの本は、介護の質を問うという意味でも、極めて重要な研究成果だと思います。こういう現場の視点からの学術的考察は、ぜひ、引き続き継続して取り組み、発展していくことを望みますね。特に、この先、専門介護福祉士などの検討や、介護福祉士による医療行為が認められるといった流れの中では、介護福祉士自身が独立した立場で自分たちの考え方を内側にも外側にも発信していかなければなりません。

そのためにも、これからの職能団体は、“良質な”人が集う場所とならなければいけないと思うんです。良質なメッセージを発することで良質な人が集い、さらに会としても良質な人材育成を心がける。そういう良循環とならなければ…。

田中 良質な人材育成という点に関しては、介護福祉士自身が自らの仕事を誇りに思えるようになってほしいと思っているのですが、新しい人たちには、なかなか難しいのが現状です。

栃本 それは結局、彼らの前を歩く先輩たちが、この仕事のよい点を伝えきれていない、もしくは自分たちもこの仕事を誇りに思っていないということに起因しているのではないのでしょうか。報酬の引き上げだけでは、仕事に対する本質的なモチベーションは上がりません。先輩たちが今に至るまでに学び思索した、介護の領域の豊かな可能性を、新入者にきちんと伝えていくことが重要だと思います。

また、今後の介護労働人材については、中高年者の増加が見込まれます。中高年者による介護では、彼らのもつ総体的な人生経験が介護に生きてくる。そういう豊かな人がこれから介護を支えることになるわけだから、介護の専門性についても、看護や他業界を模倣するのではなく、独自の方法論を築きあげていく必要があると思いますね。

石橋 いろいろと課題が見えてきました。本日はどうもありがとうございました。

ふれあいケア

2010年
11月号
10月20日発行

●定価1,020円 (本体971円) ●毎月20日発行 ●B5判・80頁
●送料300円 (10冊以上・定期購読の場合は送料サービス)

介護に携わるプロフェッショナルのための応援誌。毎日の介護実践に役立つ専門知識や技術についての情報を満載。高齢者ケアに関わる施設福祉や在宅福祉の最新情報や、先駆的な実践事例も紹介。

特集 キャリアパスとは

施設は、介護職員一人ひとりが、将来展望をもって働き続けることができるように、能力、資格、経験等にに応じたしくみ(キャリアパス)を長期的な視点で取り組む必要があります。そのことによって、職員が誇りややる気をもって働くことにつながり、職員の確保・定着を図ることができます。そこで、本特集では、施設で求められるキャリアパスについて考えます。

Part1 キャリアパスの基礎知識 Part2 キャリアパスの実態調査 Part3 座談会

好評
連載企画

- 介護とわたし ●実践から学ぶ! 介護技術 ●実践から学ぶ! 認知症ケア ●かけがえのないひとこと
- 地域で支える実践レポート ●ふれあい訪問介護センター物語 ●介護現場のリスクマネジメント
- 介護職員マキコさんのスローライフ日記 ●からだがよるこぶ養生ごはん ●ふるさと写真館

定期購読申込み受付中!

[FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい]
お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。
バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい (品切れの際はご容赦下さい)。

●お申し込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

■ 全社協出版部受注センター ■
受注専用 TEL: 049-257-3111 FAX: 049-257-1080
E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協

社会福祉法 全国社会福祉協議会 出版部
〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新農が関ビル

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ

福祉の本出版目録

検索

▶▶ <http://www.fukushinohon.gr.jp>

きてみらんね~♪ 美味しいもの、不思議満載の 宮崎県

太陽と緑の国・神話のふるさと食の宝庫“みやざき”を満喫してください!!



宮崎観光の定番スポット「宮崎県庁」

東国原知事の人気で、連日、多くの観光客が訪れる宮崎県庁には見所が満載なのです。知事に会える確率は…1~2割だとか？

その1. クラシック建築…全国で4番目に古い近代建築の庁舎です。

その2. 太古の化石…階段に使われている大理石は五ヶ瀬町産(宮崎)の4億2000年前のもので、石の中には化石も…!

♪君は~今日から~妻と言う名の僕の恋~人♪ ♪フェニックスの木陰で~♪ 「フェニックスハネムーン」1フレーズ

宮崎市から青く光り輝く日向灘を左手に見ながら、国道を鶴戸神宮へと進む道は、全国から多くの新婚さんがハネムーンで訪れた思い出の海岸線です。

是非、体験してください。ここはハワイ、それともグアム?…いえいえパスポートなんていりません! 宮崎県です!!



いつのまにイースター島へ来たのでしょうか…?

ここも、宮崎県なのです!! サンメッセ日南で、たくさんのモアイ像がお出迎えてくれます。しかも、完全複製版ですからイースター島と同じなのです!!

さらに、噂によると…右から3番目のモアイ像はなでると結婚運がアップし、カップルで訪れると結婚できるらしいかも。

●●●第17回全国大会のお楽しみの一部をご紹介します●●●



温泉「松泉宮」



松林の中に溶け込んだ露天風呂です。心と体を癒して、少しだけ贅沢なひと時を自分へプレゼント。



懇親会のメニューは?

宮崎発祥のレタス巻きや、テレビでブレイクした肉巻きや、地鶏の炭火焼はもちろん! 宮崎の美味しい焼酎もご賞味ください。さらに、ホテルならではの豪華料理と、女性の方のお楽しみデザートも盛りだくさん!!

ダンロップフェニックスカントリークラブ



ダンロップフェニックストーナメント会場です。歴史あるコースにチャレンジして下さい。

大抽選会

宮崎をどど~んとプレゼント 盛りだくさんのプレゼントもご用意
宮崎でお会いするのを会員一同、心より楽しみにお待ちしております。

第17回全国大会 懇親会 大抽選会参加券(当日ご持参ください)

(ふりがな) お名前
都道府県

皆さまのご協力をもちまして、ニュース

介護福祉士の生涯研修を支える貴誌に期待



社会福祉法人 全国社会福祉協議会 会長 斎藤 十郎

平成6年の貴会設立以降、介護福祉士の地位と資質向上への取り組みについて、その足跡と成果が脈々と刻まれた「ニュース」が通算100号を迎えられましたことにお祝い申し上げます。

日本が世界でも類を見ない長寿社会に向かって歩み出したなか、国民すべてが健康で生きがいを持って暮らすことができる福祉社会を支える人材養成への期待から、昭和62年5月に高齢者への尊厳をもとに専門性の高い介護を行う介護福祉士が誕生しました。これを受け貴会では、設立以来、その職業倫理や専門性の確立、社会的地位の向上にご尽力され、さらには一人ひとりの介護福祉士が自己研鑽とキャリアアップを図るための生涯研修体系の確立にも取り組まれてこられました。

一般の関係法改正では、認知症など身体介護にとどまらない心理的、社会的支援の側面も重要視され定義規定が見直されたところであり、介護を支える中核的な存在としての介護福祉士への社会の期待がますます高まるなか、貴誌による広報と研鑽機能は今後なお一層大切なものとなっていくことと期待しております。

介護保険制度の充実にはその基礎となる介護サービス供給体制整備のための人材確保が特に重要な課題です。介護福祉士への一層の待遇改善がなされ、介護の仕事がさらに魅力ある職業となるよう、貴会のなお一層のご活躍とご発展を祈念いたしております。

新たな介護福祉士像の発信に期待！



公益社団法人 全国老人福祉施設協議会 会長 中田 清

日本介護福祉士会ニュースが100号を迎えられたことに、まずもってお祝い申し上げます。日本介護福祉士会が1994年に創設されて16年、その歩みとともに現場発信を重ねてきた本ニュースの役割は、ますます大きなものがあると思います。

さて介護福祉士制度も、まもなく四半世紀となります。介護保険制度発足を契機に、飛躍的に増大した我が国の介護サービスは、さらに多様化と量的拡大を進め、医療との連携をはじめ生活支援サービスを含む包括的なケア体制の確立が求められています。とりわけ介護福祉士が担う介護現場では、重度要介護者や認知症の方が急激に増えており、それへの専門的対応が課題となっています。

特養ホームにおける喀痰吸引・経管栄養などについて「違法性の阻却」により介護職に一部の行為が認められることとなりました。それを契機に、特養・老健施設やグループホーム、訪問介護等における医行為の拡大が一定の研修を終えた介護職に認める動きが具体化してきました。

このような介護業務の専門性・高度化などを考えた時、国家資格である介護福祉士の再構築は喫緊の課題ではないでしょうか。これからの時代に対応した介護福祉士の在り方、社会的評価をぜひとも日本介護福祉士会から発信していただきたいと思っております。

発刊100号を迎えることができました

連携協力を深め国民の期待に応えたい



社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 会長 小林 光俊

国民は常に、質が高く心のこもった「根拠に基づいた専門的介護サービス」を求めている。貴会は、今日まで様々な努力をされ国民の大きな期待に応え、発展されていることに心より敬意を表します。

この度、会員間のコミュニケーションと外部への情報提供を目的とされた機関誌「日本介護福祉士会ニュース」が100号の大きな節目を迎えられたこと、お慶び申し上げます。

介護の現場は、高齢化・重度化がますます進んでいます。さらに「たんの吸引や経管栄養等」の医療行為が介護職に認められる流れにあります。私達「介養協」も貴会と連携協力を深め国民の期待に応えていかなければなりません。貴会に今後の協力をお願いすると共に、ますますのご発展を心より祈念申し上げます。

社団法人日本介護福祉士会ニュース100号を記念して



社団法人 全国老人保健施設協会 会長 川合 秀治

社団法人日本介護福祉士会ニュースが、ここに100号を迎えられることを心よりお慶び申し上げます。

「継続は力なり」と言いますが、今までの99号までの記事の収集、編集、誌面の構成等、色々な試みがあり、この度の100号になったのだと思います。ある日突然のように、この100号が出来上がったわけではありません。そして、もちろん現場で頑張っている全国の介護福祉士の皆さんの活躍があって、この100号が大きな意味を持つのです。

少子高齢化は、これからも10年、20年と続いていきます。今までより、これからが介護福祉士の皆さんの出番なのです。65歳以上人口は今後も増加が予想され、2014年には4人に1人が65歳以上となると見込まれています。施設サービスにしろ、居宅サービスにしろ、介護の需要は増え続け、介護福祉士の皆さんがいなければ介護保険の制度は成り立ちません。

確かに、たんの吸引等医療行為の問題、外国人介護福祉士の問題、キャリアアップの問題等、乗り越えていかなければならない課題も多々ありますが、社団法人日本介護福祉士会が中心となり、介護福祉士の皆さんが一丸となって、これからの時代を切り開かれることを大いに期待申し上げます。

終わりに、社団法人日本介護福祉士会のますますのご発展と介護福祉士の皆様方のご活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

「介護報酬改定に伴う介護従事者の 処遇改善に関する調査」

調査結果概要

9月24日に行われた社会保障審議会介護保険部会において、委員である田中雅子名誉会長が、当会の実施した「介護報酬改定に伴う介護従事者の処遇改善に関する調査」の結果概要を資料として提示し、その結果に厚労省調査との隔たりが見られたことについて、『介護報酬の3%改定について、厚労省調査では、月給の者の平均給与は「9,460円」、率にして約3.4%の上昇と示されているが、当会が同時期に行った調査においては、「2,674円」、率にして約1.5%の上昇にとどまっており、厚労省調査は給与改善の実態を表していないと言わざるを得ない。平均給与についても、厚労省調査が29万円弱であるのに対し、当会調査では18万円余りとなっており、これについても実態を表していない。また、職場環境の変化についても、当会調査において約8割の方が「給与以外の処遇改善に変化はない」と回答している。これらのことから、介護福祉士の介護報酬改定後の処遇改善状況を見ると、平成21年4月以降若干の処遇改善傾向は見られるものの、当初目標である3%にはほど遠いと言わざるを得ない。』と指摘しました。

なお、調査結果の概要は以下のとおりです。

●調査の目的

介護従事者の離職率が高く人材確保が困難であるといった状況の中、社団法人日本介護福祉士会においても署名活動、全国集会等を通じて、関係機関等へ処遇改善の要求をしてきました。その結果、平成20年10月に「介護従事者の処遇改善のための緊急特別対策」として平成21年度介護報酬改定率が3%に決定されました。

これを受けて、日本介護福祉士会では介護報酬改定が介護従事者の処遇改善に確実に反映されたかを検証し、今後の介護福祉士の処遇改善等につながるように、会員の皆様のご協力をいたदैて「介護報酬改定に伴う介護従事者の処遇改善に関する調査」を行いました。

1. 介護報酬改定後の処遇改善状況

①介護報酬改定後の給与等に関する処遇の変化と給与引き上げの説明状況

全体の半数以上 (53.8%) が「これまでと変わらない」と回答している。

介護報酬改定後どのような処遇改善があったかをみると、「手当が増えた」が16.5%、「一時金が支給された」が12.6%、「基本給に反映された」が9.4%、と38.5%が何らかの改善があったと答えている。

しかし、厚労省調査 (回答者は施設) では、何らかの引き上げを実施した施設が68.9%と7割近くを占めており、双方の調査結果には大きな開きがある。

全体の4割以上が説明を受けていないと回答している。

介護報酬改定を踏まえての給与等引き上げの説明を受けたかをみると、説明が「あった」がわずか39.5%、「なかった」が42.0%となっている。

②「介護福祉士」に関しての処遇について

職場において、介護福祉士に関して給与手当の加算や人事面での評価等が「なされている」割合は54.6%。さらに、「なされている」と答えた人の処遇が「今回新たに設定された」割合は12.5%であった。(「以前から制度があった」割合は71.3%)

③職場環境の処遇について

8割は「給与以外の処遇改善に変化がない」と回答している。

介護報酬改定後の職場の変化についても、「これまでと変わらない」と答えた割合が6割から8割以上を占めている状況であり、厚労省調査においても「今回変更なし」「今後も予定なし」を加えると6割から8割以上となっている。職場における処遇改善においても際立った変化が見られたとは言いがたい状況といえる。

2. 給与の変化について

「厚労省調査と当会調査とは給与改善の実態に乖離がある。」

—当会調査では、報酬改定目標3%アップのほぼ半分である—

基本給の給与額（月給）について、平成20年10月支給分と平成21年10月支給分で比較すると、全体では平成21年10月支給分は182,178円となっており、平成20年10月支給分の平均179,504円と比較すると差額は2,674円、率にして約1.5%しか上昇していない。「介護職員」に限定して平成20年10月と平成21年10月とで月給を比較してみると、平均の差額は2,576円、率にして約1.6%しか上昇していない。

厚労省調査では、手当と一時金（月額換算）を合計した額で平成20年10月の給与と21年10月の給与を比較しているが、介護従事者の平均給与額（月給）は、平成20年10月で277,840円、21年10月では287,300円となっており、その差は9,460円、率では約3.4%の上昇となっている。また、「介護職員（訪問介護員を含む）」では平均の差額は+10,210円、率では約4.1%の上昇となっている。

	全体 (有効 回答 者数)	平成21年10月				平成20年10月		H21年 との 差額B (単位:円)	H21年 との差 (B/A)
		平均年齢 (単位:歳)	平均 在籍年数 (単位:年)	平均 実労働 時間 (単位:時間)	平均 基本給 【月給】 (単位:円)	平均 基本給 【月給】A (単位:円)			
日本 介護 福祉 士会 調査	全体(月給の者)	926	43.4	8.4	169.0	182,178	179,504	2,674	1.49%
	介護職員(サービス提供責任者を除く)	578	40.8	7.6	166.9	168,069	165,493	2,576	1.56%
	生活相談員	58	43.6	11.7	174.1	219,703	217,435	2,268	1.04%
	介護支援専門員	116	48.8	9.4	168.9	205,100	203,489	1,611	0.79%
	サービス提供責任者	71	49.5	8.9	173.2	180,831	176,717	4,114	2.33%
	管理職	75	48.7	10.2	177.7	226,669	221,889	4,780	2.15%
	その他	28	46.2	10.1	168.7	184,978	184,327	651	0.35%
厚 労 省 調 査	全体(月給の者)	38022	41.6	6.5	156.4	287,300	277,840	9,460	3.40%
	介護職員(訪問介護員を含む)	21055	39.9	5.8	156.5	257,880	247,670	10,210	4.12%

上記のように、介護福祉士における介護報酬改定後の処遇改善の状況(本調査結果)をみると、平成21年4月以降において若干の処遇改善傾向はみられるものの、当初目標に掲げていた「3%」には及んではいない。

日本介護福祉士会の調査は会員のみを対象としているため、回答者が介護福祉士資格取得者に限られているのに対して、厚労省調査は介護従事者全般を対象としているため、一概に比較することはできないが、厚労省の調査結果と当会が行った調査結果とは合致しておらず、今回の介護報酬改定が確実に介護従事者の処遇改善に反映されたとはいえないという結果になった。

連載

3

介護の現場で輝いています！

利用者様の笑顔が元気の源

特別養護老人ホーム 菱風園 大木 彩子

現在、群馬松嶺福祉短期大学を卒業し、特別養護老人ホームに勤務して2年目になります。まだまだ知らないことも多く、業務に追われて、戸惑いながら毎日が早く過ぎてしまいます。しかしそれと同時に感じる事や得ることも多く、勉強の日々を過ごしています。

私は利用者様の笑顔を見ることでやりがいを感じます。普段笑顔が見られない方が、声かけの工夫で表情に変化が見られたり、「ありがとう」という言葉を頂くことで、どれだけ疲れていても“がんばろう”と言う気持ちになれます。

しかし排泄介助や食事の時間に利用者様とゆっくり会話する事は難しく、日常で長い時間一人の方と向き

合う事がなかなか出来ていません。業務の中での時間の使い方が上手く出来ていないのだと反省する事もあります。

そんな中でも、ある日の入浴の時間に利用者様の昔の話聞く事が出来ました。昔していた仕事のこと、旦那様との馴れ初め、趣味の話等をしてくださったことが嬉しくて、私もとても笑顔になっていた事に気付かずしていました。すると、その方に「そんなに嬉しそうに聞いてもらえると、話して良かったと思うわ。つまらない話なのに。ありがとう。」と言って頂いた事がありました。とても印象に残っています。

介護は身体介護の技術もとても大切ですが、心のケアも大切だと思います。どちらかが出来ていれば良い訳でなく、両方出来て初めて良い介護に繋がるのだと教わりました。ずっと念頭に置いています。私は技術の向上は勿論ですが、利用者様の日々の変化を見逃さずに、一方的ではなく、その方が必要としているケアを進んで出来る介護福祉士になりたいです。いつも皆さんの笑顔に元気を頂いている分、私もその倍くらい皆さんの元気の源になりたいと思い、日々奮闘しています。

介護の楽しさ、奥深さ、魅力などを私に教えて下さった方々に感謝し、これからもっと勉強を重ねていきます。そして私もそれを一人でも多くの人に伝えられるよう、成長していきたいです。



人の命を預かる責任をもって

やすらぎ園デイサービスセンター 南雲 三恵子

私には知的障害をもつ妹がいます。幼いころから妹と過ごしてきた私は中学生の頃位に福祉に興味をもち始め、県内で唯一の福祉科のある高校へ進学し、ホームヘルパー2級、介護福祉士の資格を取得しました。その後は保育の専門学校へ進み保育士の資格も取得しました。専門学校を卒業後、県内のデイサービスに就職して今年で6年目になります。

就職した頃を思い返すと、介護福祉士の資格は持っていたが取得後の2年間、介護の事から遠ざかっていたのでやっていけるのかとても不安でした。

就職が決まり施設に挨拶に行った時、当時の施設長から「せっかくだから利用者さんに会って行って下さい。きっと皆さん喜ぶですよ」と言われ、デイサービスに行きました。そこはとても雰囲気良く皆さんの笑顔がキラキラと輝き楽しく過ごされている場所でした。すると突然、職員の方がマイクを取り、私のことを利用者さんに紹介し始めました。「自己紹介をどうぞ」とマイクを向けられ緊張しながら私は自己紹介をしました。すると利用者さんから「何処から来たんだい?…歳はいくつだい?…若い子がきて嬉しいよ…など」、たくさんの言葉をかけられとても嬉しかった事を今でも覚えています。この時に私はこのデイサービスに就職できて良かった!と感じ、利用者さんと笑って過ごして行きたいと思いました。

しかし、就職して2年目のある日、私は一緒に近くの場所まで散歩をしていた利用者さんに怪我をさせてしまいました。どうしたらいいのかわからないのと怪我をさせてしまった罪悪感とショックで本当にこの日は胸が苦しく、辛い思いをしたのをはっきり覚えています。当時の主任からは厳しい言葉をもらい深く反省しました。人の命を預かるこの仕事は半端な気持ちではやってはいけないという事を、教えられました。この日から私は自分の行動には責任をもってしっかりしないとけないという事を改めて感じる事が出来ました。

デイサービスでは一日があっというまに終わり、一週間が過ぎ、一年が過ぎ…気づけば介護の世界で仕事をして6年目になります。毎日楽しく仕事ができるのも利用者さんの笑顔と周りで支えてくれる職員のお陰です。そんな環境に私は毎日、感謝しています。

最後にデイサービスの行事で保育園の子供たちと交流の場があります。子供の力は不思議なことに誰でも笑顔に変えてしまいます。子供たちと一緒に手遊びをしたり歌を唄ったりと楽しい時間を過ごします。ほんの少しの時間ですが利用者さんたちはとても素敵な笑顔を見せてくれます。私はその時間が一番好きな時間です。

私には夢があります。子供からお年寄りまで誰もが一緒に生活できる場所を作る事です。しかし私にはその夢を叶える知識も経験もまだ未熟です。しかしいつか実現できる事を願いながら少しずつ夢に近づいていけるよう、今しか出来ないことを探しつつこれからの日々を過ごしていきたいと思います。



北海道・東北ブロック研修会報告

北海道介護福祉士会 石井 賢紀

平成22年8月27日・28日、北海道札幌市定山溪温泉にて、第17回北海道・東北ブロック研修会が開催されました。

今回の研修会に参加し思った事は、テーマとして掲げられた「夢をあきらめない」は、まさに介護職を取り巻く厳しい現状にも決して諦めずに前へ進むための問題提起として重要なキーワードであるということです。

福祉・介護の仕事に夢や希望、志をもって就いたはずなのに、様々な要因により、いつしか夢や希望はかすれ、志も折れて、自やがて離職してしまう…そんな現実がある中、今、制度や、職場などの環境、世の中の認識など、福祉・介護は変わりつつあります。その原動力となっているのは、大きな志を持った人たちがいるから、夢をあきらめない人たちがいるからだと思いました。今回それぞれの立場でお話頂いた講師の方々は、たくさんのつらい経験をされながらも、夢をあきらめずその苦難を乗り越えて制度、環境、意識

の改革に携わっておられる方々ばかりでした。そうした方々のお話を拝聴させて頂いた中、その意識が参加者に伝わり、最後の分科会では大きな夢、志が感じられる意見が多々発表されていたと感じております。

そしてもうひとつ、そうした志を支えるものとして重要な事は「感謝」であると感じました。講演の内容の端々に感謝の言葉があったように感じました。そんな感謝の気持ちが、ゆるがない力として志を支えてくれる、講演を通じそう感じました。こうした素晴らしい時間を県という枠を超えた中で、素晴らしい仲間と共有し合えた事に改めて感動と感謝を覚える有意義な研修会でした。

参加頂きました東北6県の皆様、又、準備に奔走された北海道の皆様、本当にありがとうございました。



関東甲信越ブロック研修会報告

埼玉県介護福祉士会 平木 久子

平成22年9月4日 第17回日本介護福祉士会関東甲信越ブロック研修会が開催され、450名の参加により盛會にて学びを深め、「あなたと出会えてよかった」と思える研修会であったと思います。9月になっても猛暑の中、石橋会長はじめ、畠山ブロック会長・ブロック会員皆様方のご協力・ご支援による開催でした。当日は、埼玉県の桜草色のTシャツとマスコットのコバトンで、駅から会場まで誘導。受付には、折紙の桜草・コバトンが、皆様をお迎えました。来賓の方々の心温まる励ましのお言葉をいただきました。

研修内容は、①基調講演「介護の質と介護職の人材確保・定着支援について」厚生労働省の行政説明。②シンポジウム「真に人の生活を支える介護とは」～介護の質の向上と人材確保について～高齢者施設の立場、障害者施設の立場、訪問介護の立場、行政の立場、日本介護福祉士会の立場から発言・提言を頂きまし

た。③分科会では、第1分科会「私のそのままを受け止めて」(認知症 在宅)、第2分科会「私のそのままを受け止めて」(認知症 施設)、第3分科会「心でふれあう施設の暮らし」、第4分科会「いつまでも元気でいきいきと」(介護予防)、第5分科会「障がいと共に地域で生きる」、それぞれ2事例検討で発表者・助言者の方々から深い学びを頂きました。

介護を必要とする人も、介護職もあなたと出会えてよかったと思える、そんな関わり合いができれば幸いです。参加者一同、そんな出会いであったと確信します。



東海・北陸ブロック研修会報告

富山県介護福祉士会 福野 友美

去る7月17日・18日に富山県黒部市宇奈月国際会館セレネに於いて、平成22年度東海・北陸ブロック研修会が開催された。

テーマ「尊厳のある生を支える介護」～エビデンスのある介護知識・技術を身につけよう～と題し、厚生労働省老健局課長・土生栄二氏の講演「介護保険制度をめぐる諸問題と地域包括ケアの推進について」から始まり、第1部会「認知症のスピチュアルケア」遠藤英俊氏・第2部会「介護予防とシルバーリハビリ体操」大田仁史氏・第3部会「尊厳とエビデンスに基づいた排泄ケア」田中とも江氏・第4部会「嚥下困難者のための高齢者ソフト食」黒田留美子氏・第5部会「フットケアミニ講座」瀧本泰子氏と、分科会を開き、各先生方から専門性を高める研修をして頂いた。

東海・北陸7県より400余名の参加者があったが、今回のように一つのテーマに基づき、各界のトップリーダーの研修を受ける事ができたことに対し、参加者が

らは「今後の目標・課題が見えた。大変充実した時間を共有できた。」など、前向きな感想が多々寄せられた。また、介護の仕事には辛い事も多くあるが、それでもこの仕事はとても尊いものである、と力付けられるエールも頂いた。

研修参加者一同、介護福祉士としての自覚を再認識するとともに、更なる資質の向上に意欲を新たにしたい機会となった。



中国・四国ブロック研修会報告

高知県介護福祉士会 山中 由美子

今年は全国各地で記録的な猛暑となり、あちこちで熱中症で搬送される記事が見られました。そんな暑さ真っ盛りの8月21日、22日、南国高知において、第16回中国・四国ブロック研修会を開催しました。

今回は、医療行為が介護職員にも拡大されることをふまえ、改めて介護福祉士の専門性とは何なのかを考え具体化できればという思いから「求められる介護福祉士とは？」をメインテーマとし、お蔭様をもちまして、各県から250名近くの参加者を迎えることができました。

初日は、厚生労働省の基調報告から始まり、記念講演として、ネットヨタ南国株式会社 取締役相談役横田英毅氏よりご講演いただきました。やりがいのある働き方についてや人間力、時代が求める人材像にも触れてくださり、会場の参加者も熱心に聴いていました。また、午後は、居宅と施設に分かれて実践研究発表を行いました。限られた時間のなか、活発に意見交

換もされ有意義な時間を共有することができました。現場の職員がしっかりと連携していなければ、ご利用者のよりよい生活は成立しないことも共通点として挙げられたようです。

二日目は、メインテーマ「求められる介護福祉士とは？」と題してシンポジウムを行いました。医療行為が現実化するなか、家族側が求めることも切なる声として理解しつつも、生活を支援するという専門性を忘れることなく、日々一人ひとりが問題意識を持つことが大切であると感じました。お忙しい中、参加いただきました皆様にお礼申し上げます。



ケア♡クッキング

栄養豊富な季節の野菜、じゃがいもと梨

～畑の宝物・ジャガイモ～



ジャガイモは世界中でよく食べられている作物です。日本でも馴染み深く、煮物や揚げ物と一年中料理には欠かせません。栄養価も高いのでたくさん食べ

たい食品です。昔のジャガイモは観賞用として作られました。ジャガイモの花をこよなく愛したと言われる王妃マリーアントワネットは、よく髪飾りにしていたそうです。そのため、ベルサイユ宮殿やパリの街でジャガイモの白い花が大流行したそうです。

ジャガイモはビタミンCがとても豊富です。ビタミンCは熱に非常に強く煮たり焼いたりしても破壊されません。また、体内の塩分を体外に出す働きのあるカリウムも豊富です。カロリーも同じご飯の量の1/2程度です。ジャガイモと豚肉のキンピラを紹介します。



ジャガイモと豚肉のキンピラ

<材料・4人分>

豚薄切り肉200g、人参1本、ジャガイモ2個、炒め油 大さじ1、酒 大さじ1、砂糖 小さじ1、みりん 大さじ1.5、醤油 大さじ1.5、すり胡麻 少々、一味唐辛子 少々

<作り方>

1. 豚肉、人参、ジャガイモはなるべく細かく千切りにする。
2. ベタツキ防止の為、ジャガイモは水にさらし表面のでんぷんを取り除き、ザルに上げて水気をよく切る。
3. 鍋に炒め油を強火で熱し、豚肉を炒める。
4. 豚肉に火が通り焦げ目が付いたら人参を入れる。
5. 人参がしんなりしたらジャガイモ、調味料を入れる。
6. 全体が混ざったら出来上がり。好みで唐辛子、すり胡麻をふる。

～夏の終わりと秋の初めの果物・梨～

冷やした梨をかじれば果汁がジュワツと爽やかな甘さと共に口中に広がります。昔は梨の事を「有りの実」と言っていたそうです。縁起を担いだ人たちが、めでたい席などでナシと呼ぶと「無し」という意味に取れるため、逆の言い方をして「有りの実」と呼ぶようになったそうです。

梨特有のシャリっとした食感は、果肉中の石細胞と呼ばれる食物繊維が腸壁を刺激し、便秘解消に効果があります。気になるカロリーは100g=43kcalと、とてもヘルシーです。また、カリウムが含まれ高血圧予防にも効果的です。

<梨のすりおろしでのどの痛みを解消しましょう！>

漢方では梨は熱を下げ、肺を潤し咳や痰を鎮める作用として活用されています。高熱やのどの痛む時は、梨をすりおろして食べると喉の負担も軽く効果的です。

梨は購入後できるだけ早く召し上がるのがベストです。へたの部分を下にしておくとより長持ちしますよ！



「介護の日」イベント予定表

支部	日程	実施場所	支部	日程	実施場所
宮城	11月6日	仙台駅前	滋賀	11月7・10・11日	ビバシティ彦根、イオンモール草津
秋田	11月6日	イオン御所野店、秋田テルサ	京都	11月6・7日	京都・亀岡駅前、福知山ジャスコ前、宇治市社会福祉協議会周辺一帯
山形	11月11日	山形市、鶴岡市、米沢市、新庄市	大阪	11月11日	大阪駅周辺、難波高島屋前、なんばグランド花月前
福島	11月11日	ピンクパレットふくしま	兵庫	11月11日	加古川駅前広場、元町駅前
茨城	11月11日	茨城県庁県民ホール	奈良	11月6・7日	イオンモール大和郡山
栃木	11月6・7日	とちぎ健康の森	和歌山	11月3・11日	シティプラザホテル、プラザホープ
群馬	10月30日	グリーンドーム前橋	鳥取	11月11日	ジャスコ鳥取北、パープルタウン、ジャスコ日吉津店
埼玉	11月11日	浦和駅西口 伊勢丹前	島根	11月18・19日	安木市、くにびきメッセ
千葉	10月30・31日、11月23日	茂原市アスモショッピングセンター、成田市保健福祉館、木更津グリーンシティ	岡山	11月7日	岡山県総合福祉会館
東京	11月14日	東京国際フォーラム	山口	11月14日	山口県総合保健会館
神奈川	11月7・11・13日	かながわ県民センター、横浜駅西口、小田原駅西口、小田原市けやきホール	香川	10月31日	ゆめタウン丸亀
新潟	11月6日	新潟ユニゾンプラザ	愛媛	11月14日	松山東雲学園
富山	11月11日	富山・高岡・魚津駅前	高知	11月7日	中央公園
石川	11月6日	石川県女性センター	福岡	11月11日	読売新聞紙面
福井	11月10日	AOSSA1Fアトリウム	佐賀	11月11日	佐賀駅
山梨	11月11日	甲府・山梨・甲斐住吉駅前他	長崎	10月17日	アルカス佐世保
長野	11月11日	佐久勤労者福祉センター	熊本	11月27・28日	くまもと県民交流館
岐阜	11月3日	イオン各務原ショッピングセンター	大分	11月10日	コンパルホール
静岡	11月13日	三島市民会館	宮崎	11月14日	宮交シティ東口エントランス
愛知	11月11日	オアシス21	鹿児島	11月11日	天文館通り、鹿児島中央駅前
三重	11月11日	イオン四日市北ショッピングセンター、ジャスコ伊勢店	沖縄	11月11日	浦添市てだこホール

専門性が支える介護福祉の充実のために

介護専門職情報誌

介護福祉

- ☆発行回数 年4回／春・夏・秋・冬号
- ☆購読料(年) 3,440円(4号分・送料含む)
- ☆申込み先 財団法人 社会福祉振興・試験センター
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル
TEL 03-3486-7511 FAX 03-3486-7514
インターネットによる申込 <http://www.sssc.or.jp>
郵便振替口座 00120-5-138401

この『介護福祉』は、介護福祉士の皆様の自己研鑽のため、また、施設等における介護職員の資質向上のための必携の書として大変好評を得ています。本誌は、日常の介護業務において、そこで求められる介護行為・動作等について、論理的根拠を医学・心理学・解剖学・看護学その他の面から、分かりやすく解説するほか、介護福祉士として是非知っておいていただきたい専門知識や技術・福祉機器の活用など、介護に関する最新情報を提供しています。

夏号(22年6月発行)

特集「生活支障の特性から見た介護
～さまざまな事例を通して～」

秋号(22年9月発行)

特集「介護動作と介護技術を見直そう」

第17回全国大会

たくさんのお申し込みありがとうございます。
定員にはまだ空きがありますので、参加ご希望の方はお急ぎお申し込みください。

1. 日程 平成22年12月10日(金)～11日(土)
2. 会場 フェニックスシーガイアリゾート
ワールドコンベンションセンター サミット
3. テーマ 「福祉と医療の連携 私たちは何ができて、何ができないのか」～介護福祉士の現状を、どげんかせんといかん!!～
4. プログラム
 - 第1日目
 - 開会式典
 - 基調講演 厚生労働省 (調整中)
 - 記念講演 鎌田 實 氏 (諏訪中央病院名誉院長)
「がんばらない」けど「あきらめない」
～鎌田實の幸せ介護～
 - 特別講演 藤川 幸之助 氏 (詩人・児童文学作家)
「支える側が支えられるとき」
～認知症の母が教えてくれたこと～
 - 懇親会
 - 第2日目
 - 分科会
 - 第1分科会「高齢者施設・認知症施設における福祉と医療の連携について」
 - 第2分科会「障がい者施設における福祉と医療の連携について」
 - 第3分科会「在宅(高齢者・認知症・障がい者)における福祉と医療の連携について」
 - シンポジウム「福祉と医療の連携 私たちは何ができて、何ができないのか」
 - 閉会式典
5. 主催 社団法人日本介護福祉士会
6. 運営事務局 一般社団法人宮崎県介護福祉士会
7. 申込先 名鉄観光サービス株式会社 宮崎支店
(担当: 鹿島) TEL 0985-26-1414
8. 問い合わせ 社団法人日本介護福祉士会事務局
TEL.03-3507-0784
Mail webmaster@jaccw.or.jp

編集後記

最近めっきり涼しくなりました。あの猛暑は何だったんでしょう。(;-;) あの猛暑で、人一倍汗をかいたつもりなのに、なかなか痩せないですね…話は変わり、ようやく新聞も100号発行です。バンザイ！今回から形態をガラリと一新です。これからも親しみのある新聞発行を目指していきます。(三橋)

ようやく秋らしくなってきた今日この頃。このニュースも100号になりました。第1号が発行された年は一体何をしていただろうと考えていました。次は200号。さて、何をしているのかな。(中根)

先日、研修先で道を尋ねたところ近くまで連れて行ってくれました。地元の方とのちょっとした温かい思い出です。新しくなったニュースも皆様の心に残るものとなりますように。(高木)

愛媛県支部研修情報

災害時要援護者支援を考える～新潟県中越沖地震の体験を通じて～

- 日時 11月14日(日) 10:00～16:30
- 場所 松山東雲学園 松山市桑原3-2-1
- 内容 災害時高齢者生活支援講習会の実施、田村圭子氏等による講演、シンポジウム等
- 参加費 無料
- 問い合わせ先 愛媛県介護福祉士会 TEL.089-987-8123

佐賀県支部研修情報

介護福祉士再就業支援研修

- 日時 1月13日(土)、14日(日) 9:00～
- 場所 佐賀女子短期大学
- 内容 介護・福祉関連有資格者に対する介護・福祉職再就業支援研修
- 参加費 500円(1日参加分)
- 問い合わせ先 一般社団法人 佐賀県介護福祉士会 TEL.0952-75-3292

長崎県支部研修情報

平成22年度サービス提供責任者研修

- 日時 1月6日(土)、7日(日) 9:10～
- 場所 諫早市社会福祉会館 諫早市新道町948
- 内容 かくくにこ氏、山口弘幸氏らによる講演等
- 参加費 会員500円、一般5,000円
- 問い合わせ先 一般社団法人 長崎県介護福祉士会 TEL:095-842-1237

会員の皆様からの投稿をお待ちしております！

「日本介護福祉士会ニュース」に掲載する以下の記事について、会員の皆様から投稿を受け付けております。全国の会員にアピールする機会にもなりますので、奮ってご応募いただきますようお願いいたします。

◆ 現在募集している記事 ◆

☆「介護の現場で輝いています！」

内容：自己紹介(100字程度)、「介護」という仕事の楽しさややりがい、印象に残っている事例など。
文字数：自己紹介を含め800文字程度(写真を除く)
資料：ご自身の活躍の様子が分かる写真を1枚ご提供いただきたく存じます。
(執筆者以外の個人が特定される写真の場合、事前にその方のご了承を頂いて下さい。)

☆「私のストレス解消法」

内容：介護福祉士である皆様が日頃取り組んでいるストレス解消法を広めてみませんか？身近にあるものを使って簡単に取り組める、独自のストレス解消法をお待ちしています。
文字数：250～600文字程度

☆「手作り介護用品」

内容：あなたの職場で使われている手作り介護用品を教えてください！作り方はもちろん、その介護用品に対する利用者や職員の声もお聞かせいただきたいと思います。写真やイラストを使っていただいても構いません。
文字数：250～600文字程度(写真又はイラストを含む)

※原稿提出先及び投稿に関するお問い合わせはこちらまで。
社団法人日本介護福祉士会 事務局(担当: かんた)
電話 03-3507-0784 FAX 03-3507-8810
メール webmaster@jaccw.or.jp

